

他幽霊話、特に古の大家屋に關して此話しをしてゐる、現に數多の古屋敷には幽霊の出るのを見たと云つてゐる。貴族の紳士淑女が出る、前者は長刈髪に長袖剣を佩き、後者は打開いた袴を穿つて月夜に錦の模様が、大廣間を彼所此所と歩るゐて居るのが見える、是れが彼れ等の朝服であつて昔の家主の幽霊だと思惟されてゐたのであつた。

註 catalogue 目錄. wonder 不思議又は名所. saurs セントボアルの鐘が鳴るとヒイルが腐る. The figures 數字のある所に行くときを打つ. St. Dunstain's clock 此等の寺にては、時計は各大きな槌をもてる二つの數字にて打たる. Monument は 1666 の倫敦大火記念の爲に 1680 年に建てらる. The Lions 倫敦塔の四つの門の一なる Lion's Gate の像. Guillo 既出. tolerable subsistence 可なりの生活をする. promissing 縁談の判断をする. comets and eclipses 星長の蝕する事. dolefully 哀しく. full-bottomed wigs フルボットムドは假髪の種類、頭部より肩まで下つたもの. hanging sleeves 長袖. lappets 裾. stays 胸を張るに使用する道具. hoops 裾を張る爲めに使用する道具. brocade 錦、金襴. proprietors 創設者.

【譯】小英國には同様に聖人偉人と稱するものがあつた。前者の内で最も主なるものはスクライムと云つて脊の高い無味な老人で、藥舗を開いて居た。此老人の面貌は死人の様で、凸凹だ

らけである；それから目の周圍には角製の眼鏡の様な褐色の輪が附いて居る。古老等は此人を魔術師だと考へてゐる、何故かと云ふと店の内に鰐魚の剥製したのが二ツ三ツと數多の蛇の瓶詰があつたからだ。此老人は曆本と新聞の大讀書家であつて、特に反逆事件、暴動、火事、地震、火山の破裂等の研究に腐心してゐるが；特に最後の現象は時に關するものだと考へてゐた。彼れは平常斯る怖ろしい話しを自家の客に聞かして、同時に身心共に慄えしめてゐた。彼れは又吉兆とか前兆とか云ふものを信用してゐてロバート・ニクソンヤ、マザア・シプトン等の預言を暗記して居た。此人程日月蝕其他不吉の日等を知つてゐる人はなかつた；日月星辰の話の最後には彼は彗星の尾を振つて是れを聽者並に弟子共の頭上に置いて殆んど氣絶する迄に怖がらせるのであつた。近來に至つては最も名高い昔噺其他預言等を手に入れて非常に雄辯家となつた。斯う云ふ事を貯へてゐる昔の女預言者中にはこんな事が流行してゐた；それはエキステエンジの土の蟋蟀とボウチャアチの尖塔の龍とが握手をすると必ず

怖ろしい事變が起ると云つてゐた。此不思議な推察が事實となつてしまつたらしい。同じ建築師が近頃エキステエンデの丸屋根とポオチャアチの尖塔の修理に従事してゐると、不思議にも龍と蟋蟀が其技士の工場で仲善く握手をしてゐたと云つてゐた。

註 sages and great men 聖人や偉人. dry old man 無味な老人. apothecary's shop 藥種屋. cadaverous 死人の様な容貌. cavities は凹所. projection 突出したところ. pronoun circle ... 目の縁に褐色の輪が出来ている. much thought of ... 時に婦人連からさう思はれた. conjurer 魔術師. almanacs 曆本, 即ち古るい事と新しい事の意味. given to pore 研究する, 腐心する. plot 陰謀. conspiracy 反逆. alarming accounts 怖ろしい事件. volcanic eruption 火山の破裂. latter phenomena 即ち火山破裂の現象. dismal tale 恐ろしい話. deal out 分配する, 即ち話してきかせる. customers 華客. omens and ... 前兆と預言. Robert Nixon 昔の預言者. Mother Shipton 十七, 十八世紀頃の預言者. make out 發見する. dark day 不吉の日. and he shook ... 日月星辰の話の結果は俗に怪物と稱されてゐた彗星の尾を振つて是れを頭上に加へた, 即ち掉尾の恐怖を懐かせたの意. frightend and of their wits は氣絶する程怖がらせたの意. current 流行してゐた. sibyl 女預言者. grasshopper 蟋蟀. dragon 龍, 是れ等が家屋の尖塔風見の土に飾りとして附けてある, それを修繕の爲めに取り下したのである. cupola も steeple も家屋の高塔. cheek by jowl 仲善くして, 顔

をすり合はせて。

【譯】“其他”スクリム氏は常にこんな事を云つてゐた, “それは星を観測して星晨の行き合ふ様を見る事が出来るかも知れないが, 然し既に下界, 然かも直ぐ近所で, 我々の目の前で, 天文學者の観測を凌駕する様な行き合を見る事が出来た。”何故かと云ふと是等不祥な風景が既に顔を合せたから, 不思議な變事が起つてゐるではないか。老キングは八十二年間在世したに係らず幽霊は見た事がなく; 他のキングは帝位に登つたものもある; 皇室出の公爵は不意に死んでしまつたし——其他佛蘭西ではキングの殺されたのもある; 英國の至る所には急進的の會合が出来てゐる; マンチエスタアで血腥い事件があると; カトオ街には大暴動が起る——就中, 女王が英國に歸つた等は其最たるものではあるまいか! 是等の不祥な事は皆スクリム氏が變な容貌をして奇異に頭を振りながら考へたものであつて; 自分の藥の評判の善いのと, 聽者の心に剝製にした海の怪物, 瓶詰の蛇, 其他自分の奇怪な容貌が怖しい連想を起さして, それが所謂人驚かしの見出しと爲り, 小

倫敦の人心に一大疑惑を播く事になつたのであつた。彼れ等がボオチャアチに行く度に頭を振つて昔は芽出度い事ばかりあつたのだから、今では尖塔を取り下ろせば必ず善い事はないと思つてゐた、それはホイチンタンと彼れの猫の話しが實事を證明してゐる。

註 accustomed to say 常に斯く云つてゐた。 star-gazing 天淵。 conjunction 天體が行き違ふ事。 But 以下は天體の會合を觀察するやうに既に地球上 蟋蟀と龍の會合があつてゐるとの意。 surpasses 凌駕する。 calculation of astrologers 天文學者の計算。 portentous 不祥、不吉なる風見。 laid.... 頭を突き合せた。 radical meeting 急進的の會合。 sinister 不祥の出來事。 taken with... 藥の評判のよいのとかてて加へての意。 associated.... 種々の怪物を連想させる。 visage 容貌。 title-page 見出しのページ。 tribulation 苦痛。 Whittington 貧賤から身を起して倫敦の市長になつた有名な人にて猫を賣つて大金を得立身の基をつくつた有名な話あり(1777年市長となる)。

【譯】小英國で是れと對待するものは、自分のチェシア製の乾酪の中に圓く膨れて立派に住んでゐる虱見たいに自分の古い家屋の一部に住んでゐる相當の資産のある乾酪商である。實際彼れは身分も地位も賤しからぬ人であつて、彼れの名聲はハギンレエンやラッドレエンさ

てはアルダアマンベリイ迄も聞いてゐたのであつた。彼れの説は國家の事に論及してゐた、是れは過去五十年間週刊新聞並に紳士雜誌ラビンの英國史、海軍記録等を讀んでゐたからである。彼れは又現在過去共に有用なる格言等の蓄に深かつた。彼は又かう云ふ説を持つてゐた、即英國が眞面目である間は決して動搖を來たす事なぞは道義的に不可能であると國債の事に関しては多くの意見を有し、それは兎も角大なる國民的堡障と幸福であると考へてゐる。彼れは殆んど全生涯を小英國の町境で暮してゐて、晩年に至り日曜等には出かけて世間の有様も見る事が出来る位に財産も出來たのであつた。そこでハンプステッドや、ハイゲエト及び其附近の町に度々見物に出かけて望遠鏡で町の有様を見ながら全半日暮して、聖バアソロミュウの尖塔を探した事もあつた。ブランマウス街では馬車屋等も彼れに會つて帽子に手をかけるものもなかつた；彼れは單にグウス又はグリデイロン、さては聖ポオル寺院の廣場に於ける馬車屋丈に華客となつてゐたのであつた。彼れの一家の人々はマアゲエトまで見

物に行つたら善からうと勧めたけれども、當世のハイカラものや蒸氣船等には尙ほ疑を存して、特に海路の旅を思ひ立つが如きは餘り進歩過ぎてゐると考へてゐたのであつた。

註 oracle 預言. substantial cheese monger 資産のある乾酪商. fragment 壊れた一部. magnificently 立派に. round-bellied 圓く肥えて腹の大きな. mite 蠹. cheshire はチエシイアに於て製する乾酪. standing and importance 地位もなく有要な人物でなかつた. renown 名聲. affairs of state 國家の事柄. Sunday paper 日曜日發刊する新聞. Gentleman's Magazine 紳士雜誌とも稱すべき雜誌の名稱. invaluable 價値の大なる. maxims 格言. borne...百年も以前に用ひられたが何時でも興味のあるもの. national debt 國債. national bulwark 國家の干城. blessing 幸福. purliens 町外れ. Sunday cane 日曜に杖などもつて散歩する意. telescope 望遠鏡. gimcrack 安物、價の安いもの.

【譯】此小英國には時々黨派と云ふものが出来て一時は葬祭會なるものが二派に別れて互に其黨の主義を闘はした事があつた。一方は酪商人連で組織されてスワン・アンド・ホオス・シユウに於て會合し；他は藥屋連中の發起でコック・クラウンで開催してゐた；無論後者の方が盛大であつた。余も二晩三晩雙方の會に行つて見て、有益な事を覺えて來た、即ち墓地で比較的最も有效なる埋葬方法及び、特許の鐵棺等種

種のヒントを聞いて來た。それから種々論議の末後者は耐久力の點から禁じた方がよいと云ふ事も聞いて來た。時々黨派の争ひ事があつたけれども今では幸にしてそんな事はなくなつた；然し是れは以前からの確執問題であつたのであつて、小英國の人々は葬祭上の面目を重んじ安らかに墓所に眠る事を大切に考へてゐた。

註 occasional 時々. factories. 黨派. ran very high 盛んであつた. Burial Society 葬祭會. set up 設立した、即ち始めたの意. patronised 限られてゐた. auspices 保護の下に. valuable...價値ある事. divers 種々な. churchyard 墓地. discussed 議論を闘はす. durability 保特力. on account of 爲めに. bearings 態度、所置. feuds 争ひ. occasioned 時々あつた. controversy 論争.

【譯】此二派の葬祭黨の外に第三派として異彩を放つてゐたものがあつた、それは全町に亘つて滑稽の光を投げてゐたのであつた。それはワグスタッフと云ふ至極面白ろい宿の主人が所有してゐる小さい古風な家に一週一回開會するのであつて、徽章としては光輝ある半月の形と間違がう様な葡萄の繪を表はしてゐる。此建物は渴した旅人の目を惹く様なものが澤山

書いてある；例へば“ツルウマン、ハンベリイ、コオス・エンタイア、”“酒類、ラム酒、ブランデエ部、”“オールドトム、ラム酒アンド・コンバウンド”など。是れは大昔から酒の神様の御堂であつた。これは又常もワグスタッフ家の内にあつたから、其歴史も現今の家主によつて可なり保存されてゐる。此所はエリザベス時代には武者騎者等が出入としたもので、時々チャアルス二世の検査を受けた事もある。然しワグスタッフ氏が就中最も誇りとしているのは、ヘンリー八世が偶々夜散歩してゐた時に彼れの有名な杖でその祖先の一人なる頭を打碎いた事である。然し此事は、寧ろ家主の訝かしい自惚れ話しと考へられてゐた。

註 different cast 少々毛色の變つたの意。sunshine は別に意味なく形容に過ぎない。tends to ...何々の傾向がある。publican 酒場の主人。insignia 徽章。resplendent 光澤ある。seductive 迷はす様な。inscription 文句、文題。wayfarer 旅人。Truman, Humbery ..此等はビールの銘名なり。Bacchus and Momus 酒の神即ち松の尾様。tolerably 可なり。preserved 保存される。frequented 屢々足を運むだの意。gallants 勇者。cavalieros=cavaliers 騎兵。looked into 検査された。by the vits of...チャールス二世の抜目のないで。nocturnal 夜の。walking staff 杖。dubious 訝かしい曖昧な。vain glorious 自惚れ、自慢の。

【譯】さて遇會を此所で開會すると云ふクラブには小英國咆吼青年會と云ふ名稱が附いてゐた。彼れ等は土地傳來の詩歌、饗宴、昔噺等を多く行つて、是れは決して町の他の場所では會合しない。それから蠻行發起人と稱するものがあつて其人の面白ろい歌と來てはとても比類がないのであつた；然しクラブ生活、及び小英國の大立物は、暴漢ワグスタッフ氏其人であつた。彼れの祖先も同様剽輕物であつて、其家と共に多くの歌詩、諧諷を譲り受けたのであつて、殆んど遺産の様に代々繼承してゐたのであつた。彼れはチョコマカナ小さい男で、鴨足、太鼓腹で顔赤く、目は濕るんでも愛嬌があり、白髮の頭を一寸と後にもたげてゐる。クラブ開會の晩には必ず此人を呼んで得意の“信仰の懺悔”と云ふ歌を歌はせる、これはガンメル・ガルトンス・ニイドルからの有名な酒宴輪唱歌である。無論彼れはそれを自分の父から口移しに教つた通り随分變調子に歌ふけれども；ハアフムウンやバシチ・オブ・クレイブスにてはそれが最初に書かれた時分から不變の愛吟であつた；のみならず自分は小英國全盛時代にはクリス

マスの假裝舞踏會等で貴顯紳士の前で歌ふの
光榮を有したと云つて居る。

註 weekly sessions 週會. abound in 豊富, 多數であつた. catches
輪唱歌. glees 樂宴. traditional 傳來的の. met with....
metropolice 即ち市の他の場所では見る事が出来ないの
意. madea, undertaker 亂暴の發頭人. inimitable 眞似る事
の出来ない無類の. life of club 倶楽部の花即ち生命.
bully 圓く肥つた. wag 馴輕物. heirlooms 傳來物即ち遺
産. dapper 敏活な, 猪口才な. bandy legs 足の彎形になつ
てゐる. post belly 腹の膨れた. drinking trowl=troll 酒を
飲んで歌ふ一種の歌. Gammer Gurton's Needle 沙翁の生
後二年 1566 年に作られた英國最初の喜劇. variation 調
子外れで. standing favorite 何日も變らぬ愛顧.

【譯】半月信仰懺悔の歌の主人公なるものは讀者の多數に
は知らざる人もあるべければ、小英國の流行歌でもあ
るし、現文の儘是れを附記する事とすべし、全クラブ員
がテーブルを叩き錫の皿を打ち鳴らして是れを合唱
したと云ふ事を聞いてゐる。

肉は少しか食はれない、
私の御腹がよくないから、
然し私は飲めると思ふ
頭巾被つたあの人と
肴物はなくても構やんな
私しは少しも寒かない、
私の身體はふくれてる
面白や甘い古酒で一杯

合唱 “何處でも此處でも赤裸々に、
手足は幾程寒くとも、

御腹が酒で膨れるならば、
よしや古くても新しくても。

焼肉なくて焼胡桃、
蟹は爐中で焼けてゐる、
パンは少しで結構だ、
わしは多くは望まない。
霜雪風も私を、
決して害する事はない
わたしは身體入膚をば
古今の愉快で包んでゐる。

合唱 何處でも此所でも赤裸々に

.....

【譯】此クラブの開かれる晩に、此面白ろい叫び聲、
歌の續き工合、さては變調な聲が半ダマスも合
唱して、此愉快な家から流れ出るのを聞いてゐ
ると誠に面白ろい。此時には街路では癡者が
列を爲してゐて藥種屋の窓を見てゐる人も割
烹店から出て來る湯氣を嗅きながらも、同じ愉
快を感ずる事が出来る。

註 discordant voice 不調和の聲. jovial mansion 愉快な家. con-
fectioners window 菓子屋の窓. snuffing....料理場から出て
來る御馳走の香を嗅ぎ菓子屋の窓から甘まさうな菓
子を見て喜びながら面白い歌を聞くの意。

【譯】此小英國では大雜沓を來す出來事が毎年二
回ある；是れは聖バアソロミユウ市とロオド。

メエヨル・デイである。市が附近のスミスフキ
 イルドに開かれてゐる間は勝手な事を喋べつ
 て遊び廻るばかりである。遅く静かな小英國
 の町には、種々顔も風采も異つた人が入り込ん
 で来る；各酒場は酒興遊宴の巷となつてしま
 うのであつた。琴の音歌の聲が朝晝晩を問は
 ず酒場の窓から漏れて聞え；それから窓の内
 部には楽しみ仲間の一団が目の縁を弛めて、帽
 子を横つちよに冠り、煙管を啣へ手には杯を持
 つて、楽しく管を巻きながら酔どれ歌を歌つて
 ゐた。私の近隣の内で平常は最も禮儀正しく
 嚴格を云ふ方の人でも、此宴樂の節に反對する
 ことは出来ないのであつた。無論此日には下
 婢等も全部外出を許してしまふ。彼れ等の頭
 腦は滑稽演劇；人形芝居；曲馬；ポット君；
 手品師；有名なバアブ君；ライルランドの大
 男等で熱してしまつてゐるのであつた。子供
 等も休日の小使錢は悉く玩具、銀紙包の生姜糖
 に使つてしまつて、家中は大鼓人形、喇叭、笛等
 一杯になつてゐたのであつた。

註 stir and sensation 大騒動大雜沓。St. Bartholomew's Fair 最初
 1133 に開かれ 14 日間つづいた其後四日となり、やがて
 8 月 21 日から 9 月 3 日と變更された。Lord Mayor 倫敦市

長. adjoining region 附近の場所. gossiping and gadding 無次
 話しをしてアラアラ散歩する事. over run 充滿する.
 irruption 入込んで来る. tavern 酒屋. rout 馬鹿騒ぎ. revel
 痛飲する. fiddle 〔琴. tap-room 酒屋. boon companion 飲み
 仲間. tankard 大コップ. prosing 同じ事を繰り返して喋づ
 る即ち酒飲みの管を巻く事. mandlin 酒を飲む時歌ふ子
 供歌. over their liquor 酒を飲みながらの意. sober decorum
 むツせりとした禮儀正だじい人. saturnalia 宴樂の節.
 absolutely 全々. punch 滑稽な事、芝居其他. puppet show 人
 形芝居の類. flying horse 馬使ひ. signior polits 手品師等の
 名. Mr. Paap 前記同様のもの. fire eater 火を食つたりす
 る手品師. Giet gingerbread 生姜の混つた餅. Lilliptian....
 太鼓を打つ小さい人形.

【譯】此ロオド・メエヨル日と云ふのは大紀念日
 である。ロオド・メエヨルは小英國の住民か
 ら此世に於ける大君王と仰がれているのであ
 つて、人類全盛の極としての金色燦爛たる六頭
 立の馬車に乗り、彼れの行列には立法官參事官
 を殿に従へ、此世に於ける最も壯嚴なるものと
 されてあつた。彼れ等の理想が如何に高かつ
 たかと云ふ事は帝王でさへもロオド・メエヨ
 ルの許可を得なければ先づテンプル・バアの
 門を訪れて市に入る事を得なかつたのを見て
 も解るのである！若し無斷で入るが如き事が
 あると、それこそ、どんな結果を産み出すか知れ

ないのである。ロオド・メエヨルの前を武装して乗馬で行く人は市の勇者であつて苟も市の體面を汚すものは是れを切り捨てる命を受けてゐるものである、それから馬車の窓には天鷲絨のボリソジャアを冠つた小さい人が市の劍を携へてゐる、其劍の長さは杖位のもので——恐るべし萬一劍が抜かれたならば陛下と雖も命が如何なるか知れないのである。

註 anniversary 紀念日. looked upon 仰がれる. potentate 主權者. gilt coach 金色燦爛たる馬車. procession 行列. sheriff 法官. aldermen 代官. in train 後に従ふ. pageants 見物. Temple Bar 倫敦の Temple の前なる有名な門にて、皇帝も市長の許なければ入ることも出来ぬ習慣である. heaven and earth 如何しても. city champion 町中で一番の豪のもの. porringer 冠. pikestaff 杖. Odd's blood! それこそ大變だ、只では濟まぬの意。

【譯】 それ故に此大君主の保護の根に、小英國の良民は平和に眠る事を得るのであつた。テンプル・バアは總て内方よりする敵に對する有力なる障壁であつて、外國の侵入に對してはロオド・メエヨルは砦の中に這入つて、民兵を召集し、手兵の常備軍を武装して世界に對して戦を挑む事が出来る！

註 protection 保護. effectual barrier 有力な障壁. interior foe 内部の敵. foreign invasion 外國の襲來. has but... 何々するより外に仕方がない. train-bands 民兵隊. Tower 倫敦塔の事にて古來宮殿たり、城たり、監獄たり時々に変化せり. Beefeater 倫敦塔の警衛にあたる武装したる兵士. standing army 常備軍。

【譯】 斯く自己の利害習慣、所説の内に圍繞されて、小英國は此大都市の精隨として長く榮えたのであつた。私は此所が所謂樸直なるジョングルの主義が貯藏してある唯一の場所であるかと思ふと愉快で堪らなかつた、即ち國民性なるものが墮落腐敗に走つた時に是れを改新する種子の様に思はれた。私は又一般に調和的思想が其所に流行してゐた事も喜ばしく思つた；最も時に乾酪商側と樂屋黨との間に意見の衝突及び葬祭會の間に確執等があつたけれども、然し是れは一時雲がかつたのである、直に過ぎ去つてしまつた。近所の人々も蔭ではいざ知らず、好意を持つて應對し、別れる時には必ず握手をしてゐた。

註 wrapped up 圍繞されて. its own concern 心配即ち利害. flourished 榮えた. sound heart 健全なる中心. fungous 多様なる. chosen spot 精隨な個所. principle 主義. sturdy 粗樸なる. garnered up 貯蓄されて. national character 國民性。

had ran....degeneracy 墮落し始めた時に. prevailed 流行する. now and then 時に. clashes of opinion 意見の衝突. adherent: 味方即ち乾酪屋と藥屋の味方. transient cloud 只一時の雲行き. never abused,... 隆では人の悪口も云ふが觀面に論争する事はない.

【譯】私は又自分が實際に望んだ心地のよい小宴會の珍しい事柄を記載して見やう; そこで私等はオオルフォア,ポオブ・ジョン,トム・カム・ティックル・ミイ等其他昔の遊戯をして遊んだ事があつた; それから又或る時はサア・ロジャア・ド・カバリイの曲に連れて古るい英國の田舎躍りをやつた事もあつた. 又一年に一回近隣の人々打連れてエツピング・フォレスト無禮講に出かけた事もあつた. 木の下で芝生の中で宴會を催す愉快を見ると何人でも心地がよくなる. 小ワグスタッフ君の歌又其滑稽を好める事が如何程にか大笑をさして森の中に鳴り響いたであらう! それから御馳走が終ると若い人等はブライントマンズウバフとかハイダンドシイクの遊を始める; 茨の中を絡まり歩き,美しい娘子達が跳り廻つて藪の中から聲を立てる等を見るのは實に愉快なものである. 老人連は政治問題を聞かんとして乾

酪商人や藥屋の周圍に集まる; 彼れ等は田舎で怠窟凌ぎに,ポケットの内に新聞紙を持って來てゐる. 彼等には時に,必ず,議論が熱して來る; 然し此争は顯の二重になつた傘屋の老人の斡旋で調停されてゐた,彼には問題は何か解らぬけれども兎に角雙方に都合のよい様に結着を附けてゐた.

註 ^{rare} rare description 珍しい記事. junketing 小宴會,同僚會. all-fours, pape-Jone, Tom-come-tickle-me 等皆遊戯の名. tune ...サアロジャアドカバリイの曲に合わせて. gipsy party 無禮講. banquet 宴を張る. blinded man's....盲目鬼兒つ子の如き遊戯. warm in argument 議論が熱して來る. some how or other どうかかうにかして.

【譯】某哲學者や歴史學者の説によると,總て國と云ふものは變化,改革と云ふ事に逢合する運命を有してゐる. 即ち華浮革新の思想が侵入して來て; 爲めに黨派を生ずる; 同族屢々相起つて,其野心,陰謀の爲めに全體の秩序を紊亂して終ふ事がある. 斯の如く近來に至つては小英國の安寧も残念ながら攪亂されて,其精華としてゐた質樸な風習も全々隱遁してゐた肉屋の一家の繁盛によつて,滅亡させられんとするに至つたのであつた.

註 philosopher 哲學者. Historian 歴史家. doomed 運命を有している. revolution 改革, 革命. Luxury and innovation 浮華革新. creep in 侵入して来る. faction 黨派. ambition and intrigues 野心と陰謀. tranquillit. 平和. grievously disturbed 遺憾ながら擾亂された. golden simplicity 精華と稱すべき質樸單純の氣質. subversion 滅亡, 破壊に相遇した.

【譯】ラム氏の一家は附近では久しく最も繁榮で評判な家に數へられた; ラム嬢は小英國中の美人であつて、老ラム氏が多大の金を儲けて店を閉ぢ、自分の家の戸に眞鍮板の名札を掲げた時には人皆が大いに喜んだ。然るに好事魔多しとやらで此ラム嬢中の一女が毎年催される市長夫人の大舞踏會で夫人の御附きとなるの光榮を得たのであつて、其當時彼女は三本の大きな駝鳥の毛の著いた帽子を冠むつてゐたのであつた。是れが病み附きとなつて; 彼れ等は直ちに上流社會の慾望を以て汚される様になつた; 即ち一頭立ての馬車を仕立てて、使丁には一寸した金モオルの著いた帽子を被せ、其以後附近の人々の嫌忌の話の的となつたのであつた。彼等は最早ボオブ・ジョンやブラインド・マンス・パフ等をして遊ばぬ様になつた; 彼等は小英國で何人も聞いた事のない、コオ

ド・ソイルと云ふ舞踏の外やらない様になつてしまつた; それから小説を読み、まづい佛蘭西語を話したり、ピアノを弾く様になつてしまつた。彼れ等の兄等も、是れまで代辯人等に弟子入をしてゐたものが、此土地には見る事も出来なかつた洒落物、批評家の如き性質を表はし、此名譽ある小倫敦の人士をキインかオペラさではエディンバーク・レビユウの様に混淆する様になつてしまつた。

註 The family of lam ラム家即ち肉屋の事. thriving and popular 榮えて評判の善ひ. belles 美人. shut up shop 店を閉ぢる、即ち商賣を止める. an evil hour 惡るい事にはの意. grand... 例年の大夜會. three towering... 三個の高い駝鳥の羽毛. never got over it 是れが病み附きとなつた. smitter-with... 其情緒で汚されてしまつた. errand's boy 別當. detestation 嫌がられる. could no longer... 最早遊ぶ様な氣は起らなかつた. quadrilles 四人で跳る舞踏. articulated=apprenticed 弟子入をして居た. dandy 洒落物. Kean 當時1820年の春名優エドモンド・キインはドルウイ・レイン座にて沙翁劇を打つて成功して居た. Edinburgh Review 1802年發刊の雜誌.

【譯】此位ならばまだしも、ラム氏は遂に大舞踏會を開催したが、昔の隣人の誰れも招待しなかつた; 之に反してシオバルトス・ロオド、レッド・ライオン・スクエア、其他西部の紳士の多數を

招待した。グレエス・イン・レエンや、ハットン・ガアズン等からは彼れ等兄弟の知己なる好男子連が數人來るし；三名の立法官夫人は各其令嬢を伴つて來る。斯くなると是れは忘れる事も打遣つて置く事も出来ない。小倫敦は鞭のしなる音、瘦せ馬を鞭打つ音、貸馬車の轟々轆轤の音で耳を聳せんばかりとなつた。附近のお喋り達は各自の窓から頭巾を冠つたまま狂へるが如く飛び行く車を見てゐるのであつて；隱遁肉屋の眞向ふなる家からは年の寄つた惡る仲間の一團が注視を怠らず、來る客毎に精細な批評を加へてゐた。

註 genteel company 紳士仲間. beaux 好男子連. forgotten or forgiven 忘れる事も許す事も出来ない. smacking 鞭のしなる音. lashing 鞭で打つ. hackney coach 貸馬車. popping... 寝頭巾を窓からつき出す(西洋人は寝る時に頭巾を冠る). vehicle 車. rumble by 轟々と通過する. virulent old crony 惡るい老塊連. scorned 精細に批評をした。

【譯】此ダンスが殆んど公けな争鬭を惹起して、附近の人は争つて最早ラム氏には言葉を換はさぬと云ふ事に決議してしまつた。無論ラム夫人は自分の仲間の交際がない時には自分の舊知己を招いて小笑話會を催して、心置きなく、全

くね、と云ふ調子であつた；それから招かけられた方も最初は決して行かぬと云つてゐても遂に是れに應じた事も事實であつた。のみならず招かれた婦人連はラム嬢が變調に弾くピアノのアイリッシュメロディを喜こんで聽いてゐるのであつた；それからラム夫人の立法官ブランケット氏の一家、ボルトン・オクン・ワアド、クラッチド・フライアアの富豪の後取り娘チンパレエキ嬢等に関する話を非常な興味を以て傾聽した；然し自分等の良心を糺して、自分等同類から非難を避けんが爲めに次會の雜談會では是れまでの事を引張り出して、ラム並に其宴會を完膚なく罵るのであつた。

註 open war 敵對行爲. declared 宣告した. engagement 約束. quality acquaintance 身分仲間即ち上品仲間. humdrum 平凡な. junketings 茶話會. old crony 舊仲間. good ladies は御人善しの婦人連. condescend to strum 謙遜して下手に弾する、即ち謙遜した上手ならよいけれども. anecdotes 傳記. relieve their conscience... 氣を取り直す、即ちラムの家に行つたと仲間から攻撃されるのを避ける爲めに. canassing 擔き廻す、ふれまはすの意. convocation 會議. pulling... ラム家を完膚なく罵る事。

【譯】ラム氏の一家族は兎に角主人公の舊問屋さん丈は決して時代に伴なはぬ、名前丈はラムと

云つて順^{おと}なしい全く質樸な實のある老人であつたが、音聲はライオンの様で、頭髪は黒く靴ブラシの如く幅廣ろの顔は自己が食する中肉見た様に斑になつてゐる。娘共は彼れを老紳士として聲柔かに父上と呼び尙ほ化粧著に著換へてスリツバを穿けとか其他紳士らしい風をせよと頼んだけれとも是れは無効であつた。彼れ等が何と云つた所で到底此問屋を説き伏せる事は出来なかつた。彼れの頑固な性質はこんなお諂の中から遠慮なく飛びだしてしまつた。彼の愉快な凡庸な滑稽はとても抑壓する事は出来なかつた。彼れの無垢なる諧謔は過敏な娘共を震盪して；彼は如何しても朝の青い綿布の上衣を著て、二時に飯を食つて、只少量の茶とソオゼイジを食ふことを主張するのであつた。

註 fashionable... 氣取屋にならぬ. in spite of 係はらず. meekness 柔順. rough 粗野な. hearty 面白ろい. mottle... 牛肉の表面の様に顔にブツブツでこぼこがある. infinite softness 極めて穏かに. to coax him 口説き落す. dressing gown 晴れ著. Do what they might 何とでもするならせよ. keeping down 口説き下す事は出来なかつた. break through 飛び出す. glozing 御諂らい. vulgar... 俗な諧謔. irrepresible 抑へる事が出来なかつた. persist in... 何としても言ひ張るのであつた。

【譯】彼れも亦自分一家の不評判を受けねばならぬ運命となつてしまつたのであつた。彼れは自己の舊友等も漸次冷膽に禮義正しくなつてしまつて；最早彼れの諧謔を笑ふものもなく；屢々それとなく嘲笑をなげ；自業自得等と云つた暗示をなげられる様になつたことを知つた。是れがさしにも正直な肉屋さんを、もどかしからせ、當惑させた；そこで其夫人令嬢共は拔目なき女性の、全手腕を盡し、機會を利用して、ワグスタッフ氏の家で午後烟草をやめ酒を飲まず；食後は何處へも行かずに、自分の餘り好まぬ飲料の葡萄酒の一ピントを取つて淋しく無聊に自己の倚子に坐つてゐる様に彼れを口説いてしまつたのであつた。

註 unpopularity 不評判. comrades 仲間. cold and civil 冷膽で堅苦しくなつて來た. some people 自分の一家の事を持にそれとなく遠廻しに云つたのである. fling 罵しる. quality binding 身分の爲めに身を縛られる事. nettled and perplexed 怒らせて困らせた. consummate policy 十分な手腕. shrewed sex 敏活な女子の性. prevailed upon 説きふせた. pint of port 葡萄酒の一ポイントは一合位. to nod 頭を下げて居寝むうをする事。

【譯】ラム嬢等は佛蘭西ボンネットを冠つて、名も知られぬ色男等と町を聲高々と話し且つ笑ひ

ながら是れ見よがしに散歩する様になつたから、是れを聞いた眞面目な婦女子は氣を腐らす様になつた。彼等は佛蘭西の舞踏の師匠を助力せんとするまでに至り、彼をして其近所に開業せしめんとさへしたが、小英國の有力者連は大に是れに反對して、ゴオル氏を難した爲めに、氏は琴も舞踏靴も早速荷がためして退却するの餘儀なきに至り、宿料さへ拂ふのを忘れて逃れ去る様になつてしまつた。

註 flaunting along 自慢して歩く。unknown beaux 名も知れぬ色男。distressed the nerves 氣を悪くした。went so far as... 遂に何々までもする様になつた。patronage 助力をする。took fire at it それに大反對を稱へた。fain to ... 何々する様に餘儀なくされた。dancing-pump 舞踏靴。precipitation 匆卒に、即ちほうほうの態で。

【譯】私は最初團體が斯くの如く思つたのは單に善良なる舊英國の習慣を保存せんとする熱心と、革新の念の溢るるが爲ならんと考へて自負してゐたのであつた；故に私は彼れ等が俄か造りの自慢、佛蘭西の風俗、ラム嬢等に對して弾劾を表はす慎重なる批難であると賞讃してゐるのであつた。然し悲しい事には私は直に是れが彼れ等に傳染した事を語つたのであつた；

それから私の近隣の人々は、惡口を云つたものの、直ちに其眞似を爲し初めたのであつた。私は私の宿の妻君が夫に一學期は佛蘭西語と音樂を教へてゴオドクウルの舞踏の少しは教へて置かねばならぬとねだるのを聞いた事もある。私は又五六度の日曜中に、少なくとも五人以上の然かもラム嬢と同じ様な佛蘭西ボンネットを冠つて小英國を散歩するものを見た事があつた。

註 flattered myself 善意に解してゐた。indignation 怒り。community 此社會に於て。overflowing .. 熱心が溢れて。horror of innovation 革新に對する恐怖。applauded 賞讃した。silent contempt 微かに輕侮する。vociferous 喧騒、即ち隨分騒動してゐたが沈黙を守つてゐた。upstart 財金家。perceived 會得した。infection 傳染する事。had taken hold 捕はれた、即ち傳染する所となつた。condemning 批難する。importuning ねだる、即ちせがむ事。parading about 是れ見よがしに散歩する。

【譯】私は尙ほかう云ふ事を望んでゐた、それはこんな愚な事は漸次消滅するだらう；ラム等は此附近から移轉するだらう；又死ぬるか、それとも代言人の内の使用人と一所に逐電するかも知れぬ、それから靜肅と質樸の風がまた此社會に恢復されるだらうと思つた。然しながら

不幸にして競争者が出来た。金満家の油屋さんが死んでしまつて、後家さんと温順な娘に多数の遺産を残した。若い婦人共は以前から竊かに謹嚴な父の吝嗇に不平を鳴らしてゐたのであつたが彼れは總て彼れ等の華美な慾望を抑壓してゐるのであつた。ところが彼れ等の慾望も、最早制御される事はないから愈々爆發してしまつた、それから肉屋の向を張る様になつたのであつた。然しラムの方が率先者であるがため常に流行社會に於ては彼れ等に一步進んでゐたと云ふ事は事實であつた。彼れ等は拙い佛蘭西語を少々許り話し、ピアノを弾き、コオドクウルを舞ひ上流社會と交際も多かつた；トロツタアの方も決して悔いたものではなかつた。若しラムの方が帽子に二ツ毛を付けて外出すればトロツタア嬢は四ツ毛を付け、色合等も倍も綺麗なものであつた。若しラムが舞踏會を開けばトロツタアの方も決して負けは取らなかつた；若し仲間連中に上流者が尠かつた時には數に於て倍も多く興味に於て倍も面白かつたのであつた。

註 die away 止む。move out 轉居する。restored 復歸する。rival power 競争力。opulent 大金持ちの。jointure 遺産。buxom

快活な。repining 愚痴をこぼしてゐた。parsimony 吝な。即ちけちんぼな。prudent father 謹嚴な父。kept down 抑へ附けてゐた。elegant aspiring 華美な願ひ。ambition 慾望。restrained 制しられる。broke out.... 焔が燃へだした。had an advantage 優先を制してゐた。distanced 隔に置けなかつた。behind hand 負けを取る。

【譯】全社會は遂に流行社會上是れ等二家族の旗幟の下に兩分さる事となつた。舊い遊戯のボブジョン、トムカムライツクルミイ等は全全放棄されてしまつて；此の正直な國風の舞踏を催うす様な事はなくなつてしまつた；それから今年のクリスマスには寄生樹の下で私は若い婦人にキッスをしたため大に怒つて嫌がられた事があつた；ラム嬢は是れを稱して“蠻カラ征伐”と稱してゐた。劇烈な競争が小英國の最流行社會で始まつた；ラム家はクロスバア・スクエイアでトロツタア家はセント・バアソロミユウ附近で花を咲かせてゐた。

註 fashionable fraction はいから黨。lanners 旗幟。discarded 斥けられた。getting up 復興させる、即ち開催する。mistletoe 寄生樹クリスマスの裝飾に用ゆるもの。indignantly repulsed 怒つてはれつけられた。pronounced 公言した。shacking vulge: 蠻から征伐。

【譯】斯の如く些少な地域が大帝國の名前でも有するが様に黨派と内部の軋轢の爲めに破れて終まひ；其結果は、藥屋さんが預言術の才智あるに係らず、是れを如何に決定するかを當惑してゐる事だらうと思ふ。無論私は此神聖なジヨブリスムの没落と思つてゐるが。

註 factions and internal dissension 屬黨と内部の紛叫、即ち内輪もめ。 what will... 其結果は藥屋が困るばかりである。 prognostic 預言術。 determine 決定する。 terminate 終る。 total down fall 全滅。

【譯】直接の結果は非常に私に不愉快なものである。前述べた通り私は獨身者で寧ろ怠惰な無爲の人間であるから、此土地に於て職務上から云へば唯一の人物と考へられたのであつた。故に私は兩黨派から尠らず珍重されて彼等の重要會議譏謗等を聞かねばならぬ事になつてしまつた。私はいつも婦人連に對しては同意を表せず決して慰懃でもなかつた、私は彼れ等の敵手を批難して、兩黨に對し猛烈に攻撃を加へた。私は此事を私の考で融和する事が出来たかも知れない、寧ろ其方が便利だから、然し私の意見ではそれが出来なかつた；若しラムとトロッタアが互に和合する様になつて相互に

聞き込んだ事を比較する事になると、私は滅亡してしまはねばならぬのである！

註 immediate result... 早速困つたのは私であつた云々。 single man 孤獨中立の身。 good-for-nothing personage 穀潰しの人間。 profession 職がら。 high favour 大華客であつた、即ち重寶がられた。 cabinet council 幹部會議。 mutual back-biting 相互に惡口を云ふ事。 too civil to 少しも慰懃でない。 committed horribly 故意に強く當たつた。 opponent 對手。 reconciliation 融和。

【譯】私は時機を見て退却しようと思つた、それから此町で佛蘭西のものを食はず、飲まず、舞はず、話さない、まだ舊英國の風習が保たれてゐる他の場所を探してゐたのであつた；若し是れが見つかりさへすれば私は、老巧な鼠の様に自分の附近に少しでも古るい家が出来ない内に早速新らしい所に急ぎ去るのである；現在の住家に永久の然し悲しい告別をなしラムとトロッタアの兩黨に小英國の分割を任せて立去るのである。

註 to beat... 時機があつたら退却する。 looking out 探がす。 French is... 總て佛蘭西式を用ひぬ場所。 This found 是れが見つかりさへすれば。 about my ear 私の附近に、即ち老巧の鼠は少しでも新らしい家から新らしい家と移り變りつゝ、善いものにあつて、古るい家に長く居る鼠は手腕のない奴と云ふ意味。

スツラットフォード・オン・アヴォン

【譯】汝靜に流るゝアヴォン河よ、汝が銀色の流のほとりに
人間界以上のことについて、愛らしきシエクスピイナ
は夢むらん；

仙女は月夜に彼が綠色の寢床の周圍に舞ふらん、
彼の頭が枕せる芝生は神聖の境なれば、

—ガリック

註 Stratford-on-Avon はアヴォン河畔のスツラットフォードの
意にて、Avon の字を附して他のスツラットフォードと
之を分つて居るのである。有名なる英國否世界大文
學者沙翁の生地たり。of things...mortal 死するもの即
ち人間界以上のもの、天界のことなど、hollowed 神聖に
された。pillowed 枕せる。Garrick (1716—1779) 英國の名
優にて、又ジョンソンなどと同時代の文學者たり。

【譯】此廣き世界に於て自分のものと云へる一片
の土地をも有せざる家無きものに取りては、物
憂い一日の旅行の後、長靴を蹴りすて、其足を
スリツバに突込み、旅宿の爐の前に體をのばす
時こそ、何だか獨立と土地所有の勿體さのやう
な一時的の感もあるのである。外では世はな
るが儘たらしめよ；玉國が起るも亡びるも儘
よ；自分の勘定を支拂ふべき金錢のある間
は、彼は暫時は見渡す限りの間の眞の帝王であ
る。肱掛椅子は其玉座で、火棒は其笏、方丈ひかきばか

りの小さい居間は誰れ一人指もさへぬ帝國。
これ限りなき人生の眞中より奪ひ取つたる確
實の一片にして；曇り日に於て親しげに日光
の輝き出た瞬間の如きものである；そして
人生の旅路を幾分か進み出でたるものは、娛樂
の一片と小時間とをさへ節約すること必要な
るを知るものである。“自分の旅宿に於て、私し
は氣樂にすまいものか、”私はスツラットフォ
ード・オン・アヴォンの宿屋レッド・ホースの小室に於
て、火をかきたて、腕椅子に仆れかゝりて、満足げ
に、居室を見まはした時に斯う思つた。

註 independence 獨立。territorial consequence 土地所有のえら
さ。kick 蹴る。inn fire 宿屋の爐火。let be world...世は
行き得るが如く行かしめよ。without 室の外の。so long
as 間は限りは。wherewithal 必要な金錢。bill 勘定書。for
the time being 暫時は。monarch 國家。all he surveys 自ら見
る物、即ち見渡す限り。poker 火かき棒。sceptre. 笏。parlour
居間。square 四方。undisputed 妨げられぬ。morsel of cer-
tainty 確實なるものゝ小片。snatched 奪つた。uncertainties
of life 人生の不確實即ち有爲轉變の人生。advanced
some way 小しく人生の行路を進む。pilgrimage of existence
生存の巡禮、即ち人生を巡禮にたとへて生きて行くこ
とをさす。husbanding 節約する。morsels 小さいこと。
enjoyment 快樂。“shall I not...沙翁戯曲中のフォルスタ
ッフの句なり。to give stire 擾を興へる即ち火をかきお
こす。loll'd back 偃臥する。complacent look 満足の眺め。
Red Horse 云ふまでもなく宿屋の名なり。

【譯】愛らしき沙翁の此言葉が正しく私の胸を通つて居る間に、翁が埋められて居る教會の塔から眞夜中を告ぐる時計が打つた。折しも入口の戸を軽く叩くものがあつた、そして美しき下婢は微笑を浮べて躊躇した風で、私がベルを鳴らしたかと尋ねた。私は之をもつて退いて床に入るべき時が來たといふ謙遜な謎だと了解した。私の獨裁王國の夢は全く終つてしまつた；で私は遠慮ある帝王の如く、王位を廢せらるゝことを避けるが爲に自ら王位を棄て、スツラットフオド案内記を枕の友として小脇にかい込み、床に入つて終夜沙翁のことや、沙翁記念祭のことや、デエヴイッド・ガリツクのことなどを夢に見た。

註 tap 叩く音. chambermaid 下婢. hesitating 躊躇して. whether I had rung ベルを鳴らしたが、rung は ring の過去分詞. modest 謙遜な. hint 謎. 指圖. to retire 寢室に退くをいふ. absolute dominion 絶對の王國即ち君主獨裁國. was at an end 亡びてしまふ. abdicating する. prudent 遠慮ある. potentate 帝王. deposed 廢する、退けられる. Guide-book 案内記. pillow-companion 枕の友、寢物語の友. jubilee, 1768 年に俳優ガリツクが主催となつて沙翁記念會をスツラットフオドに催した、此記念會をさすのである。

【譯】翌くる朝は、時として早春に見ることがあるあの清々した朝であつた。蓋しもう三月の中旬

であつたからである。長い冬の冷たさは俄かに消えてしまつて；北風は其最後の息を吹きつくし；穏かな風は西から忍んで來て、生の息を自然界に吹き込み、香ばしく美しく聞くべく有ゆる花と蕾とに媚を呈した。

註 quickening 心を刺戟する、清々した. to give way やむ、すたれる. spent its last gasp それきり吹かなくなる、吹き止む. stealing 忍んで來る. wooing 媚を呈する. burst forth さげる、開く. fragrance 芳香。

【譯】私しは巡禮詩人としてスツラットフオドに來たのであつた。私は最初に沙翁の生れた家へ行つた。傳説によると、彼は其處で父の梳毛の業を教へられたのであつた。その家は小さい粗末な木と漆喰造りの建物にて、隅の方に其子孫を孵化することを喜びげである天才の眞の産地である。その汚れた室の壁には、有ゆる國民の上は王侯から下は百姓に至るまで、有ゆる階級と境遇の巡禮によりて、色々な國語で名前と文句とが書き連ねられてある；そして自然の大詩人に對する人類の、一般にして自然なる尊敬の表せられた簡單にして而も驚くべき實例を示して居る。

註 tradition 傳説. craft 職業. wool-combing 梳毛. mean-looking 粗末に見える. edifice 建物. plaster 漆喰. nestling place 巢をくう所. 産地. hatching 孵化する. offspring 子孫. by-corner 隅の方の人に知れぬ所. squalid 汚れた. inscriptions 文句. 書きもの. ranks 色々の階級. conditions 色々の境遇. present 表はす. striking 著しき. instance 例. spontaneous 自然の. homage 尊敬. poet of nature 自然詩人.

【譯】家はおしべりの老婆によりて案内される、老婆は霜のかゝつたやうな赤い顔をし、冷たい、青い心配さうな眼が光つて、非常に汚ない頭巾の下からは、わざとちぢらかした麻のやうな髪の毛が飾になつて居た。女は他の有名な殿堂などのやうに、此處にも澤山ある遺物を殊の外しつこく陳列した。沙翁が其獸泥棒の際に鹿を射とめた火繩銃の破れた残があつた。篋箱もあつた；これは沙翁が喫烟家として、サア・ウォルター・ラレエの競争者であつたことを示すものである：沙翁がハムレットを自ら演じた劍もあつた；ロオレンス坊さんが墓地でロメオとジュリエットを發見した時の提灯もあつた！沙翁の手植の桑の木がどつさり貯へてあつた。此樹は耶蘇が磔刑にされた十字架の樹のやうに、自分から殖えて行く非常な力を有して居る

らしく；大きな軍艦でも作るに足る丈けどつさり残つてゐる。

註 garrulous おしやべり. lighted up 光つて居る. anxious eye 心配ありげな眼. garnished 装つてある. artificial lock 手ないてちぢらした髪. flaxen 麻、麻色の髪が最も美しとされて居る. curling ちぢれた. exceedingly 非常に. dirty 汚い. assiduous しつこい. relics 遺物. abounds 澤山ある. shattered stock 破れた貯へもの watchlock 火繩銃. poaching 獸を盗む. exploit 功績. 沙翁は鹿を泥棒して、故郷を逃走し、倫敦にて劇作家となつたと傳へらる。Raleigh (1552—1618) エリサベス女王の寵臣にて、1584年米國より煙草を輸入した。Hamlet 沙翁の有名な脚本にて自ら其主人公を演じたり。Romeo Juliet 之も沙翁の芝居にて、共に主人公の名なり。self multiplication 自分で殖やして行くこと。true cross 眞の十字架即ち耶蘇が磔刑にされた架。ship of the line 大なる軍艦のこと。

【譯】けれども最も好奇心を喜ばすに足るものは沙翁の椅子である。丁度彼が父親の居た室の後である小さい陰鬱な室の爐の角に置いてある。沙翁は子供の時代に子供心の待遠しさを以て、靜に廻轉する肉焼棒を見守ることが幾度かあつたかも知れぬ；或は夕方などは墓場の話即ち幽霊物語や英國の騒々しい時代の傳說的物語などを語るスツラットフォードの親友や饒舌家達に耳を寄せたことがあるかも知れぬ。

此家を訪問する者は誰も彼も此椅子にすわるのが習慣である。これは斯うして此大詩人の神興にあづからんが爲に爲さるるのかどうかは語るに困ることであるが、私は只事實丈を云ふのである；そして老婆さんは密に私に云つた、堅い樫の木では作つてあれど、此椅子は少くも年に三度は底をやりかえなければならぬほど信者の熱心な崇敬があるのだと。又此非常な椅子の歴史について注意の價あるは、ロレットオのサンタ・カサの詞や、亞刺比亞の魔法使の飛椅子のやうに、何だかそれが飛行性をもつて居るといふことである；何となれば、之れは數年前に北方の一王女に賣られたのであるが、而も不思議なことには、又してもそれが其の爐にもどつて來たからである。

註 favorite object 喜ばすもの。curiosity 好奇心。chimney nook 圓突の隅、爐の角。what was... 室をさす。revolving 回轉する。spit 肉をやく棒。longing したはしき、まちどほしさ。urchin 子供。custom 習慣。imbibing 吸込む。inspiration 神興；感興。bard 詩人。at a loss to say 云ふにこまる。mention 記する。privately 私に。assured 確言する。fervent 激烈な。zeal 熱心。devotees 信者。bottomed 底をかへる。extraordinary 非常な。portates 有する。volatile 飛ぶ。nature 性質。Santa Cuso 耶蘇の母たるメライがナザレスに居

る時住んだ家にて、其後此家は神力によりてフィウム、ダルマチア、レカナアチ、スラセタと移り移つたのである。ロレットは夫人の名にて、此夫人此地を所有して居るのである。enchanter 魔法使。strange to tell 云ふも不思議だが。found his way back あとへもどつて來る。

【譯】私はいつも斯んなことを信じ易くて、欺されるといふことが愉快で、何物の損にもならぬ際には、いつでも欺されるのが好きである。だから私は遺物とか、傳説とか、幽霊や偉人などの地方的物語にはいつも忽ち信者となるのである、そして満足を得んが爲に旅行する人々には、私と同様であらんことを忠告するのである。私達は此等の話が眞實であらうがなからうが關はず自分でその信仰に引入れられ、それが事實としての有ゆる興味を感ずることが出來さへすれば、その眞偽が私達に取つて何であらう？こんな事柄に於ける絶對の信仰ほど氣持のいいものはない；そして此際に於て、私は此老婦人が此詩人の子孫であると云ふ要求を好んで信する迄に至つたのであるが、其時此女は私の信仰に對しては、有りがたいことには、自分自ら作つたといふ一個の脚本をば私の手に渡した；所が此脚本こそは此老婦人が沙翁の血脈であ

るといふことに於ける、凡ての信仰を全く打ち壊してしまつたのである。

註 ever 常に. willing 好んで. deceived 欺かれる. deceit 欺き. costs nothing 何も償せぬとは、毒にも薬にもならぬ意. ready believer 直ぐに信する人. relics 遺物. anecdotes 物語. goblins 幽霊. gratification 満足. same 同じく信する人になること. false 偽. so long as...ありさへすれば. persuade 説得する、引入れる. charm 面白味. reality 事實. resolute 獨断したる. good-humored 心地のいゝ. credulity 信すること. so for so 迄. claim 要求. lineal descent 直系の子孫. the poet 沙翁をさす. luckily 幸にも. own composition 自作. consanguinity 同血族たること. set at defiance 輕んずる、排斥する、作物がまづかつたが爲也。

【譯】沙翁の生地から數歩にして、其墓地に達した。彼は寺領の教會、——大きな莊嚴な建物にて、年年の爲にくづれかゝつては居れど、立派に裝飾された教會——の一端に埋められて居る。寺はアヴォン河の畔り、樹木の茂つた地に建てられ、町の外廓から、之に近接せる遊園によりて隔てられて居る。其の地位は靜かで、ひっそりとして居て：川は寺の境内の麓をさゝやき流れ、其堤防に生えて居る處の楡の木は、澄み切つた河の中に其枝を垂れて居る。菩提樹の並木は、其枝が妙に入り亂れて、夏には茂みのアアチを

作りさうであるが、庭の入口から寺の門までつづいて居る。墳墓は皆草を以て蔽はれ；灰色の墓石は、中には殆んど地中に埋れたのさへあり、半ば苔を以て蔽はれ、此尊とき古建物と同じ色をして居る。小鳥は壁の飾や、隙き間の間に巢を作り、たえずばた々々として囀つて居る；そして白嘴鴉は教會の高い灰色の尖塔の周圍を飛びまはつて鳴いて居る。

註 few paces 數歩. chancel 墓地の端. venerable pile 尊き建物. mouldering くちくづれる. ornamented かざつた. embower 樹木にて蔽ふ. adjoining 近接せる. suburbs 郊外. retired ひっそりして居る. murmuring さゝやく. churchyard 寺の庭. droop 垂れる. bosom 水の中. avenue 並木路. limes 菩提樹. interlaced 入り交つて居る. foliage 茂み. porch 門. overgrown 蔽はれる. tombstone 墓石. sun into the earth 地中に埋る. likewise 一樣に. tinted 色をして居る. cornices 樹や窓壁などの頂にある裝飾をいふ. fissures すき間. continual flutter たえずばた々々して居る. sailing and cawing かけまはり鳴く. spire 尖塔。

【譯】私がそぞろ歩をして居る間に、私はエドモンドと呼ぶ白髪の寺男に出遇つた、そして寺の鍵を得んが爲に彼の家へついて行つた。彼は少年の時から此日に至るまで八十年の間スツラットフォードに生活し、そして過去數年間殆んど歩

けなくなつたといふ丈が僅かの例外で、自ら猶元氣のいゝ男だと信じてるらしかつた。其家はアヴォン河に臨み、之に接する西岸の牧場が一目に見える小さい小舎であつて；そして此國の賤民の家屋に通じて見られるかの清潔と、秩序と、氣持のいい一つの繪であつた。白壁塗の清く磨きあげた石の床の低い一室が居間と臺所と客間になつて居るのである。錫器及び陶器の幾數列は料理臺に添ふてギラギラと光つて居た。よく拭いて磨き上げた檜の卓の上には、家庭用の聖書と祈禱書とが載つて居た；そして引出しには、よく指垢のついた十冊ばかりの本より成る家庭文庫が藏まつてあつた。此小舎の家具中の大切なものである古時計は、室の向側でチク々と響き；そして室の一方の側には、立派な焼鍋がかゝつて他の側には此老人の日曜に用ふる角柄の杖がかゝつてゐた、爐は例によりて廣く深く、其左右兩側の間には、一團の話し仲間を入るゝに足りてゐた。一方の隅には、綺麗な緑色の眼をした老人の總領娘が縫物をして居た、そして反對の隅には、ジョン・アンジと云ふ名で挨拶した老衰した老人が居

た、彼は此家の主人と少年時代からの友人であつたさうだ。二人は少年時代から共に遊び暮らし；大人になつても共に働き；そして今亦共に人生の晩年を、よろめきながら空談に耽つてゐるのである；そして遠からずして二人は共に近所の墓場に埋めらるゝに至ることであらう。かうした人生の二つの流れが、斯の如く平坦に靜平に相並んで流るゝを見るは例の多いことではない；偶かういふものゝ出遇はれるのは、斯うした靜かな奥まつた片田舎の生活に於てのみである。

註 in the course of の最中に. ramble そぞろ歩き. grey-headed 白髪. sexton 寺男. man and boy 小供の時から大人の時まで. vigorous 元氣のいゝ. trivial 些細の. bordering 境する、接する. neatness 清潔. comfort 氣持のいゝこと. pervade 通じてはやる. whitewashed 白壁塗の. shrudded 磨いた. served 役に立つ. parlor 居間. hall 客間. pewter 錫の器. earthen 陶器の. dresser 料理臺. rubbed and polished すつて磨いた. drawer 引出し. half a score 十. score は二十. well-thumbed 指の跡のついた. furniture 家具. ticked 時計の音がする. warming pan 物を温める鍋. cane 杖. gossip knot 空談者の一團. jambs 左右の兩側. superannuated crony 老衰した親友. address 挨拶する. infancy 幼時. tottering よろめく. evening of life 晩年. tow streams of existence 二人の生涯を云ふ. evenly 平坦に. tranquilly 靜

に、side by side 并んで、bosom scenes 奥まつた光景、to meet with 偶會ふ。

【譯】自分は是等の昔しの物知りより、詩人に關する傳説的の物語を集むることを望んで居たが、彼等は何物をも與へてくれることが出来なかつた。沙翁の作物が比較的閑却されて居た長い期間は、其影を彼の歴史上に擴げたのであつた；そしてそれが爲に、彼が傳記を編まんとする人に、僅かなる臆説以外殆んど何も残つて居ないのは、彼の幸運であるかまた不幸であるか。

註 traditional 傳説的の、chroniclers 年代記者即ち物を知つた人、impart 分ち與へる、interval 期間、comparative neglect 比較的忘れられて居ること、spread its shadow 歴史上に蔭を投げて、其歴史が分らなくなる、lot 運命、scarcely anything but... の外殆んど何もなし、biographer 傳記編纂者、scanty 乏しき、handful 手に一杯許り、conjectures 臆説。

【譯】此寺男と其友達の老人はかの有名なるスツラット・フオドの沙翁記念祭の準備に際して、大工として傭はれ；そして俳優ガリツクを記憶して居た；ガリツクは此際の主唱者にて諸般の設備の監督者たり、寺男の言に従へば、ガリツクは“丈の低い滑稽的な男にて、極めて元氣のいゝ騒々しい男であつた。”ジョン・アンジは亦

沙翁の桑の樹を切るに手傳ひ、賣品としてポケットに其一片をもつて居た；之れ疑もなく文學的思想を助成するには此上なきものならん。

註 preparations 準備、jubilee 記念祭、prime mover 主唱者、fete 村祭、superintend 監督する、arrangements 排列設備、punch man 滑稽な人、bustling 騒々しい、morsel 片、for sale 賣品に、sovereign 君主即ち最上の、quickener 助成するもの、conception 思想、考。

【譯】私は此等二人の老人が、沙翁の生家を見物せしめて居る辯舌流暢な老婦人を甚しく惡口せるを聞いて遺憾に思つた。ジョン・アンジは私が老婦の貴重なる遺物の蒐集、殊に桑の樹の遺物をおげると其頭を振つた；そして老寺男は沙翁が其家に生れたことに關して疑を述べさへした。私は直に發見した、彼は自分の受持である詩人の墓には、比較的參詣者が少いので、其墓場の商賣敵手者として、老婦人の宅を惡口するのだらうと。世の歴史家達が其抑の出發點に於て相反するのは皆斯の如くである；そして單なる小石と雖も、家の頭りに於てさへ眞理の流を種々の細流に分れしむるのである、即ち小さい一片の小石がある爲に、眞理は分れて色んなものとなるのである。

註 wights 人. dubiously 不審に. collection 蒐集. relics 遺物. particularity 殊に. remains 遺品. mulberry 桑の樹. looked upon with an evil eye 悪い眼で見る即ち悪口をいふ. rival 商賣敵手. latter 即ち墓をさす. very outset 抑の最初. pebbles 小石. diverge 變化する. channels 細流. fountain-head 泉頭.

【譯】私達は菩提樹の並木路を通つて教會に近づき、ゴシック風の門を入つた；門には大きな檜の木彫刻した戸があつて、甚しく飾つてあつた。内部は廣くして、建築と裝飾とは、大抵の田舎の教會のそれに優つて居た。貴顯や紳士の色々な記念碑があり、中には葬式の徽章や旗が、ちぎれて壁からかかつて居るのもあつた。沙翁の墓は井隅にある。地は莊嚴にして靜寂である。丈高き楡の木は尖つた窓の前にゆらぎ、壁から遠からず流れて居るアヴォン河は、絶えず抵いささやきを續けて居る。一個の扁平なる石は詩人沙翁が埋められて居る地を示して居る。其面には四行の文が書かれて居る、之は沙翁が自ら書いたとも云はれ、何だか非常に恐ろしい氣分がそれに備つて居る。若し彼等が眞に沙翁の作であるならば、其碑文は、墓の靜けさに関して、立派な感情深い思慮のある人々に對し、穩當に見ゆる所の靜寂を示すものである。

註 limes 菩提樹. entered by を經て入つた. ornamented 裝飾された. massive 巨大な. spacious 廣闊な. architecture 建築. embellishments 裝飾. superior to 優る. nobility 貴族. gentry 紳士. escucheons 徽章. piecemeal 寸断に片々に. chancel 片側の翼. sepulchral ひつそりして居る. keeps up つゞけて居る. perpetual 永久不斷の. bard 詩人. 此處にては沙翁をさす. inscribed 書かれて. awful 威嚴を感ぜしむる. solicitude 靜寂. sensibilities 感じやすきこと. 此最後の一文は其碑文が沙翁の作であれば、其基地の靜けさは、斯うした立派な感情と心をもつた詩人に對しては最もふさはしい靜けさを示すものであると云ふ意なり。

【譯】“よき友よ、^{後生から}耶穌の爲に忍べよ

此處に埋められたる屍骸を掘ることを^{先下}せよ
此等の人を除けざるものに幸あれ、
そしてわが骨を動かすものは呪はれて居れ。”

註 for Jesus's sake 神の心になうが爲に. forbear 忍ぶ. dust 塵即ち此處にては骸をさせり. enclosed 埋められたる、とち込められたる. blessed be 幸があれ. spores 惜む即ち石を大切に^{せよ}して取り除かぬもの. curst 呪はれて. bones 死骸をさせるなり。

【譯】丁度墓の眞上に、壁の中の^石の中に、其死後暫時にして作られ、似て居ると思はれて居る沙翁の半身像がある。其相恰は愉快にしてせいせいして、立派に飛出た額をもつて居る；そして私は其中にあの愉快な社交的な性質の明かな

しるしを読むことが出来ると思つた；——彼は實に其性質によつて、丁度其偉大なる天才によりてと同じく、其同時代の間に特徴を表はして居たのであつた。其碑文は彼が死の時の年齢を明記して居る——五十三歳と；世界の爲には時を得ない死なる哉：何となれば實際に、人生の暴風雨の多い變遷隆替より隠れて、一般社會并に王室の惠の光に榮えて居て、斯の如き人の美はしき秋より、如何なる果實が期待され得なかつたであらうか、(即ち人生の風波をのがれ、上下一般の人望を擔ふて榮えて居る彼れの如き天才の沙翁にして、如何なる立派な作品を世に残すことが出来るかは分つたことを以てなりといふ意)。

註 niche 龕(づし). bust 半身像. considered as a resemblance 似て居ると思はれて居る. aspect 相恰. serene せいせいして居る. arched forehead 額が出て居るなり. indication 表示. disposition 傾向. contemporaries 同時代の人. as much as 同じことに. vastness 大きなこと. inscription 碑文. decease 死. untimely 時を得ない. for what fruit..... 如何なる立派な果實即ち作品を期待することが出来なかつただらうか. golden autumn of such a mind こんな立派な人の老成した時代即ち五十歳位であつたと云ふ沙翁の年齢をさすなり. sheltered かくれて居て. as it was 實際さうであつたやうに. vicissitude 變遷. 隆替. 榮枯. 盛衰.

flourishing 榮える. sunshine 光榮の時代. popular 一般庶民の. royal 王室の. favour 惠. 彼が上下の惠を受けて榮えたるをいふなり.

【譯】此墓石の碑銘は其効果がないではなかつた即ちそれは嘗て相談されたことのある、沙翁の郷里からウエストミンスター寺院へ、彼の遺骸移轉の件を止めたのである。其後數年にして又數人の勞働者は其近所に埋葬所を作らんが爲に土を掘つて居る時、土地は殆んどアアチのやうな空所を残するやうな風に掘られたことがあつた。そしてその空所を抜けると沙翁の墓に達することが出来たのである。けれども唯一人として、呪を以てかくばかり恐ろしく護られてゐる遺骸に手出しをしようとするものはなかつた；而も意情者か好奇者か又は遺物の蒐集家などが掠奪を犯すやうなことがあつてはといふ心配から、老人の寺男は埋葬所が出来上つて、穴が全く閉ぢられる迄二日間其場所を見守つて居た。老人は大膽にも穴の中をのぞいて見たが、棺もなければ骨もなくして；只塵だけがあつたのみと私に語つた。私は思つた、沙翁の塵を見たのは、それは多少の意味のある事だと。

註 inscription 銘. removal 移すこと. remains 遺骸. bosom 眞中位の意. contemplated 相談された. adjoining 近所の. vault アアチになつた埋葬所. caved 洞穴になる. vacant place 空所. presumed to meddle 手出しをする. guarded 護られた. malediction 呪. the curious 物好きな人. collector of relics 遺品を集める人. should be tempted...するやうに心を誘惑される,...したくなる. commit 犯す. depredation 掠奪. over the place 場所中. finished 出来上る. aparture 穴. it was something 多少は何かであつた.

【譯】沙翁の此墓の次に彼が妻、彼が愛娘なるホオル夫人及び彼の家族の他の人々の墓がある。又直ぐ側の墓の上には、高利貸として名高い彼の舊友ジョン・コンプの全身像がある；沙翁は此男に對して嘲笑的な碑文を書いたと云はれてゐる。周圍には他の記念碑があつたが、尙心は沙翁と關係なきものものを調べんとを望まなかつた。沙翁の觀念のみが此地に充溢し；此巨寺院が單に彼の墳墓であるが如く思はれて居る。是に於てか感情は最早疑念によりて制せられもせねば、妨げられもせずして、全き信頼に耽つてゐるのである：彼に關する他の遺物などの如きは偽であつても、信偽不明であつてもかまはない、けれども此處には明白なる證據と絶對の確實とがあるのである。私が音の

する敷石の上を歩いてゐると、本當に、沙翁の遺骨がわが足下に朽ちつつあるといふ考が、何だか強く烈しく起つてゐた。それから私が其處を立去らうと決心したのは暫く後のことであつた；そして私は寺の庭を通り過ぎる時に、一本の榆の樹から枝を折り取つた、それこそ私がスツラットフォードからもたらした唯一の紀念である。

註 full length effigy 全身像. usurious 高利にて金を貸す、高利貸の. ludicrous 嘲笑的の. mind refuses 氣が向かぬ. dwell upon 調べる、考へる. pervades 専ら占めてゐる. mausoleum 陵、廟. feeling...此處にて起る感情は少しも疑念などを伴はずして、全く信頼することが出来る. thevarted 妨げる. indulge ふける. confidence 信頼. traces 遺物などを指せるなり. dubious 二重の意味ある即ち曖昧な. palpable 明細なる. evidence 證據. absolute certainty 絶對の確實. intense and thrilling 烈しきするとき. in very truth 眞實に. mouldering 朽る. long time before...心に決するまで長くかかつた、即ち長く立去りたくなかつた. prevail upon 心を決する意. churchyard 寺の庭. relic 遺物.

【譯】私は今巡禮者の敬崇する大抵のものは見てしまつた、けれども私はチャアルコットのルウ、シイ家の古い邸宅を見たいと思ひ、沙翁がスツラットフォードの無頼なる數人の少年と共に鹿泥棒といふ年少氣鋭の過失を犯したことのあ

る公園を散歩して見たいと思つた。此無鐵砲な冒険に於て沙翁は捕はれて番人小屋に連れて行かれ、其處にて終夜悲しい囚はれの身となつて居たと傳へられて居る。やがてサア・トマス・ルウシイの面前に連れられた時には彼の取扱は厳しい恥かしいものであつたに相違ないといふのは、それが彼の心をして亂暴な落首を作つて、チャルコットの公園の門に貼附せしむるに至つたからである。

註 usual object ありふれたもの。devotion 崇敬。family seat 邸宅。Lucy 當時の豪族たり。ramble 逍遙する。in company with 共に、相伴うて。royster 亂暴者。commit 犯す。youthful offence 青年血氣の犯罪。hore-brained 無考な、無鐵砲な。exploit 冒険。lodge 小舎なり。doleful 悲しき。captivity 捕虜。treatment 待遇、取扱。galling 峻厳なる。humiliating 恥をかかせる、屈辱的な。wrought upon、働かせる、さらさせる。pasquinade 諷刺の文句にて、我徳川時代に盛に行はれた落首といふが如きもの。affix 貼つける。

【譯】下のは此譏諷文の中にて現存して居る唯一の一節である：—

“國會議員で、保安官、
家では憐れな案山子で、倫敦ぢや驢馬、

若しも陋醜がルウシイなら、世間のものが誤り云ふやうに、
するとルウシイは陋醜じや、どんな事があつたにしても。

彼は自分じやえらいと思ふ；
處が其國では驢馬である、
吾等は只其耳の長いので驢馬のいゝお仲間だと思ふ、

若しもルウシイが陋醜なら、世間のものが誤り云ふやうに、
すれば陋醜なルウシイと歌はう、どんな事があつたにしても。”

extant 生存してゐる。lampoon 諷刺の文。member 議員。justice of piece 保安官、警察署長の如きもの。Scarecrow 案山子。asse 驢馬。lowsie, Lusy に似た音にする爲に low を變化して陋醜の意をもたせたるなり。volke 人々。miscalle 誤り傳ふ。befall 起る。in his state 自分の領内では。We allow... 耳の長きことによりて、只驢馬の馬鹿物とお仲間入りをする事を承認したと思ふ。驢馬には勿論馬鹿の意味を含ませたるなり。mate 仲間に入る、お相手をする。

【譯】ナイトの品位に對する此の放逸な攻撃は甚しく彼を怒らした、ナイトは即ち詩人の鹿泥棒に對して、峻厳なる法律の威嚴を示さんが爲に。

ウオイックの辯護士に依頼した。沙翁は即ち州の長官と田舎の辯護士の共同せる威力に抗せんとして待ちはしなかつた。彼は直ちにアヴォンの楽しき河岸と祖先の成業とをすてて；倫敦に放浪し；劇場の食客となり；やがて俳優となり；遂に脚本の作者となつた；そして斯の如くして、トマス・ルウシイの懲罰によりて、スツラットフォドは無頓著なる梳毛職人^{すきげ}を失ひ、世界は不死の詩人を得たのであつた。けれども長い間、彼はチャアルコット卿の苛酷なる待遇に關して忘れることなく其作物に於て自ら復讐したのであつた；けれどもそれは性質のいい人の慰み半分のやり方であつた。サア・トマス卿は、もともと沙翁劇中の法官シャロオであると云はれ、其諷刺は巧に法官の紋所によりて彼にあてつけられてゐて、紋所はナイトのと同じく、四つ輪の中に白い鯀魚^{うなぎ}（鱸の一種）のゐるものである。

註 flogitious 放逸なる。 dignity 品位、尊嚴。 knight 即ちルウシをさす。 incense 激する。 applied たのむ。 lawyer 辯護士。 to put...force 強ひて法律の嚴なる力の中に置く即ち法律を以て非道い眼にあはせる。 rhyming 詩を作る。 deerstalker 鹿泥棒。 brave 犯す。 puissance 力。 shire 州。 attorney

代辯人即ち辯護士。 forthwith 直ちに。 abandone すてる。 hanger-on 食客。 wrote for the stage 舞臺の爲にかく即ち脚本をかく。 persecution 虐刑。 indifferent 無頓著。 retained a sense 忘れぬ。 revenged 復讐する。 sportive way 慰み半分に。 good-natured man 人の善い人。 original 元々からの即ち根本からのといふ意。 satire 諷刺。 slyly 巧に。 fixed upon あてつける。 armoreal bearing 紋所。 lucas 鱸の一種。 quaterings 楯の形を四分したもので、此家の紋は中に鯀魚三尾を描けり。

【譯】沙翁の傳記を作るものは此詩人の幼時の此失行をば柔げて説明せんとして種々の企をした；けれども私はそれをば彼の地位と彼の氣性とに對して當然なる、無考なる冒險の一つと思つて居る。沙翁は青年時代に於ては、疑もなく熱烈な訓練されない、監督を受けない天才の有ゆる亂暴と不規律とをなしたるならん。元來が詩的の性質といふものは自然に其中に多少の無頼漢的の所をもつて居るものである。其儘に放棄されると放恣に野生的になつて、有ゆる奇行と道樂なものを喜ぶに至るのである。自然の天才が大悪人となるか又大詩人となるかは、運命の賭事に於て、屢^{さし}骰子の上向くか下向くかによつて定まるものである；そして沙翁の心が仕合にも文學的傾向を取らざりせば、彼

が有ゆる戯曲上の法則を破つたが如く、大膽にも世間の有ゆる法律を超越してしまつたかも知れなかつたのである。

註 attempt 企畫. biographer 傳記作者. transgression exploit 冒險. turn of mind 氣性, 性向. wildness 亂暴. irregularity 不規律. ardent 熱烈なる. undisciplined 訓練されない. un-directed 差圖を受けない. temperament 氣質. something 多少の意. vagabond 無頼漢. left to itself 放棄すれば. loosely だらけて, 放恣に. delights 喜ぶ. eccentric 少しく變つた, 奇異の. licentious 放恣なる. turn-up 上向くこと. die 骰子. gambling 賭事の. freak うつり氣, 變化. turn out なる. rogue 惡人. bias 傾向. daringly 敢て大膽に. transcended 超越する. all civil は law にかかる, 即ち dramatic law に對して有ゆる世間的の法律をさす. dramatic law 戯曲の法則, 沙翁はこれまでの法則を破つて新なる法則の下に戯曲を作れり.

【譯】沙翁が幼年の時期に於て、手におへない仔馬こまの如く、スツラットフォドの附近を飛びまはつてゐる頃には、有ゆる種類の奇態な常規を逸した人々の仲間入りをして居たり；其他の有ゆる惡者共と交はり；其名を云へば、老人共は皆首を振つて、何時かは絞首臺に上るべきものと預言された不幸な惡戯者の一人であつたことは、私は殆んど疑はないのである。彼に取つては、トマス・ルウシイ卿の庭園に於ける密獵は、

疑もなく邊境に於ける蘇國の武士の入寇の如きものにて、彼の熱心な而も猶ほ野生の放恣なる想像をば、何だか嬉しき冒險的のことの如くに刺戟したのであつた。

註 little doubt 殆んど疑なし. unbroken は手におへぬ. to be found in the company 中間にゐると見られる. anomalous character 變つた人々. associate 交る. madcaps 惡漢. unlucky 不幸な. urchins 惡漢. at the mention of... 名をあげると、名を云へば. predict 預言する. come to gallows 絞首臺に上る. poaching 密獵. foray 邊境へ侵入すること、其昔蘇國人は盛に英國の國境に侵入し決してこれを惡事とは思はなかつたのである. eager は imagination にかかる. eager and as yet ~~untamed~~ ^{untamed} imagination 熱誠な而もまだ馴らされない放恣なる想像. something adventurous 聊か冒險的なもの.

【譯】チャアルコットの邸宅及び其周圍の庭園は今猶ルウシイ家の所有にて、此詩人の乏しき歴史中に於ける此異様な而も重大なる事件と關係して居る所から、殊の外に興味あるものである。家はスツラットフォドよりは、僅に三哩餘りの地に在るので、私は徒歩にて其處を訪ねようと決心した、沙翁が彼の最初の田園的想像の觀念を得たらん光景の中をば、ぶらぶらと散歩し得たらんが爲に。

註 whimsical 變つた. eventful 重大な. scanty... 此詩人の歴史は實際甚だ少ないのである. pedestrian 足の. stroll そぞろあるく. leisurely ぶらぶらと. derived 導き出した. rural imagery 田園的空想.

【譯】國はまだ冬枯の儘の素裸で木の葉はなかつた; けれども英國の景色は元來常に青鮮にして、天氣の溫度に於ける俄然たる變化は、風景の上に速かなる結果を起すことに於て驚くべきものがあつた。春色の最初の眼覺めを見るといふことは、氣が引き立ち元氣の起るものであつた; 五感の上に忍んで來るところのその暖かき呼吸即ち空氣を感ずることも; 綠色の新芽とやさしき若葉を出し始める所の濕ひのある柔かき土地を見ることも; 復活の色合と開く所の蕾に於て、歸り來る若葉と花に望を與へる處の樹々や灌木を見ることも; 等しく氣が引立ち、元氣の起るものであつた。冬の裾を界する所の小さい花たる、冷たき水仙は、小舎の前の小さい花園に於て、小さい潔白な白い花を以て見られるのであつた。新しく生れた野羊の鳴き聲は野原からかすかにきかれた。雀は茅ぶきの軒と蕾のある生垣でさへづつてゐた; 駒鳥は之まで震へる處の冬の調子に更に一層

の快活なる調子を加へた; そして雲雀は牧場の水烟りの立つ奥から飛出して、瀧の如き好調を吐き出して、ぎらぎらと輝く毛の如き雲の中に上つて行つた。私が此小さい歌ひ手を見てゐると、だんだん高く上つて、其の體は白い雲の胸に只一つの點になつても猶其の音樂は私の耳に一杯になつてゐた。と私はキンベリインの中に在る沙翁の絶妙な小さい歌を思ひ出した:—

註 yet naked and leafless 冬がれてまだ野も森も素裸で葉がなかつた. verdant 綠色の. temperature 溫度. surprising 驚くべく. to quickning effect 速かに活氣を帶び來る結果. inspiring 氣を鼓舞する. animating 氣を引立てる. landscape 景色. witness 見る. to feel や to see などは皆 inspiring にかゝる. awakening さめる. warm breath 温かい自然の氣即ち空氣の如きもの. over the senses 五感の上に. mellow 柔かい. earth 地面. put forth 芽を出す. sprout 芽. tender blade 柔さしい葉. reviving 復活する. tints 色. bursting buds 裂け出る芽. promiss 見込. returning 春の花や葉のめぐりかへること. foliage 若葉. snowdrop 水仙. boarder 境をするもの. 即ち春と冬の境に咲く花の意. skirts of winter 冬の裾即ち冬の終の頃. chaste 潔白な. bleating 鳴くこと. new-dropt 新に生れた. faintly かすかに. twittered さへづる. thatched 茅葺の. eaves 軒. budding 花の蕾のある. hedge 生け垣. livelier note 前よりも生々した調子. querulous ふるへる. wintry strain 冬の調子. 即ち冬の寒い頃の歌. springing up 上る. reeking bosom

水けむりの立のぼる奥. towered away 高く上つた. fleecy 羊毛の如き柔かき. pouring forth 吐き出す. torrents of melody 好調の瀑布即ち 瀑の如き盛んな好調. songster 歌ひ手. mounting up 上る. mere spect 單なる點. still filled 猶ほ一杯になつてゐる. called to mind 憶ひ出した. exquisite 絶妙な. Cymbali.e 沙翁の戯曲の一つ.

【譯】 “きけ! きけ! 雲雀は天の門に歌ひ、
 フェブスは上り始める、
 コツブのやうな花の上に在る
 あの泉にて其馬に水を飲ませんとて、
 そして眼たたきするマリゴオールドの蕾も
 其金色の眼を開き始める;
 美しき物を皆携へて
 わが愛らしき人よ、起きよ!”

註 Phoebus 希臘の神話にて日の神 Appolo を指す. 'gins= begins. steeds 馬を云ふ、アポロオの神は馬車に乗つて曙に出て來るとされて居る. to water 水を飲ませる. chalice 杯のやうな. lies は lie であるべきを上の arise と韻をふむ爲めに、殊に規則を破りてかくしたるならん. winking または きする. Mary-buds は Marigold 金盞花. to open=to open 開く、咲く. with, every... 美しきものを皆身にかざりての意. bin, be の代りに使用せるなり、今の規則までは that is pritty と云ふべきを、韻をふむ爲めに bin としたのである.

【譯】 實にや、此あたりの地方は皆詩的の土地である: 何もかも皆沙翁の聯想を起させる. 私

が見た如何なる小舎にても、私はそれを彼の少年時代の出入した所だと思ひ、此處にて沙翁は田園生活と田園の風習に關する精細な智識を得たり、彼が戯曲中に巧に編みこんだそれらの傳說的の物語や野蠻な迷信などを得たのだと思つた. 何となれば此時代に於ては、吾等がきくが如くは、火の周圍に坐つて面白い修行武者や、女王や、戀人や、貴族、貴婦人、巨人、一寸法師、盜賊、詐欺者、巫女、神仙、妖怪及び僧侶などの物語をするのが、冬の夜の普通一般の娛樂であつたからである.

註 resort 出入する所. acquire 得る. intimate 精細な、密な rustic life 田園の生活. legendary tales 傳説. superstition 迷信. woven into 編み込む. like witchcraft 巫女わざのやうに、即ち巧に. popular ありふれた. amusement 娛樂. errant Knight 武者修業.

【譯】 吾が行路は半ばアヴォン河の見ゆる中にあり、川は廣き豊饒な平野を経て、極めて妙な轉回や曲折の變化をなして居た; 時ありて其兩岸の縁をとつて居る楊柳の間からぎらぎらと輝き; 時ありては森の中や、綠色の堤の下に消えて; そして時としては一眼の中にさまよひ出で、牧場の傾斜の周圍に空色の流をなしつゝ、

此美しい田舎の奥は“赤馬の谷合”と呼ばれてゐる。起伏せる青色の小山の遠方の線はその境であるらしく、而して凡て其間にある柔しい景色は聊かアヴォン河の銀色の鎖でつながれて居るのである。

註 routs 行路. for a part of the way 路の一部. in sight 見える所に. variety 變化. fancy 妙な. doubling 轉回. winding 曲折, 迂回. fertile 豊饒な. valley 谷合が廣まつて平野をなせるを云ふ語にて谷と譯すよりは平野と譯す方が遙に穩當である. glittering ぎらぎらと光る. fringed 縁をとる. borders 境即ち此西岸をさす. disappear 消える. groves 森林. rambling out 迷ひ出る, うろついて頭を出す. into full view 充分なる眼界に, 即ち一眼の中に. azure 蒼色. sweep 流れ. slope 斜面. meadowland 牧場. bosom 奥まつた所. distant line 遠くに地平線近く見える山々の線をいふ. undulating 波の如く起伏する. boundary 境界. its は vale をさしてゐる. whilst 然るに, 而して. intervening 間にはさまる. in a manner 聊か, 多少. enchained 鎖でしばられて. links 鎖.

【譯】凡そ三哩ばかり路をたどつた後、私は轉じて小徑に入つた、その小徑は平野の境に沿ふて、生垣の下を通つて、園林の裏門につづいてゐた；けれども其處には歩行者の爲に階段があつた；蓋し此園林を通じて公然たる通行権があつたからである。私はかうした人を欺待する領地

に喜を感じるのである、といふのは其領地では少くも小徑みちに關しては何人も一種の所有權をもつて居るからである。斯の如く人々の保養の爲に此等の園林や遊樂の地を公開することは幾分か貧民を其運命に服せしめ、更にそれよりも其隣人たる富者の更に優れる運命に對して心服せしむるものである。彼は其地の領主と同じく自由に純な空氣を呼吸し、木蔭の下に贅澤に徘徊する；そして彼は自分の見る所のものを自分のものと稱する特權を有せよとも、之と同時に、それに對して税を支拂ひ、そしてそれを整頓する面倒をもつて居ないのである。

註 pursuing 辿りつづける. turned off 路を轉じた. footpath 小徑. borders 境. private gate 私門即ち裏門の如きもの. stile 階段, 生垣を越える爲の階段である. pedestrian 歩行者. there being あるので. public right of way 公然たる通行權をいふ、園林の領主以外の何人も隨意に之を通行し得るやうにしたるなり、斷じて道をつくる權にあらず. grounds 此の園林をさすなり、園林は何人も通行し、此に入りて休養することを得るやうな設備にしたる故 park と云へるなり. delight 喜を感じる. Hospitable 何人も歡迎して出入せしむるをいふ. estates 領地. in which.....何人も一種の所有權を有するとは、隨意に出入し得るをさすなり. as for..... 小徑の點では. as far as 限りでは. concerned 關する. in some measure 幾

分か. reconcile 服する, 心を和げる. to his lot 自分の運命に對して, 即ち園林に出入が出来るので, 自分の運命に對して貧民を慰めることに在るなり. what is more それよりも大切なことは, 其以上に. to the better lot 即ち隣人たる富者の自分にも優つた運命に對して怨みの念などを起さないで, 自然と自分の心を和げることになるをいふ. neighbour 隣人とは富者のことなり. thus to 此の以下の語は皆最初にある it にかゝるなり. pleasure-grounds 娛樂地. thrown open 公開する. his recreation 貧民の休養娛樂. pure air 所謂新鮮な空氣なり. lolls 逍遙する. luxuriously 贅澤に. shade 木蔭. lord 地主. privilege 特權. his own 自己の所有. at the same time 同時に, 一方では. trouble 厄介, 面倒. paying for it 勿論税金を拂ふこと. keeping in order 色々と手入をして整理すること, 自分のものでなくても十分に勝手に使用することが出来れば却つて色々な面倒がなく, 従つて貧民は富者の所有に對しても, ひがみ根性を起さぬを喜んで著者はかく云へるなり.

【譯】私は今や, 其大きさが數世紀間の生長を物語つてゐる檜と楡の, 氣^{にれ}高^{りだか}い並木路の間にはいつた. 風は嚴^{いこ}そかに其枝の間に鳴り, 鴉は樹の頂上にある代々の巢から鳴いた. 眼は段々と小さくなつて行く, 長い並木の景を見通した, 遠方の方の人の像や, 木の間を横ぎつて影のやうに忍びあるく浮浪の鹿以外には, 何の光景を妨ぐるものもなくして.

found myself 行つた. noble けだかい. avenue 並木路. vast 大きな. bespoke 物語る, 數世紀を経て太つたものだといふことを自然に示す. rooks 白嘴の鴉. cawed 鴉の鳴き聲. hereditary 代々同じ巢を用ふる意. ranged through 通してさがし見る, うろ々と見通す. lessening だんだんと減じて, 遠方の景が小さくなる. vista 並木の景色. with nothing なにももたず, 何もなくして. interrupt 妨げる. statue 人間の像. vagrant 浮浪の. stalking 忍びて, こそ々とあるく. opening 木の間をさす.

【譯】此等の亭々たる古い並木の周圍には, ゴシック風の建築の感じをもつた或ものがある; それは單に上べばかりの形が似て居るといふばかりではなく, 亦長い経過の證據を有し吾々がロマンチックな壯大な感じを起す所の, 古代に其起源をもつて居るからである. 彼等並木はまた或る舊家の長い間變らない威嚴と傲然として權力を集中した獨立とを表章してゐる; 私は近頃新しい紳士の壯麗なる殿堂について, 高貴な而も古い貴族の一友が云ふのをきいたことがある, 金錢は石材や漆喰^{しつくい}をば何とでもすることが出来るが, 有り難い哉, 俄然として檜の並木を造るやうなものはないと.

stately 亭々たる, 堂々たる. Gothic Architecture 屋根の先の尖つた風の建築. pretended similarity 似てることを偽る即ち上べばかり似てゐること. bearing 有するこ

と、evidence of long duration 長い時間を経過した證、had their origin.....其起源が甚だ古いものといふしるしを有すること、associate 聯想する、romantic 驚くべきといふやうな意、grandeur 壯大、betoken 示す、long-settled 長く動かない、dignity 品位、威嚴、concentrated 権力を集中した、independence 獨立、an ancient family 之は並木が或舊家のやうな、品位と威嚴と獨立を示す位なり、aristocratic 貴族の、observe=say 云ふ、語る、貴族が成上りりの紳士を批評して云ふなり、sumptuous 壯麗なる、modern gentry 近頃の紳士即ち成り上りの紳士といふ意、could do much with.....を何とでも出来る、thank Heaven 有りがたい哉、building up 並木を作りあげるを云ふ；石や漆喰などは何とでも出来るが古い並木は一朝一夕に出来ぬを誇れるなり。

【譯】沙翁が少年時代に於て、當時ルウシイ家の領地の一部分となつて居た、この立派な古並木の景色の中や、その附近のフルプロオク園林の、この上もない閑靜な場所のあたりを徘徊したことに基づいて、沙翁の註釋家の中には、“アズ・ユウライキ・イツト”に於てチャクスの崇高なる森林の默想及び讀者を恍惚たらしめる森林の景色とを沙翁が描寫したのであると想像するに至つたものがある。人の心が深奥にして靜平な天來の感興を受けて、自然の美妙と崇高とを切に感ずるやうになるのは、このやうな景色の中を獨り靜かに徘徊する時である。想像力は

幻想と歡喜とを起し；漠然ではあるが精妙な幻影や思想などが相續いで之れに現はれ；これがために吾々は默然として、殆んど他人に傳へがたい千萬無量の感想に耽るのである。この詩想が現はれ、田園に逸樂する人の心中を述べた次の短篇の歌となつたのは、このやうな氣分の時であつたらう、また多分私の眼の前に立つて、その廣やかな蔭を、アヴォン河の草多き堤と、ちよろちよろと流れる水との上に投げ出して居る一本の樹蔭の下にあつた時のことであらう：

緑の木の蔭に、
吾と共に臥することを好み、
その好き聲にふしをつけて、
妙なる鳥の歌となせるものよ、
此所に来れ、此所に来れ、此所に来れ、
此所にては彼に逢はずまじ
一人の敵にも、
冬と暴風との外には。

註 It is that some of Shakspear's commentators etc. を was from wanderings etc. に紹介する主語なり。rich scenery 絶景、romantic solitudes 架空的閑寂、commentators 註釋家にして、commentary (註釋)より出づ、例へばハムレット註釋はA

commentary on Hamlet なるが如し. supposed と he との間に
 關係代名詞 that を略しあり. Jacques 沙翁作 "As You Like
 It" 中の一人物. draughts, draft と同じ但し gh と綴るは
 古き英語の發音をなせるなるが口又は咽喉へ液體を
 入れること即ち飲むといふ行爲を表はす語なれども
 此所にては譬喩的に用ひあり. To break upon 俄かに現
 はる, to discover itself suddenly の意. incommunicable 人に傳へ
 又は分ち又は語ることの出來ざる. luxury of thoughts
 無盡藏の思想. It は that the poet fancy etc を受ける主語
 perhaps と under との間に it was の二語略さる. the poet 沙
 翁を指す. sally forth ^{to} leap out 又は rush out の意にして城
 兵が包圍軍を衝いて出づる如き電光石火的の行動を
 いふ、されど此所にてはかの短扁(歌)が立ち所に成つ
 たとふいふ意を現はすに用ひられあり. voluptuary 奢
 侈逸樂の徒、口腹の慾に耽る人. Under the green wood tree,
 etc. — "As you Like It" 即ち沙翁の戯曲(御意のまゝ) ii,
 v., i, より引用せるなり.

【譯】私は今や邸宅が見えるほど近くに來た。そ
 れは大きな煉瓦造りの建物であつて、石の突角
 が幾箇所も附いて居る、そしてエリザベス女王時
 代のゴシック風に造られて居た、何となれば此
 邸宅は女王治世の第一年に建てられたからで
 ある。邸宅の外部は九分通り其建築當時の狀
 態である、故に當時の金満家なる田舎紳士の住
 宅の立派な標本と考へられ得るのである。大
 きな門口が園林から邸宅の前にある庭園のや

うな場所に通じて居るが、その庭園は一幅の草
 地と灌木と花壇とを以て飾られてゐる。その
 門口は古代の箭眼ある外堡を模倣したもので
 ある；前哨の様なもので、多くの塔を以て側面
 が衝られて居る；尤もこれは裝飾用に造つて
 あるので防禦用ではない。邸宅の前面は全く
 舊式である；石の柱がついた窓扉や、大きな石
 細工の大きな張り出し窓や、また石に刻みつけ
 てある紋章のついた扉がある。建物の隅々には
 は八角の塔がついて居て、鍍金した球と風信機
 とが冠されて居る。

註 in sight of 見える所に見えるほど近くに. quoins 煉瓦石
 造の建物など。外壁の角を石をいれて積めるものな
 り. Queen Elizabeth 英國の女王にして一五三三年生れ
 一六〇三年崩ぜり. having been built (as it had been built
 として解すべし. exterior 外部, 外觀. very nearly 殆んど
 original state 原始の狀態. specimen 標本, 雛形. residence 住
 宅, 宅居. courtyard 庭. in front of 前 before に同じ. imitation
 模倣, 眞似. barbican ^{barbican} 築城法の術語にして箭眼ある外堡
 なり. outpost 前哨, 前哨中隊. though と evidently の間に it
 (the gateway) is 略さる. instead of — の代りに. portal 門扉.
 octagon 八邊形, 八角形 weather-cock 風信機なり. 最初寺院
 の尖塔上に風と共に廻轉して風位を示したる風信機
 は雄鷄の形に模して作りたるものをよく用ひたので
 今日に於ても尙ほこの名ある所以である。

【譯】アヴォン河は園林の間をうねくつて居るが、丁度緩斜面の堤の下で一曲りをする、その堤は邸宅の後からだらつと斜めになつて行くのである。多くの鹿の群が河の境で草を食つたり休んだりして居た；そして白鳥が幾羽も河の中を意氣揚揚として泳いで居た。私がこの古色蒼然たる邸宅を見た時に、フォオルスタッフが法官シャルロオの住居を賞讃した詞と、後者の不自然なる冷淡と眞實なる虚榮とを私は想ひ出したのである；

フォオルスタッフ。あなたにはよい結構な御住居がありますね。

シャルロオ。つまりません、つまりません；つまりません；みんな乞食です、みんな乞食です、ジョン卿：一然し請け合ひますが、空気はよろしいですよ。

註 winds うねくつて流れる意。 rear 後部。 large herd 数多き群。 its アヴォン河の代名詞。 majestically 威風堂堂としてといふやうなる意。 bosom 懐、此所にては河身を指す。 called to mind 憶ひ出せり、回想せり。 encomium 讃辭。 affected 風體を衒へる、自然的ならぬ、勿體ぶつた。 indifference 冷淡、無頓著。 vanity 虚榮心、衒ふ。 表面には冷淡の色をうかべながら、内心には得意満々たる體を云ふなり。 rich の次に dwelling を入れて解すべし。 barren 荒

蕪な、不毛な。 Mary は誓ひの詞にして by Mary の略形、即ち基督の生母マリアの名によつて誓ふ意。

【譯】沙翁時代に行はれたこの古き邸宅の宴樂はどのやうにあつたか分らぬが、今や邸内には閑静と寂寥との様子がある。庭園に通ずるかの鐵の大門は閉されて居た；邸宅のほとりに奔走する奴婢の姿が更らにない；鹿は通り過ぎる私を沈著いて凝視めて居た；最早ストラットフォードの悪漢どもに荒らされることのないからである。私の逢つた家内のものの唯だ一つの徽章は一匹の白猫であつて、用心深い顔容をして、廊の方へこそそそと忍び歩きをして居たが、恰かも何か奸惡な遠征を目論見て居るやうであつた。一羽の泥棒鳥の死骸が穀物倉の壁に釣るされてあつたことを私は書き落としてはならぬ、これにつけてもルウシイ家のものが今も尙ほ魚鳥などを偷み取るものを、あたまごなしに嫌忌することを相續して、かの詩人の場合に於て實に手厳しく示した領地的の権力の苛刻な處置を、相變らず固く守つて居ることが分る。

註 joviality 宴樂、酒宴。 locked 閉鎖す。 bustling about 馳せ廻はる、騷々する。 gazed しげしげと見る。 no long 最早……せぬ。

moss-troopers 昔時英國と蘇國との國境地方を荒したる
 匪徒なれども此所にてはただ悪漢とか泥棒とかいふ
 ほどの意なり. wary 用心深き. stealthy pace さし足のき
 足. as if の次ぎに it was の二語省略さる. nefarious 奸惡
 なる, 極惡なる. carcass 死骸, 屍. scoundrel 猾奴のやうな, 惡
 漢のやうな. the Lucys はルウシイ家の人人. inherit 相
 續する, 受け繼ぐ. lordly 傲然たる, 無禮なる. abhorrence
 憎惡嫌忌. poachers 竊かに他人の園内に忍び入りて魚
 鳥などを偷み取る人. rigorous 苛刻なる, 非道なる. exer-
 cise 處置, 運用. strenuously 嚴重に. the bard 沙翁を指す.

【譯】 暫時の間こそこそ歩き廻はつた後、私は横手
 の門に足を向けた、それは邸宅に入る通用門で
 あつた。私は品の善い老婢に懇切に迎へられ
 たが、その老婢は自分にふさはしい慇懃と應
 對とを以て、邸宅の内部を見せて呉れた。内部
 の大部分は改造せられて、近世の趣味と生活の
 状態とに適するやうにしてあつた。そこには
 立派な古い櫛の階段がある；古代貴族の田舎
 邸の立派な見物なる、大廣間は、今日も尙ほ沙翁
 の時代に具へて居たに相違ないと思はれる様
 子を多く留めて居る。天井は穹窿形であつて
 高く；そしてその一端にはオルガンの置かれ
 た廻廊がある。昔時田舎紳士の廣間を飾つた
 獵具と獲物とは家族の肖像に取り代へられて
 居る。たつぷりと昔風に薪を燃やすために調

へられた廣大な賓客用の爐もあるが、こはその
 昔には冬の宴樂の集合所となつて居たのであ
 る。廣間の向ひ側には大きなゴシック風の弓
 形窓があつて、それには石柱が附いて居て、庭園
 を見渡すやうになつて居る。この窓の繪硝子
 にはルウシイ家代々の紋章が描かれてゐて、そ
 の中には千五百五十八年と年號を記されたも
 のもある。私は四つ目の輪の中に白い鹹魚が
 三尾あるのに眼が著いて愉快であつた、蓋し此
 によつてトマス卿が初めて法官シャルロオと
 同一であると知られたのである。この四つ目
 の輪の紋はメリイ・ワイヴズ・オヴ・ウイングル”
 の第一齣に記されてゐる、その齣では法官が自
 分の僕を撲り、自分の鹿を殺し、自分の住居に闖
 入した、と言つてフォオルスタッフを大に怒る
 のである。沙翁がこれを作つた時には自分と
 自分の仲間との屈辱を心中に抱いて居たに相
 違ない、故に權勢あるシャルロオが門地の誇り
 と復讐的威嚇とはトマス卿の傲然たる憤怒の
 諷刺畫であると吾々は想像してもよいのであ
 る。

註 prowling about こそこそと歩き廻はる意にして物を偷ま

んがために心落ち付かずして歩き廻る時などに用ひる語. at length 遂に finally の意. lateral 横の, 側面の. every-day entrance 平日の入口即ち通用門. housekeeper 家事を司る男又は女の奉公人. civility 禮讓, 懇篤. communicativeness 胸襟を開いての談話. order 階級, 身分, 分限. undergo 受ける, 遭ふ. alterations 改造, 變更. modes of living 生活法. feature 形状. manor-house 諸侯の邸宅. appearance の次に which といふ關係代名詞省略せらる. arched 弓形になつた. trophies 戦利品, 召捕物. made way 道路を開ける, 道をよける. hospitable 客を厚遇する, 客を款待する. calculated 適應せしめたる, 工夫したる. rallying-place 集合の場所. festivity 宴會. emblazoned 紋章として描かる. stained glass 繪模様を以て彩色したる硝子にして我が國にては近頃新しい建築にちよいちよい見受けらるるものなり. identified 同一なりとせらる, 同一視せらる. Merry Wives of Windsor 沙翁作脚本. in a rage 怒つて. having "beaten his men, etc." は for の object となれる名詞句. no doubt 必らず, 相違なく. at the time の次に when he wrote it を入れて解すべし. family pride 家柄自慢. vindictive 復讐したがる, 復讐心ある. threat 嚇し, 脅嚇. puissant 盛なる, 権力ある, 力強き. indignation 憤怒.

【譯】シャルロオ. ヒユウ閣下, 私を説きすすめて下さるな: 私はこれを裁判沙汰にする積りござる; 彼が若し二十人のジョン・フオオルスタグフであつても, ロバート・シャルロオ卿殿をば悪口さしませぬ.

スレンダア. グロセスタア州に於ては, 保安の法官, それからマラムの職を持つて居られる.

シャルロオ. さうだ, 従弟スレンダア, まだその上にカスタロムの職をも持つて居る.

スレンダア. 左様, なほラタロルの役をも亦た帯びられた, それから生れながらの紳士, 教區長先生で; どんな書付にもアルミゲロと自ら書き記す教區長保證なり, 償却なり, 借金なり, みなアルミゲロで.

シャルロオ. さうだよ, 私は書き記すのだ; そしてこの三百年間何れの時でも書き記して居るだ.

スレンダア. シャルロオの前に死んだその相續者はみなこれを書き記したのだ, それからシャルロオの後に生れる先祖の人人がみなこれを書き記すのであつて; 彼等はその紋印に十二尾の鰻魚を附けるでござらう.

シャルロオ. 裁判官に聞いて貰はう; これは悪戯いたづらでござる.

エヴァンス. 悪戯事いたづらを裁判官に聞いて貰ふのはよくござるまい; いたづら事では神様かみさまに罰せられませぬ; 裁判官はね, これよく御聞きなされ, 神様かみさまの罰しなされることなら聞きもいたさうが, けれどもいたづら事は聞きたく御座ら

ぬ；その事についてはよくよく御思案をなさ
れたい。

シャルロオ。はあ！一命を賭けても、私がも
う一度若けりや、刀でもつてこの始末は附ける
んだが。”

註 persuade me not は Do not persuade me の意。Star chamber 英國
に於ける古代の高等法院にして國王に對する犯罪者
を審問するの用に供せられり。Esq. Esquire の略形にし
て、様殿、大人などの敬稱に當れり。coram 羅甸語にて前
置詞なるが無學なるスレンダアが學者振らんがため
口から出任かせに前置詞を官名に用ひたるなり。cu-
stodiam これ亦た羅甸語にして意味なし。rational 羅甸
語。a gentleman born 生れながらの紳士。parson 教區を代
表する人。srnigero 羅甸語。Warrant 保證、請合。quittance
償還、報償。obligation 債務、借用。successors 相續人。ancestors
祖先。スレンダアが先祖といふべき所に相續者を用
ひ相續者とあるべき所に先祖を使ひたるおかしみ極
めて多し。a dozen white laces 楯を四分したる中に三尾づ
つありて十二尾となる。coat 紋印。council 會議。Got-
God の訛りなり而して the fear of God は神様を畏れるこ
と即ち神様に罰せらる意あり。vizaments 熟慮、勘考。o'
my life は on my life にて、私の命を賭すの意。

【譯】この様に紋章として描いてある窓の近くに
ビイタア・レリイ卿の手に成つた畫像を掛け
てある、ルウシイ家の一人の畫像であつて、チャ
ルス二世時代に於ける絶世の美人である：老

婢がその畫を指しながら首をふつて私に語る
には、この夫人はあさましくも骨牌に耽り、これ
がために所領大部分を賭事で失つた、その失つ
た所領の中には沙翁とその仲間とが鹿を殺し
た園林の部分があつた。斯くの如くにして失
はれた土地は今日に於ても同家がこれを悉く
回復して居らぬ。このさもしい令夫人には人
並勝れた美しい手と腕とがあつたと告白する
のは彼女に對して、唯だ事實を枉げないであり
のままなることを言ふのである。

註 Sir Peter Lely 英國に住みたる和蘭の畫家にして一千六
百十八年に生れ一千六百八十年に死せり。of one of the
Lucy family の前に a portrait の二語略せる。Charles the
Second 英國王にして一千六百三十年に生れ一千六百
八十五年に崩ぜり。pointed to... を指した。informed 告
げた、知らせた。addicted 惡癖(酒食など)に耽つた。the
lands thus lost (は the lands which were thus lost と解すべし。but
justice は only justice の意。recreant 卑劣なる、臆病なる。dame
は a mistress of a family, who is a lady の意なれば令夫人と
譯するが可なり。surpassingly 勝れて、秀でて、抜んで。

【譯】最も私の注意を惹いた畫像は爐の上の大形
の畫であつた、それはトマス・ルウシイ卿と、其家
族との肖像を描いたのであるが、畫中の人人は
沙翁の晩年時代にこの廣間に起居したのであ
る。私は最初これはかの復讐好きのルウシイ

卿その人であると思つた、が老婢はこれはその子息であると言つた；前者の肖像で唯だ一つ現存してるのは、程遠からぬチャアルコット村の寺院なる墓の上の肖像である。この廣間の畫は當時の服裝と風習との生きた觀念を與へる。トマス卿は^{ひだえり}褶衿と胴服とをつけ；薔薇を挿んだ白い半靴を穿き；そして尖つた黄色の髭、即ち、マスタア・スレンダアの所得、甘蔗色の髭がある。その夫人は畫中の向ひ側に席を構へ廣い褶衿と長い下衣とをつけ、また子女等は如何にも角張つて儀式的な衣服を著て居る。獵犬とスパニエル犬とが家族の中に交つて居る；一羽の鷹は前面の止り木にとまり、そして一人の小兒は弓を携へて居る；—總べてこの事はトマス卿が狩獵、放鷹、弓術などに達して居たことを暗に示すものである—これ等の事は當時の完全な紳士には必要であつたのである。

註 attention 注意、留心。 containing 有(たも)つて、含んで居るの意にして likeness 以下の語と共に painting に對する形容句となれり。 inhabited に住んだ。 at first 初めは、最初は。 himself は knight の意味を強めるために用ひたる語。 assured 確かめた、確かに説いた。 extant 現存する、存留する。 the former 前者、此所にては the vindictive knight を指す。 effigy 通常墓碑上の肖像又は貨幣などにつける主權者の肖像

などをいへども時としては普通の畫像をいふことあり。 hamlet 村落小村、 living idea 生きたる觀念。 ruff 今日にては婦人小兒のみ著すれども昔は男子も亦たこれを著せり。 モスリン又はリンネルの襪と縮れる濼ある頸飾なり。 doublet 西歐諸國に於て十五世紀より十七世紀まで流行せし男子服にして頸より腰又はその少し下部までを包み身體にびつたりと食ひつくやうに著せり。 stomacher 胸部に掩ふ裝飾用の衣類にしてその流行の最初には男女ともにこれを用ひ女子用のものは善美をつくして飾りたるが多かつた。 spaniel 體軀小さく毛長くして深く耳大きくして垂れ脚部は殊に毛を以て覆はれ尾も亦た毛深き犬なり。 intimating 暗に知らず諷示す。 indispensable 缺くべからざる、無くてならぬ、緊要なる。 accomplished gentlemen 多藝多能の紳士。

【譯】私は廣間の古い家具が無くなつて居るのを見て残念に思つた；何となれば私は檉彫の見事な脇附椅子を見たいと思つて見たからである、その檉彫の椅子に座を構へて昔の田舎領主は自分の田舎領地を支配するを常としたのである；そしてかの恐るべきトマス卿が無頼漢の沙翁をその面前に拉し來らしめた時には威風堂堂として王者のごとくに座つて居たと推測してもよい。私は自分の娛みのために空想を恣にすることが好きであるから、この廣間そのものこそ、薄運な詩人が番人小屋に拘禁さ

れた翌朝、吟味を受けた舞臺であつたらうと想つて自ら悦んだ。私はひとり想像して見た、一田舎領主が、厨宰、小者、それから紋の附いた、淺黄服の奴僕などいふ護衛隊にとりまかれ；一方には薄運な犯人の沙翁は、孤影蕭然として元氣なく引き入れられ、番人、獵師、犬追ひなどに護られまた田舎漢が大勢ぞろぞろと後から附いて來たであらうと。半ば開いた戸の隙間から物珍らし相なさえた女中の顔が覗いて居たらう；然るに廊下の方からはトマス卿の息女たちがその身をしとやかに前の方に傾けて、“女性に宿れる”例の憐憫の情を以てこの若い罪人を見たであらうと想像した。かくのごとく田舎貴族の高の知れた權威と、田夫野人の嘲弄との前に畏れて、ふるふる戦いた、この憐むべき下郎が、幾ばくもなく王侯の寵兒となり、萬人の口に上り萬世の賞讃を受けて、人情の指導者となり、且つ自分を壓抑したトマスに對し諷刺と譏文とによつて、不朽の名を賦與するに至らうとは誰もこれを想像することが出来なかつたであらう。

註 regretted 悔んだ、残念に思つた。 furniture 家具、什器。 meet with を發見す、に出くわす。 elbowchair 肘附きのついた椅

子。 former days 昔日。 sway scepture 笏を振ることなれど此所にては譬喩的に用ひられあり支配權や命令權を行ふの意。 domains 所有地、地所。 presume 推測する、推定する。 redoubted 恐るべき、尊敬すべき。 deck out 飾り立てる装ひを凝らす。 the very hall この眞の廣間即ちこの廣間そのもの。 lodge 番小屋、番所。 potentate 權勢ある人、國君、君王。 body-guard 護衛する人、護衛兵。 servingmen は奴僕即ち men-servant なり。 culprit 犯人、罪人。 forlorn 孤獨の靠なき、心淋しき。 chopfallen 喪氣せる、沮喪せる、元氣なき、色を失へる。 whippers-in 獵犬を監督して必要なき場所へ行かしめず場合によりては之を鞭ちて狩獵區域内に入らしめる役目の獵師。 who would have thought 誰が想像したであらうか誰も想像したものがなかつたの意にして none would have thought を強めたる文體。 brief authority 短き威權即ちほんの假りの訟事といふほどの意。 delight 歡喜、愉快 the theme of all tongues and ages 總べての舌(人の口)と總べての時代との話題。 the director to the human mind 人心に對する指導者即ち沙翁がその作物によりてよく人情の機微を穿ちたるをいふ。

【譯】私は今や厨宰に呼ばれて庭園の中を歩くことになつた、そこで菓園と四阿とを見拜に行きたくなつた、これは法官のシャルロオが“自分が手づから接木した去年の苹果を一皿の葛縷子と共に“ジョン・フォルスタッフ卿と從弟のサイレンスとに御馳走した所である；が私は最早彼方此方と歩き廻はつて、時刻も餘程過ぎたから、已を得ずこれ以上の穿鑿は止めることに

した。茶菓を取らぬかとかの老婢と廚宰とが將に私か暇を告げんとした時に懇切にも言つて呉れたので満足に思つた：これは昔風の善き接待振りの一例であつて、概げかはしいことには、吾々のやうな城廓穿鑿家が今日に於ては滅多に出逢はぬものである。この接待振りはルウシイ家の當主が先祖より傳承した美風であるに相違ない；何となれば沙翁が、その諷刺文に於てすら、法官シャルロオをしてこの點に於て煩るさきまでに客を接待せしめたことはかのフオオルスタッフに對して頻りに強ひた例がこれを證據立てて居る。

“何が何でも、あなた、今夜は御立たせいたしませぬ私は決して勘辨いたしませぬ；あなたは勘辨出來ぬのです；勘辨するといふことは禁物です；辨勘するといふことは獻立になりませぬ；あなたは勘辨出來ぬのです……鳩を四五羽、デビイ脚短かの牝鶏が二羽；羊肉を一脚；それから何でも體裁がよくつて手輕なうまいものをこしらへろと料理人のウィリアムに言ひつけなさい。”

註 invite 招待する、案内する。I felt inclined 氣になつた。orchard 梨畑、林檎畑、桃畑など果樹園をいふ。arbar 四阿、園亭。grafting 接木。ramblings 逍遙、ぶらぶら歩き。give up 廢す、罷む。investigations 吟味、穿鑿、調査。when — about その間にI wasを入れて解すべし。to take my leave (to leave)に等し。civil entreaties 禮儀ある懇願。refreshment 茶菓、小酌、點心(チヤウケ)など氣を爽にする飲食、物をいふ。hospitality 懇篤なる待遇。meet with 偶然遭ふ意。mordera は近世の意にしてancient(古代の)反對。I make no doubt はI believeと同じ意。representative は代表即ち此所にては家長の意。importunate 煩るさきく乞ふ。witness は勸詞にして證據立てるの意より。但しwitnessの前に主語they (his caricatures)省略せらる。

By cock and pie 誓ひの詞にして“by God and the service book”と相似たる句なり沙翁時代に能く用ひられたる誓ひの詞よりといふ。you shall not away はI will not let you awayと同じ意。excuses shall not be admitted も亦—I will not let excuses be admittedと同じ意。serve 御馳走を出す意。Pavy 僕の名。joint 關節。mutton 羊肉(物質名詞)。kickshaws 輕微の食品。

【譯】私は今やこの古い廣間にいやいやながら別れを告げた。私の心はこの廣間と關係した想像上の光景と人物とのために全く奪はれて居た、これがため私は直にそれ等の中に生活するやうに思はれた。見るもの聞くものが私の眼前にその光景と人物とをありありと浮び出ださしめた；そして食堂の戸が開いたから、私は

マスター・サイレンスがかすかな震へ聲でその愛誦する次の小歌をしたのが聞えはせぬかと思つたぐらゐであつた：

“廣間にておもしろや、髭は皆ゆすぶれ、楽しき四旬齋を迎ふるその時”

註 Bad a reluctant farewell 本意ならぬ暇を告げたとか割愛して辭したとかいふほどの意。imaginary 想像上の。characters 人物。connected with と關係ある。them は scenes and characterd の代名詞。as it were さながら、ありありと、髭鬚としてなどの意。almost expected 殆んど期待した。quavering 震ひ聲にて歌ふ。favorite ditty 氣に入りの小歌即ち平常愛誦する小歌。Tis は It is の略。beards wag all 髭男どもが打ち笑つて髭をゆすぶるといふ意。shrove-tide 基督教の希臘正教派(ニコライ)天主教派及び聖公會派などの信徒が守る大齋(Lent)の前日。

【譯】旅宿に立ち歸つた後、私はこの詩人の非凡なる才能を回想せずには居れなかつた；彼はこの才能を以て自然の表面そのものに自分の心で魔力を撒き散らし；事物と場所とに本來具へざる面白味と性質とを帯ばしめて、この俗事多き世界をば全き神仙の國と化したのである。沙翁は實に眞の魔術家であつて、その呪文がはたらくのは只だに人の五官の上ばかりではなく想像力と情緒との上にである。沙翁の魔法的勢力にかけられて私は終日全く夢幻の有様で

歩いて居たのである。私は詩の三稜鏡を通してかの景色を眺めたのである、その鏡は紅霓の色彩を以て總べての物を染めた。私は架空の人物によつて身邊をかこまれた；詩の力によつて作り出された、虚無に過ぎない事物によつて身邊をかこまれた；然かもそれは私にとつては皆現實の面白味を具へて居た。私はチャックがその櫥の下で獨語するのを聞いた、美しいロザリンドとその友とが森中を探検するのを見た；そして、中にも、肥大なるチャック・フォオルスタッフ及びその同時代の人人と精神的に再び引見せられたが、同時代の人人といふは威風凜凜たる法官シャルロオを首めとし、おとなしいマスター・スレンダアや美しいアン・ベイズに至るまでの人人である。無邪氣なる幻影を以て人生の惰氣滿滿たる現實を斯くの如くに飾り；私の蹉跎多き行路に精妙にして金錢を以て買ひ難い娛みを擴げ；それで多くの寂びしい時、私の精神をすかし慰めるに、楽しくて心地のよい社會的生活の同情を以てするこの詩人に對して、幾千の尊敬と祝謝とを呈したいと思ふのである：

註 On returning 擧つた後の意にしてこの on は after と解す。 I could not but は I could not avoid 又は forbear 私は...せざるを得ず又は...するを禁ずる能はずの意。 but=except. reflect 回想する, 反省する。 singular 非凡の, 卓絶の。 gift 賜物, 才能。 to be able は gift を形容する句。 magic 魔力。 to give も亦た gift を形容する句。 not their own の前に關係代名 which と動詞 were を入れて解すべし。 to turn も亦た gift を形容する句。 fairy land 仙境。 enchanter 魔術を使ふ人。 spell 呪文。 not...but... は not only...but also... と同じ意にして, のみならずと譯す。 wizard influence 魔法的作用, 魔力。 delusion 幻想, 忘覺。 surveyed 査察した, 監察した。 prism 三角玻璃, 稜鏡。 tinged 染めた, 色を著けた。 hues 色, 色彩。 rainbow 虹, 虹霞。 fancied beings 想像上の人物。 with mere airy nothings の前に I had been surrounded を入れて解すべし。 airy nothings 虚無の事物。 conjured up 作り出す soliloquize 獨り言をいふ。 had beheld の前に I といふ主語略さる。 adventuring through the woodlands 森林を渡る限なく探検して居る。 above all 何よりも。就中即ち more than all の意。 above all, の次に I 略さる。 contemporaries 同時代の人人。 august 形容詞にして壯大なる, 威風凜凜たるの意。 Ten thousand honors and blessings の次に may be bestowed を入れて解すべし。 gilded 修飾した。 realities 現實, 實在。 innocent 罪のなき, 害のなき。 illusions 幻影。 exquisite 秀美なる。 unbought 買ふことの出来ざる。 chequered 入り交りたる checkered と同じ意。 beguiled 苦痛などをすかし忘れしめた意にして時の移るを知らずと解するも可なり。 sympathies 同情, 思ひ遣り。 social life 社會生活。

【譯】私は歸途アヴォン河に架かれる橋を過ぎた時に足を留めてこの詩人が埋められてゐる遙

か向ふの寺院をしげしげと見て, かの碑面の呪咀を喜ばすには居られなかつた, その呪咀が彼の遺骨を平穩にして神聖なる窖の中に靜かに納めて居るのである。沙翁の名が爵位ある多くの人人の墓碑と肖像と金錢を以て買はるべき頌詞などと塵芥の伴侶の中に混つて居ることによつて如何なる名譽を受けることが出来やうか: 沙翁一身の靈廟として風景絶佳の仙境にあると思はれる, この尊き寺院に比較すると, ウェストミンスター寺院のごちやごちやした一隅は何でもない: 墓場について心配するは過勞した感情の生むものに過ぎないかも知れぬ; 然し人生は弱點と種著とから出来て居る; それで人生の最も善くて最もやさしい性情は是等の技工的感情と混るものである。世界に立つて名譽を求め, そして世上の人氣を十分に收め得た人が, つまり感ずるのはいかなる愛情も, いかなる賞讃も, いかなる喝采も, 自分の故郷に於て發生するものほどには心に快くないといふことである。人が親類や故舊の中に平和と尊敬とを以て交へられたいと望むのは故郷である。そして其疲れた心と弱つた腦力とが

死期の近づくことを警告すると、少年時代の光景の愛に繞まれて永眠せんがために、嬰兒が母の兩腕に抱かれんとするやうになつかしげにこれに向ふのである。

註 on my return 歸途. contemplate 熟視する. lies buried 埋められて臥す. exult 大に喜ぶ. malediction 呪咀、此所にては沙翁が自から草せるものと稱せらるる墓碑のかの四行文を指す. undisturbed 擾れずに、靜かに. vaults 窰. what honor could his name have derived...? は“彼の名はいかなる名譽をも受けることがない”の意を強めたる文體. dusy companionship 俗臭紛紛たる伴侶. epitaphs 死者を記念せんがめその墓碑の上又は傍に印刻したる文. a crowded corner 群集せる一隅、此所にてはかの「詩人墓地」を指す、但し沙翁はウエストミンスタア寺院に埋められれどその半身像は同寺院にあり. pile 大塚、此所にては寺院なり. mausoleum 陵、靈廟. solicitude 心配、苦慮. but 唯だ. offspring 子. over-wrought 勞し過ぎた. sensibility 感情、心の傾向. is made up of...より成る. faibles 弱點、短所. prejudices 撞著、偏見. factitious 人工的、まがいの技工的. after all 詮ずる所、つまり. kindred 親族縁者. early friends 馴染. the evening of life 晩年、死期. to sink to sleep 死んで埋められる意. in the bosom of の愛に繞まれて即ち in the affectionate inclosure of の意なり、沙翁はその晩年即ち1611年より1666年まで故郷ストラットフォードに退隱に靜かに餘生を送れり。

【譯】多くの年月を閑みせずして、自分が名譽を以て包まれて故郷に歸るやうになつたこと、自分

の名が故郷の自慢と榮譽とになるやうになつたこと、自分の遺骨が故郷の最も貴重なる寶物として、うやうやしく守護せられるやうになつたこと、又た遠くなるに従て段段小さくなり行く故郷の寺院の塔をば、自分の眼は涙ぐんで見たのであるが、それが優美なる風景の中に高く聳え立つて、自分の墓に詣でんとあらゆる國國の文藝的巡禮者を案内すべき、航路標識にいつかはなつたであらうといふこと、こんな事を豫め知つたならば、前途の見込も立ち難い世の中へ、恥辱を受けて迷ひ出やうして自分の先祖傳來の家をば悲しさうに見返つた時に、その豫想がどんなにかこの青年詩人の精神を喜ばしたであらうものを。

註 how would it have cheered. どんなにか喜ばしたであらうものを(然し喜ばさなかつた)の意. youthful bard 青年詩人即青年の沙翁. disgrace 不面目、屈辱. a doubtful world 疑惑多き世の中即ちこれといふほどの望みもなき世の中. paternal 世襲の、父祖の. could he have foreseen は if he could have foreseen の變體. he should return 立ち歸らしめらるの意にして、單數名詞及び代名詞 he, she, it を主語とする should は、その行爲自働的に發せず必らず他よりの影響を受けて發せらるるなり。本節にある以下の各 clause の should 亦も同じ意に用ひられあり. boast 誇、自慢. glory 光榮、榮譽. religiously 宗教的に、崇敬の

意を以て. lessening ますます小さくなる. spire 基督教寺院の尖塔. one day 他日, 何日か, 即ち At some future indefinite time の意. beacon 航路標識なり但し此所にては目標といふほどの意なり. towering 巍然として聳ゆる. literary pilgrim 文藝的巡禮者にして文藝熱心の旅行家といはれんほどの意なり. 但し pilgrim は元來宗教上の専門語なれば此所にては沙翁の如き文豪の遺跡を宗教的敬畏の念を以て訪ふ人と解するがよし.

印度人氣質の特性

“私はどの白人にも訴へます白人が飢ゑてロオガンの小舎に来るのをロオガンが食物を與へないことがあつたかどうか; 白人が寒く裸で来るのを衣を與へないことがあつたかどうか。”

— 印度酋長の演説

北アメリカの蠻民の性質と習慣とには、廣大な湖水や、際涯もない森林、大河巨流や、さては人跡の絶えて居る平野など、その常に徘徊する風景とともに考へると私の満足する様に、驚くべく顯著でまた崇高なものがある。アラビア人が砂漠に住むやう造られて居る如く、印度人は荒野に住むやう造られて居る。その性質は嚴肅質樸で、また忍耐力があり; 困苦と戦ひ且つ飢餓を支へるに適して居る。その心には親切を盡す徳を養ふべき餘地がないやうに見える; それであるのに、偶然の觀察にはその性質を隠蔽するころの、かの傲然として喜怒を色にあらはさず且つ默然としてなかなか口を開かない習慣の奥に立ち入る面倒だに吾等が取るなら

ば、通常考へられて居るよりも同情の心と愛憐の情とがもつとあつて文明的生活を送る人間と離れて居るものでないことが分る。

註 traits 特性特質即ち peculiarities の意. Logan 千七百二十五年に生れ千七百八十年に死んだ印度酋長. taken は if they (his character and habits) are taken の意. in connection with は joined to, in company with と共に、兼ねて、に就けて、などの意. range 徘徊する、歩き廻る、通行する. boundless 限界なき、疆りなき、際涯なき. majestic 堂堂たる、莊嚴なる. that は前の the scenery を指す. to my mind は according to my satisfaction, or wish, or idea, 自分の満足するやうに、自分の意に従ひ. striking 著しく、顯著で. sublime 高尚で、巍然たる. the Arab is for the desert の is と for との間に formed が略されてある. grapple 纏み合ふ、取り組む. privations 缺乏. but little は only little で、極めて多くない意. kindly virtues 友情とか慈善とかいふやうな人に親切を盡す徳行をいふ. penetrate 透入する、入り込む、貫き入る. stoicism 希臘の哲學者 Zeno (358—260 B. C.) の唱へた主義で、情のために制せられず、能く忍び、能く耐え、苦樂の外に超然として居ることをいふ. taciturnity 無口、寡言、沈黙. lock up 閉鎖する、隠蔽する. casual observation 偶然の觀察、要意なき觀察. linked は link 鏈(クサリ)から出た働詞で、連絡して居ること、即印度人のやうな蠻民でも文明人と同胞であるといふ意をあらはす. than are usually ascribed to him の than と are との間には what they の二語を入れて解する、ascribed は歸せられる、歸與せられるの意.

【譯】 殖民の初期に當つて、白人のために二重に虐

待せられるのは、不幸なアメリカの原住民の運命であつた。彼等は欲得づくで往往無法な戦争のために世祖傳來の財産を奪はれた；また彼等の性質は頭迷で私心に動かされる文士のために譏られた。殖民地の民は屢屢森林の野獸のやうに彼等を遇した；また文士は殖民の亂暴な行を正當の理由があると示すために努めた。前者は教化するよりも殲滅するを更に容易であると思ひ；後者は差別するよりも誹謗するを更に容易であると思つたのである。野蠻人や邪教徒などの名稱は双方の交戦を正當であると保證するに足ると考へられた；かくの如くしてこの憐むべき森林の徘徊者は迫害せられまた誹謗せられたが、これは彼等に罪惡があるからではなく、無智であるからといふことであつた。

註 aborigines 原民、土著本初の民. colonizat'ion 白人の殖民をいふ. wronged 辱しめられる、虐待せられる. dispossessed 奪ひ取られる、押領せられる、横奪せられる. mercenary 利欲的、金もうけの、金錢づくの. wanton 亂暴な、無法な. interested 偏私的、偏頗な. justify him in his outrages 殖民の亂行を擁護したといふ意で、單に justify his outrages とは書かず、この用法は例へば彼の研究を助くを study his studies と書かずして、help him in his studies とすると同じ

である。exterminate 全滅する、絶やす。discriminate 正邪の區別をする、商悪の差別を立てる。appellations 稱號、名稱 pagan は one who worships false gods の意で、キリスト教を主として他宗の人をいつた語である。sanction は authorise、正當であると保證せられることをいふ。hostilities 敵對交戦。wanderers of the forest 印度人を指す。

【譯】蠻民の權利が白人によつて正當に尊重せられまたは重視せられることは殆んどなかつた。平和の時には屢々狡猾な交易の術中に陥る人となり；戦争の時には猛烈な野獸と認められその生死はただ用心と便利との問題であつた。人間は自分の安全が危くせられ、而も危害を受ける畏なく保護せられるならば、殘忍にも生物を殺すを好むのである；故に人間が爬蟲類に刺されて殺滅力のあることを自覺すると、哀憐の情を多くこれから期待することは出来ぬ。

註 have seldom been 稀にあつた、即ち滅多にない、殆んどないの意。dup 人の術中に陥り易い人、容易に欺かれる人。artful 詐りの多い、懸引の多い。traffic 商賣、交易。ferocious 兇惡な、悍猛な。wasteful of life 生命をただづかひする、生命を取ること何とも思はぬ。by impunity 無事により、無難により、即ち危害を受ける畏れなくの意。little mercy is to be expected from him の little は not much の意で、多くの哀憐を人間から期待せられはせぬ、即ち he becomes cruel 人間は殘忍となる、といふことを婉曲に言ひ表はしたのである。reptile 蛇の如き爬蟲類をいふ。

【譯】往時かくの如く氣隨に振るまはれた、同じ偏見は今日に於ても廣く世間に行はれて居る。成程、二三の學術的團體は、感すべき勤勉を以て印度種族の眞正なる性質と慣習とを調査してこれを記述せんと努めて居る；米國政府も、亦た、印度人に對して友情に富み且つ寛仁大度なる精神を養成し、これを保護して詐欺と不正とに陥らざらしめんと賢くもまた深切にも力を盡して居る。然し、印度人の性質に關して世に行はれて居る意見は、邊境に出入し、殖民地の片端に住んで居る悲惨なる浮浪の徒に基いて作られるやうな傾向がある。これ等浮浪の徒は社會の文明によつて利益を享けるとなく其罪惡によつて腐敗し衰弱した墮落の人類から成り立つて居ることは實に明かである。蠻民の道德の大黒柱となつて居る、かの立派な獨立の氣象は振ひ落とされ、道德的組織は全く支離滅裂に陥つて居る。彼等の精神は劣等であるといふ觀念によつて卑くせられ又貶されて居る、そしてその本來の勇氣は開化せる隣人の卓越した知識と勢力とによつて嚇され挫かれて居る。社會は豐饒な全地を荒廢に歸せしめるこ

ともあるかの熱風の一つの如く彼等の上に襲うて来て居る。これは彼等の元氣を衰亡せしめ、彼等の病氣を増加せしめ、また彼等が元來の野蠻に人爲的生活の劣性なる罪惡を加へた。これは多數の贅澤物の必要を彼等に與へ、然かも彼等の生命を支へるだけになくてならぬものを減少した。これは狩獵すべき野獸を追ひ拂ふたが、斧の音や殖民地の畑などのために遁げて、遠方の森の奥や人のまだ行つたところのない荒野に^{かくれは}匿所を求める。かくの如くして我が國境にある印度人が一時は勢力のあつた種族のなれの果てに過ぎないとを實に度々見るが、彼等は殖民地の近傍にぐづぐづして定つた所もなく浮浪するものとなつて仕舞つたのである。蠻民の生活には知られなかつた心の錆なる貧乏、怨み多く望み少き貧乏は、彼等の精神を腐蝕し、彼等の天資の自由にして高尚な性質を悉く枯らすのである。彼等は酒に溺れ、怠惰、虛弱、盜心あり、且つ氣の弱いものとなつた。彼等は殖民地の近邊を無宿者の如くに徘徊し、念の入つた娛樂の充満した廣大な住宅の間に入出するが、この事は彼等をして自分の境遇の比較的あ

さましいことを感せしめるに過ぎぬ。贅澤物が彼等の眼前にたつぷりとした御馳走となつて擴がる；然し彼等はその饗應から排除せられる。田野には澤山の宴樂がある；然し彼等はその豊富な中にあつて飢ゑて居る；荒野はみな花咲き亂れて庭園となつた；然し彼等はこれに出没する爬蟲類のやうな心地がする。

註 prejudices 偏見、偏執、曲想。 circulation 流布、傳播、流通、通用。 certain learned societies 學者連中を以て組織せる某某團體。 laudable 褒むべき、稱讚すべき。 endeavored 努力した、力を盡した。 humanely 深切にも、情深くも exert itself の itself は the American government を指し、us efforts or endeavor、又は strive、又は make an attempt などの意。 inculcate 教へ込む、諄諄と教へる。 forbearing 寛大仁慈な、大目に見る。 proud and injustice 米國政府は印度人を保護して白人商人の詐欺にかからしめぬため、個人間の協議によつて印度人の土地を買ひ入れることを許さず、また政府の特許なくしては、印度人から土地の讓與を受けられぬことにしてこの規定は嚴重に實行されたのである。 current opinion 世の中に廣く行はれる意見、輿論。 is too apt 兎角…易い、動もすると…する。 hordes 遊牧の民軍、流民群、群衆。 infest 出沒して害をなす。 frontiers 邊疆、國境。 hang on は hold fast, stick, 固執する、離さぬ、執著する、などの意。 too commonly compassed 餘りに普通に成り立つ、酒酒として然りといふ意。 degenerate beings 賤しい人、墮落せる人。 the vices of society 社會の罪惡、即ち奢侈とか柔弱とかに陥る罪をいふ。 main pillar 主要なる柱、骨髄、中堅、な

どの意. *lies in ruins* 見るかげもなきあはれの有様であるといふ意. *by a sense of inferiority* 自分等はとて白人には及ばぬものであるとの考によつての意. *courage* の次に *are* を略してある. *enlightened neighbors* 開化せる隣人、即ち白人をいふ. *withering airs* 草木を枯死せしめる風. *enervated* 弱めた、衰へさせた. *superinduced* 添加した、その上に加へた. *artificial* 人工的、技工上の. *superfluous* 餘計な、贅澤な、などの意. *diminished* 減少した、減少した. *mere existence* ただ生命をつなぐだけのこと. *seek refuge in the depth* 奥深き所に匿所を求める、奥深き所に姿を隠す. *do we too often find* は *we too often find* の emphatic form で、うるさいほど目につくの意. *wrecks and remnants* 破損物と残物、即ち見るかげもない形見の意. *precarious* 安穩ならぬ、定まらぬ、覺束ない. *vagabond* 無宿の、ごろつきの. *repining* 悵悵として人の精神を腐らす、の意. *repining and hopeless poverty* は最初の *poverty* を説明した句. *a canker of the mind* も亦た最初の *poverty* を説明した句. *corrodes* 腐蝕する、蝕壞する. *pusillanimous* 氣の弱い、いくぢなき、怯懦な. *spacious dwellings* 大廈高樓. *replete with* を十分に満たした、を充滿した. *elaborate comforts* 經營慘憺の上で發明した娛樂、苦心してこしらへた娛樂. *luxury spreads its ample board* 山海の珍味がすらりと列べられたといふ意. *plenty revels over the fields* 田野には穀物が澤山に出来て居るの意. *in the midst* は *amid*, *among*, 央に、中程にの意. *the whole wilderness has blossomed into a garden* 荒野は白人によりて悉く開拓され庭園の如くなりて立派であるといふ意.

【譯】印度人がまだ嚴然たる土地の君主であつた間のその態狀は大變に異つた所があつた；彼

等の必要品は少かつた、そして生活上の満足を得る資料はその手中にあつた。彼等が自分の周圍に居る總べての人を見ると同一の運命を受け、同一の困難に耐え、同一の食物を食ひ、同一の粗服を著飾つて居た。當時はいかなる家でも宿る所のない旅人を入れたい所はなかつた、いかなる林間の煙でも、旅人がその火の傍に坐つて、獵夫と食事を共にするやう歓迎せられないのはなかつた。“何となれば、” ニュウ・イングランドの歴史家はいふ、彼等の生活には心配が全くなく、また愛する念が深い、故に自分の享受する此等の物を公共の財産として用ひ、この點については憐憫の念が極めて深いから、一人が食物の缺乏によつて餓死するよりも寧ろ、みんなが餓死することを望んで居る；かくの如くして彼等は愉快に月日を送り、吾等の裝飾を注意しないで、自分の所有するものを以て更によく満足して居るが、ある人人はこれをつまらないものであると思つて居る。” 原始の性質の自尊心と氣力があつた間は、印度人はかくの如きものであつた：彼等は森の蔭で最もよく繁茂するが、開拓の手を避け、そして太陽の光の下

では枯れる、かの野生の植物に似て居た。

註 whileの次に they were の二語が略されてある。undisputed 争はれない、人から兎や角と故障を持ち込まれないといふ意。gratification 満足、滿意、満足せしめるもの。within their reach 彼等に得らるべき、彼等の及ぶ所に、の意。sharing 共享する、分有する。aliment 生活の必需品。arrayed 美衣をつける、盛粧する、の意で、此所では滑稽的に用ひてある。but was open は that was not open の意。but he was welcome は that he was not welcome の意。the hunter は 林に火を焚く當人をいふ。void ない、缺無である。make use of を使用する。common goods 共同財産、共有の財産。therein は in that particular の意で、すべて彼等の享有するものを共有物とする點に於ては、といふとである。not regarding our pomp 吾等即ち白人の華飾に眼を著けないでの意。are better content, etc. 白人がその華飾に満足するよりもよく、印度人は自分の享受するものを以て満足して居る、といふ意。which... of の which は their own を受けて居る。some men 白人中の或者の意。whilst と in との間に they were の二語が略されてある。shrink from は turn away from, in dislike, unwillingness, fear, etc. の意。

【譯】蠻人の性質を論ずるには、文士が劣悪な偏見と常規を逸した誇張とに耽り易く、眞正な哲學の公平な氣分によらないのである。彼等は印度人がおかれた特別の境遇と、その教育せられた特別な主義を充分に考へない。印度人ほど嚴格に規則によつて行ふものはない。印度人の行動はみな幼き時その心に植ゑつけられて

何か普通の箴言によつて治められるのである。印度人を支配する道德上の律法は、勿論、極めて多くはない；然し多くないけれども悉くこれに歸服するものである；—白人には宗教や、道德や、禮儀などの律法が譯山にある、然しこれに背くことがいかにも多いではないか？

註 discussing 辯論する、論議する。too prone は too inclined 傾き過ぎる、傾向が多過ぎる。passionate 感情に動かされ易い、虚心坦懐でない。exaggeration 大袈裟にいふこと、法螺。candid 公平な、私心なき。considered 考究する、研究する。no being acts more rigidly, etc. は the Indian acts more rigidly from rule than any other being. で、from rule は according to rule の意。regulated 整齊せられる、治められる。general maxims 一般の人に適用が出来る格言。early implanted の前に which wer が略されてある。to be sure は of course, certainly, without doubt などの意。but few は only few の意。then は but few であるが、といふ意。conforms to... を守る、に従ふ。abounds in が充滿する、に富んで居る。how many does he violate? は作者の眞意は he violates a great many of those laws indeed. といふにあるが、わざととぼけて、この律法を白人はどの位破るかと疑問の文體を用ひたので、冷骨を刺すの概がある。

【譯】毎度印度人に對する攻撃の論據となることは彼等が條約を守らず、奸詐放肆で、外見上平和な時に、突然戦争を始めるといふことである。然し、印度人と白人との交際は、兎角冷淡で、疑心多く、壓制と、凌辱とに流れ易い。眞正な友情に

なくてはならない信任と眞率とを以て遇すことが滅多にない；單純な利害上の理由よりも速かに印度人の敵意を起さしむるゝが度度あるかの自尊心と迷信との感情を傷けないやうに十分な用意が行はれない。孤獨の印度人は沈黙ではあるが鋭敏に感ずるのである。印度人の感覺は白人の感覺の如く廣い表面に擴がつては居らない；然し白人の感覺よりもしつかりとして深い道を動いて居る。その自尊心や、その愛情や、その迷信などは、みな白人よりも少數な物體の方に向けられて居る；然しこれ等のものの上に蒙らされた損傷は従つて猛烈であつて、吾等が充分に辨別することの出来ない敵意の動機を與へるのである。印度種族に於けるが如く、社會がまた人數に於て限られ、且つ族長式の一大家族を形成する所には、一人の損害は全體の損害である；そして復讐の感情は殆んど直ちに擴がる。評議をするために一度焚火を圍んで集會することは戦争の計畫を討論したり支度をしたりするに充分である。此所に總べての戰士と智者とが集合する。能辯と迷信とが相合して軍人の心を激昂せしめ

る。能辯の人は彼等の軍事熱を喚起して預言者と空想家との幻によつて、彼等は一種の宗教的狂熱となるやうに鼓舞せられるのである。

註 accusation 求刑, 告訴, 罪狀, 攻撃, 問責. disregard 蔑視, 輕侮. treachery 叛逆, 不信, 奸詐. wantonness 放埒, 無法, 亂暴. in time of apparent peace 一寸見ると平和な時に. intercourse 交通, 交際. insulting 侮辱, 侮慢, 無禮. frankness 卒直, 公明正大. indispensable 必要なる, 緊要なる, 缺ぐべからざる. nor is sufficient caution observed は or sufficient caution is not observed の變體である. not to offend は so that the white man may not offend の意. prompt 鼓舞する, 喚起する, 激せしめる. to hostility quicker than, etc. 利害の打算よりも敵意を起す方が迅速であるといふ意. solitary savage 黃塵萬丈の都市的生活を送らずしてさびしい境遇にある蠻民といふ意. acutely は sharply, keenly の意. so wide a surface as は such a wide surface as と同じ意, なほこの文章全體の要點は、印度人の感覺は白人の感覺ほどに廣汎的でないといふことである. they run in steadier, etc. は, the sensibilities of the Indian is steadier and deeper than those of the white man, といふ意を修辭的に書いたものである. proportionably は in due degree, これに準じての意. motives of hostility 敵意を起す原動力, 敵對心の導火線. community 社會, 公共. limited in number 數の制限, 即ち人數が少いといふ意. patriarchal 族長的, 家長的. vengeance 報怨, 復讐. instantaneously 即刻, 立ち所に, 直ちに. one council fire 焚火をして, 會議を一回催すこと, 印度人は火を燃やしながら集會する慣習があるから, かくいつたのである. discussion 議論, 討議. arrangement 準備, 支度, 用意. martial ardor 戦争の熱情. wrought up は excited, stirred 喚起する, 煽動する, の意. desper-

tion 死にももの狂ひ、向ふ見ず. visions 幻想、夢想.

【譯】印度人の性質に特有なる動機によつて起り来る、突然の激怒の一つの例は、マサユチセット殖民の初期の古い記録に残つて居る。ブリマスの殖民がパツソナヂエシットなる死者の墓碑を破壊した、そして酋長の母の墓を飾つてある獸皮を掠奪した。印度人はその血屬の墳墓に對して心に懐く尊敬を以て知られて居る。先祖の住居から追放せられて數代を經過した種族が、たまたまその近傍を旅行して居る時には、街道から外道へ行き、そして、驚くべき精確なる傳説によつて導かれ、數哩の間地方を横ぎつて墳墓に行くか、それが多分森の中に埋められてあつて、そこには彼等の種族の白骨が古代に納められたのである；それからそこで沈思の數時間を送つたものである。この崇高にして神聖な感情に感化されて居たから、母の墓を破壊された酋長は、その部下を集めて、次ぎに述べるやうな立派にも簡單にして悲愴な演説を彼等に行つた；これは印度人の能辯の珍らしい標本であつて、蠻人の孝心についての人の心を感動せしむべき一例である。

註 exasperatio 激怒憤怒. peculiar to the Indian character の前に which is の二語が略されてある。extant 現存する、存留する。Massachusetts 米國東部にある州で、首府はボストンである。Plymouth 米國ニューイングランド地方の最も古い都府。the dead 死者、形容詞に定冠詞を附けて名詞としたもの。Sachem 北米の印度人の酋長を指す。remarkable for を以て著名である。sepulchres 墓、塚、have passed generations exiled 追放されて數代を過ごした、追放されてから數代になる、の意。by chance 偶然、期せずして。turn aside (I go out of the path, go in another direction, 道を外す、外道へ行く、などの意。wonderfully accurate tradition 人間業とおもはれないほどの精確な傳説。tumulus 墳、墳丘。the bones 白骨、遺骨。deposited 貯へられる、堆積せられる。meditation 默想。influenced 感化を受けて居たから、即ち as he had been influenced と解する。addressed 陳述した、演説した。harangue 演説、公説。a curious specimen の前に it was の二語が略されてある。affecting 感動すべき、人の心に徹する。filial piety 子としての畏敬、即ち孝心。

【譯】“大空のさかえある光りが昨夜その地球の下になつて、鳥が鳴かぬやうになつた時に、私の習慣である如く、安臥しやうと、思うことになつた。私の眼がしつかりと閉ざされない内に、私は幻を見たと思つた、これがために自分の精神は大に惱まされ；そしてその悲哀なる觀物に戰慄すると、一つの靈魂が聲高く叫んでいふに、見よ、私が愛育した、子よ、御身に乳を與へた胸、御身を温かに包み、幾度も御身をはぐくんだ手を

見よ。我等の紀念物と尊き習慣とを輕侮して、憎むべき舉動によりわが墓碑を破壊したかの暴民に御身は復讐することを忘れることが出来るか？ 見よ、今や、卑賤な種族のために破壊せられて、酋長の墓は普通民の如くに横はつて居る。御身の母は苦情をいふぞや、それで近頃わが領地に亂入した、この盜民に反抗するやう切に御身の助力を求むるぞよ。これを放任することになると、私は自分の永久の住所に心靜かに留ることにならぬ。かくいつて、靈は消え失せた、そこで私は、全身汗にまみれ、物言ふことが出来なかつたが、少しは氣力がつくやうになり、なくなつて居た自分の元氣を興して、なんち等の意見と加勢とを求めることに決したのである。”

註 the glorious light 榮光ある光、即ち太陽。 all the sky 大空、天つ御空。 to take repose 安臥を取る、即ち安眠する意。 mine eyes は my eyes の古風ないひ方。 me:thought は I thought 又は it seemed to me の意。 doleful 哀しき、憂愁の。 cherished 愛育した、慈愛した。 suck 口で吸ふもの、殊に母の乳をいふ。 oft は often と同じ。 canst thou は can you の古風ないひ方。 despiteful 憎しみの深い、毒毒しき。 antiquities 古代の遺物、紀念物。 ignoble 下賤な、微賤な。 doth complain は does complain の古風ないひ方。 implore 懇求する、切願する。 intruded 闖入した亂入した。 suffered 許される、放棄され

る。 everlasting habitation 永久の住居、即ち墳墓の意。 this said は when this was said の意。 I, all in a sweat. and was not able scarce to speak began は I who was all in a sweat and was not able scarce to speak began として解する。 spirits は energy, courage の意。 counsel 相談、忠告、意見。

【譯】私はこの逸事を随分長たらしく引證した、氣の變り易いことと不信不實とに歸せられて居る、これ等突發的敵對行爲が深くして、氣高い動機によつて實に屢々起り得るものであることを示すことに氣がつくからである、これ等の動機は印度人の性質と風習とに對する私共の不注意によつて正當に評價することが出来なくなるのである。

註 adduced 引いた、舉證した。 at some length は somewhat long の意。 tends 氣を付ける、注意する。 attributed 歸する、思惟する。 caprice 恆心なきこと、無定見。 perfidy 不忠、不信、不實。 deep and generous motives 深くして氣高い動機、親に對する孝心とか祖先崇拜などのやうな動機をいふ。 inattention 怠慢、等閑、無頓着。 prevent our properly appreciating 私共の正當に評價することを妨ぐ、私共が正當に評價することが出来なくなる、の意。

【譯】印度人に對する猛烈な攻撃のもう一つの論據は敗者に對する彼等の殘忍なことである。これは半分は政畧また半分は迷信にその起原を發するのである。印度人の種族は、國民と稱せられることもあるけれども、その數は決して

怖るべきものではない、これがために彼等はその戦士の數人を失ふことを痛惜せずには居られぬ；この事は彼等が屢々戦争に従事する時殊にさうである；そしてこれが多くの例證は印度の歴史にあつて、長く四隣の人々にとつて畏ろしかつた一民族が、その重なる戦士を捕獲せられまたは殺戮せられたために散散になつたり追ひ去られたりしたことがある。それ故に、勝者にとつては無慈悲となるべき、強い誘惑である；これは残忍な復讐心を満足しようとするよりも、將來の安全のために豫め圖るためにするのである。野蠻民の間に度度あり、また古代の人々の中にも往往あるごとく、戦死した身方の魂魄は捕虜の血によつてなだめられるといふ、迷信を印度人もまた持つて居た。然し、このやうに血祭に供へられない捕虜は、死者の代りにその家族に養はれ、そして親族や友人などと同じ信用と愛情とを以て待遇せられるのである；否、その取扱は實に懇切で親切であつてどちらがよいかといはれるならば、彼等は少年時代の家庭や友人のもとに歸るよりも寧ろ、その義理の兄弟たちとそのまま一所に居ることが度度好きなのである。

註 another ground もう一つの論據. the vanquished 征服したるもの、敗者. This は前文の their barbarity を指す. partly in policy and partly in superstition は、in policy and in superstition を修辭的にいひ表はした句. though と sometimes との間に they were の二語が略されてある. but that は that..... not の意で、身方の戦士が數人戦死すると、これを痛惜しないでよいほどに、人數が多くない、即ち人數が少いから身方が數人戦士しても大打撃であるといふことになる. this was particularly the case の this は、前文の戦死の討死を指す. many an instance は many instances を強めていひあらはした形で、many times, one instance の意. where は in which の意で. instance を指す. broken up は dissolved または dispersed の意. there was a strong temptation 甚だ陥り易い、といふ意. not so much...as... は後者ほどに前者はない、即ち前者でなくして後者である、といふ意であつて、not so much の前に this temptation is の三語を入れて解する. provide for は furnish with resources or means, のために豫め圖る、の意. superstitions belief の次に which was の二語を入れて解する. man's 先祖の神靈. had fallen in battle 討死したことのあつた戦死したことのあつた. sacrificed 犠牲とせられる、殺して祖先の靈にささげられる. in the place of の代りに. the alternative 何れか一方、二者その一を擇むことの意で、此所では故郷に歸るか、敵地に留つて居るか、どちらにするかと問はれると、といふことになる。

【譯】印度人の捕虜に對する残忍であることは白人の殖民以來ますます高められた。政略と迷信とを以て以前に行はれたことが、更にひどく

なつて復讐心を満足さすために行ふことになつた。白人は自分等の古來の領地を横領したものであり、自分等の零落の原因であつて、自分等の種族を漸次に破壊するものであることを印度人は知覺せずには居られない。彼等は各自に受けた危害と侮辱とのために激しく怒つて、戦争を行ふために突進し、そして廣く擴がり行く荒廢と歐羅巴人交戦の壓倒し來る殘害とのために狂氣となつて失望するに至るのである。印度人の村落を焼き、またその僅かばかりの生活の資を荒らすことによつて、白人が亂暴の模範を彼等に示したことは數へられぬぐらゐるである：然るに白人はただほんの生命をつなぐといふまでに悲惨な境遇に陥とし入れた蠻民が自分等に對して遠慮と大量とをあらはせないのはだうしたのであらうかと思つて居る。

註 heightened 高める、強める、増す。 what was formerly compliance は what they formerly adapted themselves で、往時行つて居たといふ意になる。 exasperated ひどくした、更に悪くした、激せしめた。 cannot but せざるを得ぬ、せずには居られない。 usurpers 僭取者、篡奪者、横領者。 degradation 衰壞、零落、變壞。 gradual destroyers 少しづつ漸次に印度人を衰亡に導いたもの、といふ意。 go forth to battle 奮然として戦

を始める。 smarting 激しく怒る、立つても坐つても居られぬほどに痛みを感じて。 individually 個個別別に、各自。 madness and despair 狂氣と失望、死にもの狂ひ。 desolation 荒涼、滅亡、荒廢。 European warfare 歐羅巴人との戦、對歐人の戦争。 too frequently 餘りに度度、數へられないぐらゐる度度。 example 模範、手本。 slender means of subsistence 僅かばかりの衣食の資、ほそぼそと煙を立てる身上。 moderation 節制、控へ目。 magnanimity 大度、大量、寛仁。 nothing but は only の強い形。 mere existence and wretchedness ただ生命と窮苦。

【譯】公然と攻撃するよりも好んで、謀計を戦争に用ひるから、卑怯であつて詐術が多いといつて、また、私共は印度人を譏謗する；然しこれについては印度人はその無骨な禮法によつて充分正當であるとせられるのである。印度人は幼い時から謀計は賞讃すべきものであると教へられる；最も勇敢な戰士が待伏して、敵の總べての利益を奪ふことは少しも不名譽でないと思つて居る：自分が敵を驚かして殺すことの出來た卓越せる詐謀と鋭敏とを誇るのである。他の動物に比較すると體力が弱いから、實に、人間はおのづから公然と打つて出る勇氣よりも鋭敏なことをずつと餘計に好んで居る。他の動物は生來防禦の武器を賦與せられて居る。角がある、牙がある、蹄がある、また爪がある；然

し人間はその卓越した才智にたよらねばならぬ。人間の正常な敵なる、これ等の動物とたたかふ毎に、謀計にたよるのである；そこでその同胞に對して敵意を意地悪く向けると、最初は同じ機敏な戦争の法をつづけるのである。

註 *stigmatize* 往時罪人に焼印を押したことをいふ、故に、此所では譏謗する、攻撃する、などの意がある。 *as* と *cowardly* との間には *to be* を略してある。 *stratagem* 詭計、謀計、策略。 *in preference to* よりも擇んで、より好んで、の意。 *open force* 正堂堂の陣を張ること正面から討つこと。 *code of honor* 士人の守るべき規定、禮法、作法などの意で、日本の武士道の如き即ちこれである。 *praise worthy* 褒むべき、讚美すべき。 *lurk in silence* 黙つて匿れて居ること、即ち敵を待伏すること。 *take every advantage* 敵の隙間の乗すべきものは、悉くこれを逃さぬ、といふ意である。 *erect* 狡計、狡猾 *sagacity* 伶俐、鋭敏、聰慧。 *subtily* 巧計、詭計。 *en valor* 正堂堂と敵に向つて行く勇氣。 *owing to* は *in consequence of*, *because of*, の故に、のために、に由つて。 *endowed* 能力などを賦與せられることをいふ。 *depend on* 又は *rely upon*, *for support* の意。 *resort to* *betake himself for help* *relief*, or *advantage* の意。 *perversely* 剛腹に、強情に、意地悪くなどの意。 *subtle* 狡猾な、詭巧な、鋭敏な。

【譯】戦争の自然の原則は自分の方には最少の損害を受けて敵には最大の損害を與へることである；そしてこれは言ふ迄もなく謀計によつて効果を擧げられるのである。これ等の用心

深き注意を賤んで、疑もなき危難を冒して突進するやうに私共を導くかの武俠的勇氣は、社會の産物であつて、教育によつて生せられるものである。此勇氣は貴重すべきものである、何故なればこれは實に高尚な感情が苦痛に對する本能的嫌忌と、社會が卑劣であると尤めて居る、一身の安逸と安全との憧憬とに打ち勝つたのであるからである。これは自尊心と恥辱を畏れることとによつてその生命を維持せられる；それでかくの如くして實際の災禍を畏れることが想像に於てのみ存する災禍を畏れるといふ卓越した畏れによつて壓倒せられるのである。これはまたさまざま手段によつて育成獎勵せられた。士氣を鼓舞する歌や武俠的物語などの題目となつて居る。詩人や音樂家などは小説の光彩をこれに帶ばしめることを喜んで居る；そして歴史家でも記述するに眞面目な嚴格を忘れて、これを讚歎せんがため、熱情と狂文とを發するのである。凱旋と善美を盡した飾り物とがこの勇氣に報ゆるものである；藝術がその妙技を極め、富豪がその財寶を擲つた紀念像は國民の感謝と讚美とを永久に傳へ

るために建立せられた。かくの如く人為的に鼓舞せられたから、勇氣はいよいよ發達し非凡にして技工的なる程度の豪勇となつた：そして總べて光榮ある“戦争の華觀と華飾”とで装はれて、この亂を好む性質は、靜かに人類の性質を高尙ならしめ、人類の幸福の潮流を漲らすべき、かの多くの溫良ではあるが貴重なる徳性を汚蝕するに至つた。

註 effected 效果あらしめる、有力ならしめる。 chivalrous 勇武なる、武俠なる。 induce 導く、惹き起す。 prudence 細愼、慎重。 in the face of, over against, in opposition to, に反對して、を冒して、などの意。 offspring 子、苗裔、子孫、此所では社會が産したものと云ふ意になる。 triumph 勝利、打勝つこと。 instinctive 本能的、自然的、天性的。 repugnance 嫌忌、嫌厭、憎惡。 security 保安、無難、安全。 condemned 非難した、罪ありとした。 kept alive 活氣を持続けさせられる、生命を維持せられる。 real evil 實際の災禍、即ち身體に受ける災禍をいふ。 an evil which exists but in the imagination 想像に於てのみある災禍、無形の災禍、即ち恥辱とか社會の攻撃とかいふ災禍をいふ。 stimulated 鼓舞せられた、振興せられた、獎勵せられた。 spirit-stirring 元氣を引き立てる、發奮興起せしめる。 minstrel 往時城または陣屋などに行きて、琴を弾じ詩をうたふた音楽家。 sober gravity of narration 歴史家は謹嚴な文體によつて、事實を述べ、事實を論すべきものであるから、かくいつたのである。 broken forth は come out suddenly, issue, 急にあらはれた、發した、などの意。 enthusiasm and rhapsody 舞文弄筆。 gorgeous 立派な、きらびや

かな、華麗な。 pageants 芝居的觀せ物、山車、^{ねりもの}遊物。 opulence 富裕、富豪。 its treasures の前に has exhausted が略されてある。 perpetuate は eternize, 永久ならしめる、不朽に傳へる。 thus artificially excited は as courage has thus been artificially excited の意。 factitious 人工の、人造の、技作的、即ち似て非なるといふ意。 circumstance 儀式、華飾、虚禮。 turbulent 亂を好む、躁暴な。 eclipse 蝕する、打ち勝つ、傷害する。 quiet, but invaluable virtues 靜かではあるが價値は充分にある徳性、即ち虚榮を欲しない高尙な心、または研究心などをいふ。 ennoble 貴くする、高める。

【譯】然し勇氣が危難と痛苦とを破つて眞正に成^{物ともせざる事に}立するならば、印度人の生涯は絶えず勇氣があらはれて居るものである。印度人は^{絶えず}永久の敵對と危険との状態にあつて生活して居る。危険と冒險とはその性質に適して居る；或ひは寧ろその能力を鼓舞し、その生存に興味を興へるために必要であるらしいのである。戦争の法が伏兵と奇襲とを用ひる、敵意ある種族に包圍せられて居るから、印度人は常に戦争の用意をして、武器を手に携へて生活するのである。船が太洋の寂寥な中を畏ろしき單獨で進んで行く如く；一鳥が雲と嵐との中にまぢり、路なき大空の野を横ぎつて、一點となつて、飛んで行くが如く；—そのやうに印度人は荒野の邊際なき中を通つて、言語を發せず、孤獨ではあるが、少し

も畏れる色もなく、その前進をつづけるのである。印度人の遠征は距離と危険とに於て基督教徒の巡禮や、武者修業の十字軍とに競ふものである。看護する道連もなき旅の病氣や、待伏して居る敵や、また瘦せこけるほどになる飢餓などの危険にさらされて、廣大な森林を横断する、かの大きな内海なる、風浪のはげしい湖水は、少しも印度人の遍歴に妨げとならね：その軽い樹皮の木獨舟うつつるぶねに乗つて、湖水の浪の上を、一枚の羽毛のごとくにもまれる、そして矢のやうな速力を以て、轟轟たる河の急流を下つて、突進するのである、そのなければならぬ湖口の資は勞苦と危険との中から取るのである、その食物は狩獲の困難と危険とによつて得るのである：熊や、豹や、水牛などの獲物を以て自分の身體を包み、そして瀑布が雷の如くに鳴り響く中に眠るのである。

註 intrinsically 實に、真正に。 in the defiance of は resisting, opposing, violating, に反して、を破りてを犯して、などの意。 exhibition 顯示、表明、發露。 congenial 快適する、性質に合へる。 or と rather との内に they(peril and adventure) が略されてある。 give an interest 樂ましめる、興味を興へる。 surrounded の前に as the Indian is を入れて解する。 ambush 伏兵、待伏。 surprisal 驚かす行爲(the act of surprising), 襲撃、不意討。 careers

進み行く、航する。 wings its way は flies, 飛んで行く。 a mere speck は as a mere speck 即ち一つ點となつて、の意。 the pathless fields of air 茫茫たる大空といふ意。 holds his course は goes on his way, 即ち行進するといふ意。 vie 競ふ、争ふ、即ち何れ勝り劣りがない、兄たり難し弟たり難し、などの意。 the devotee 基督信徒が遠くパレスチン地方に行き、耶蘇の遺蹟を拜することをいふ。 crusade 十字軍。 knight-errant 中古頃諸國を遍歴して、強きを挫き、弱きを助けつつ、大に武勇をあらはした武士、武者修業と譯するがよい。 lonely sickness ただ一人で、看護するものもない時の病氣。 pining 憔悴する、瘦せる。 stormy lakes 北アメリカの五大湖を指す。 canoe of bark, うつつる舟、樹幹をくりぬいて舟としたもの。 sports 遊ぶ、ひよるける。此所では平氣で風浪はげしい大湖を乗り廻はすことをいふ。 is snatched 急いで取る、即ち油断をすると取れない意味がある。 wraps himself は wears の意。 spoils 獲物。此所では毛皮の意。

【譯】古今の英雄にして死を意とせざる勇氣と、最も殘酷な刑罰に耐へる剛敵とに於て印度人に勝るものは一人もない。その特殊な教育の結果として、實にこの事は印度人が白人に卓越するのを私共は見るのである。白人は大砲の口元に突進して名譽な死をする；印度人は從容として死の近づくのを注視して、包圍して居る敵と永く續く火の苦痛といふ様々の苦難に、意氣昂然として耐へ忍ぶのである。印度人はそ

の迫害者をも罵倒し、ますますこれが激怒を買って拷問の工夫をなさしめて得意になる；一と呑にせんとする火焰がその急所に食ひ入り、肉が筋を離れるときには、犯し難き氣力の反抗を示し、呻吟せずして死ぬのを見るやうに自分の先祖たちの靈に祈願して、最後の凱歌をうたふのである。

註 ancient or modern days 古代または近世に、古今を通じて、の意。 ancientの次に daysが略されてある。 lofty contempt of death 氣高くも死を満足すること、從容として死に就くこと、死を見ること歸るがごときこと、の意。 infliction 罰、災、苦痛などを蒙らすこと、の意。 rising superior to に勝れて上る、よりも一頭地を抜く、といふ意。 in consequence of は by reason of, as the effect of, の故に、由りての意。 the latter 白人を指す。 rushes to glorious death, etc. 大砲の口をめぐめて突撃し、花花しい討死をする、の意。 the former 印度人を指す。 contemplates 平然として見て居る、熟視して居る。 protracted 長くなる、延ばすなどの意。 taunting 嘲罵する、毒罵する。 provoking その心を激して、ますます敵意を起さしめる。 ingenuity 工夫、發明。 devouring flames 吞滅する火焰、一瞥めに嘗めつくさんとする燄の舌、といふ意。 prey on は seize and devour as food, を捕へ食ふ、の意。 vitals 生命の府、急所。 sinews 筋、筋力。 raise his last song of triumph 勇壯な臨終の言を吐く、といふ意。 invoking 懇求する、祈願する。 without a groan 呻吟せずして、即ち泰然として、從容としての意。

【譯】 往時の歴史家がこの薄命なる土人を讒謗し

てその性質を隠蔽したに拘らず、美しい光が多少はその讒謗の中からはれて居つて、彼等の紀念の上にある程度のさびしい光を發して居る事實は東方諸州の粗雑な記録の中に屢屢認められるのであつて、それは、偏頗と頑迷との色彩を以て記されてあるけれども、しかもその真相を言ひあらはして居る；そして偏見が過ぎ去るならば賞讃と同情とを以て詳細に説かれるに至るであらう。

註 obloquy 罵詈、惡口、讒謗。 overshadowed 影にする、暗くする、遮蔽する。 bright gleams 美しい光、即ち印度人の美點をいふ。 break through は force a passage, 路を開いて通る。 melancholy lustre 陰鬱な光澤。 rude annals 無骨な記録。 prejudice 偏見、曲想。 bigotry 固執、頑迷。 speak for themselves 事實を言ひあらはす、真相をいひあらはす。 dwell on は continue on, occupy a long time with, 長く止まつて論ずる、詳説する。 pass away は spend, elapse, die, などの意。

【譯】 ニュウイングランドに於ける印度戦争をありのままに書いた記録の一つに、ベックオオド印度人種族に對して實行した劫掠の悲惨な物語がある、その無差別に殺戮したことについて無情にも詳かに述べてあるのは仁義も逃げ出すほどである、ある個所には夜間印度人の城砦を襲撃したことが書いてある、その時には

印度人の屋舎は火焰に包まれ、そして悲惨な土民が逃走を企てるに當つて射られたり斬られたりして、“一時間の中にみな綺麗に殺されて仕舞つた。” “我が兵士は、”とその史家が信心ぶつて述べる言葉を借りていふと、“神の祐けによつて最後の絶滅を行はんと決心して、”同じ處分を幾度も續けた後、薄運なる印度人はその住居から、またその城砦から驅り出され、そして火と劔とを以て追跡されたから、ベックオオド種族のいたましい残兵なる、少数な、しかし勇敢な一隊は、妻子をつれて、沼澤の中に匿所を求めた。

註 homely 飾のない、ありのままの。 Indian wars ションファイヌ著。 The Beginnings of New England に詳かである。 touching 感動すべき、傷ましき。 carried into に實行したる。 humanit shrinks from 人道が...を避く、即ち人道に外づれ、居るの意。 cold-blooded 冷淡なる、平氣なる、無情なる。 indiscriminate 誰彼の差別なく、無茶苦茶に。 butchery 屠殺、殘殺。 wigwam 北米印度人の屋舎。 inhabitants 住民、土民。 despatched 殺される、手早く殺される。 ended 殺される、仕末をつけられる。 in the course of の間に。 transactio 處置、處分。 piously 信心に、神を敬して。 final destruction 最後の滅亡、即ち全滅。 remnant 殘物、殘兵。 took refuge 避難した、匿所を求めた。

【譯】 憤怒を以て燃え、失望のために元氣をそがれ、

その種族の滅亡したので心は悲痛のために裂け、またその敗軍の屈辱を思はないでもよいのに思ふて靈は苦惱悲痛して、彼等は侮辱する敵の手にその生命乞ひすることを斥けて、降伏よりは死を擇んだ。

註 indignation 憤怒忿恚。 sullen 悒悒として樂まぬ、陰氣な。 galled and sore 惱み且つ痛む。 fancied ignominy 想像の不名譽、即ち印度人は戦に敗れて、甚だ不名譽であると思つて居るけれど、意外にも白人に夜襲されたのであるから、敗軍は當然である、これを不名譽であると思ふのは、彼等の想像である、といふ意である。 ask their lives 生命を助けるやうに求める、命乞ひをする。 insulting 辱侮する、侮慢する。 preferred death to submission は liked death better than submission の意。

【譯】 夜が更け行くに随つて印度人はその陰鬱なる退却地に於て包圍せられた、それ故に逃走することは實行し難くなつた、このやうな位置にあつたから、その敵軍は“間斷なく砲火を以て彼等をどんどん攻撃したが、その手段によつて殺されて泥中に埋もれたものが多かつた。” “日出に先つて暗黒と霧とに乗じて包圍軍を破つて森の中へ逃れたものも少しはあつた。” “残れるものは勝者の爲すままに任せられ、その中の多くは沼澤で殺されたが、宛かも執拗

な犬が、頑強と狂暴とを以てどつかと座つて銃殺されるかまたは寸断寸断に切られることを望んで、慈悲を懇願することのなきが如くであつた。この少数な孤立ながらも勇敢なる元氣者が見えるやう夜があけると、かうであつたさうだ。兵士どもは澤の中に入つて、“彼等の數組が密集して居るのを見た、それに向つてその鐵砲を放つたが、一時に十個乃至二十個のピストル弾を入れて、五六ヤードの範圍内にある、樹の枝の下に銃口を置いたのである；これがために死んで居ると認められたものの外に、更に多くの人々が殺されて泥の中に沈められ、そしてその後、身方または敵によつて、決して心に留められなかつた。

註 drew on は advanced, 進んで行つた, 更けて行つた. dismal retreat 陰鬱なる退却地, 沼澤に退却したから陰鬱なといつたのである. impracticable 行ひ難き, 實行し難き. thus situated は as they were thus situated の意. all the time は during the whole period の意. the dawn of the day 東雲, 曉, 夜あけ. break through は forced a passage, 路を押開いて通つた. besiegers 包圍軍, 取り圍んで居る人々. left to the conquerors 勝者に放任せられた, 勝者の勝手次第にするやう任かされた. self-willedness 頑固, 強情. the day broke 夜があける, 朝日が照らす, といふ意. forlorn 孤獨, 孤軍. spirits 元氣者, 血氣者. pieces 銃又は砲. sitting close together 寄り合ふ

て座つて居る, 密集して居る. muzzles 口部, 銃口, 砲口. those that were found dead 已に死んで居ると認められたもの. 已に殺されて居たもの.

【譯】この自習せる英雄の心に勇氣をつけ、且つ人間の本能的感情以上に彼等を高めるやうに見える、斷乎たる決心と、確乎たる自尊心と、氣力の高潔とを讚歎せずして、この日月白な文飾のない物語を誰か讀むことが出来るか？ ゴオル種族が羅馬の都を荒した時に、彼等は元老院議官等がそのキュウル椅子に座を構へて居るのを見た；この態度で彼等は抵抗または哀願をもせずして死についた。このやうな行動は、彼等にあつては、高尚で豪俠であると賞讃せられた；不幸なる印度人にあつては頑強で執拗であると罵られたのである！私共は眞に外觀と境遇とに欺かれ易いのである；國家で紫の衣を著せられて皇位に即かせられ、道德と、裸體であつて貧困、且つ荒野で空しく絶滅せられる、道德とは實に甚しい相違である！

註 unvarnished 撲實な, 文飾なき. stern 嚴然たる, やかましい. unbending 屈せざる, 決然たる. nerve 力をつける, 勇氣を百倍ならしめる. self-taught heroes 印度人を指す. raise them above... の上に彼等を高める, 彼等を超越せしめる. Gou's ゴオル種族が羅馬を荒らしたのは、紀元前三百九

十年頃であつた。laid waste は destroyed, desolated, 毀ふた、荒らした、荒廢せしめた。curule chairs 羅馬の長官用の椅子。supplication 歎願、懇請。in them は羅馬の元老院議員にありては、といふ意。magnanimous 豁達、大量、豪俠。reviled 惡口せられる、罵倒せられる。dupes 欺かれ易い人、擔がれ易い人。clothed in purple and enthroned in state は、紫の衣は王者の著る衣、enthroned は王位に即かしめる、意であつて、この句全體は文明國の上流の人が行ふた、といふことを修辭的にいひあらはしたものである。naked and destitute, and perishing obscurely in a wilderness の裸體と貧窮とは、前文の紫の衣に對し、空しく滅絶するは、王位に即かしめられる、に對するもので、全體の意味は、野蠻國の名もなき人が行ふた、といふことになる。

【譯】然し私はこれの陰鬱な光景を述べ立てることは止める。東部の蠻族は消え失せて永くなる；彼等を宿らしめた森林は伐り倒されて、ニュウイングランドの人口稠密な諸州に於ては殆んど彼等の痕跡が残つて居ない、但し此所彼所に印度風の名の村や河などがあるのみである。そしてこのやうなことは、晚かれ早かれ、邊境に住んで居て、白人の戦争に加はるために折折その森林からおびき出される他の蠻族の運命となるべきである。しばらくすると、彼等はその同胞が以前に行つたところのある道を行くであらう。今もなほヒュウロンやスウペリオルなどの岸、またミスシッピイ河の支流の岸に残

留する少數の部落は、マサチセツツやコネクチカットなどの到る所に擴がり、またハドソン河の立派な岸に沿うてこれに君臨したところのある諸蠻族や；サスケハンナの境界に存在したといはれるかの大種族や；ポトマック河やラツバハンノック河の附近に時めき、またシエナンドアアの廣大な谷の森林に住んで居た諸蠻族の運命を受けるであらう。彼等は地球面から水蒸氣の如くに消え失せるであらう；彼等の歴史は忘却せられてなくなつて仕舞うであらう；そして“今日彼等を知つて居る場所は最早永久に彼等知らぬであらう。”またよしや、偶然に、彼等について何か曖昧な記憶が残存するであらうとも、それは古代の林野牧畜の神や半神半山羊の神や林神の如き、林中の空地や列樹などに住んで居る想像上の人となつて、詩人の空想の中にあるであらう。然し詩人が進んで印度人の虐待や窮苦などの陰氣な物語を述べるか；如何にして彼等が襲はれ、辱められ、その原住所とその先祖たちの墳墓から追ひ拂はれ、野獸の如く地上を驅りまはされ、そして暴虐と殺戮とを以て墓に投げ込まれたかを告げ

るならば、後世の人人は恐怖と疑念とを以てその物語を読むことを避けるか、または憤然として自分どもの祖先の没人道を恥づるであらう。— “我等は追ひ返へされた、” と一人の老勇士がいつた、“ちつとも先へ退却することが出来なくなるに至つた—我等の斧は碎かれ、我等の弓は折られ、我等の火は殆んど消されたのである：—少し時間がたつと、白人は我等を窘迫することを止めるであらう—何故なれば我等はこの世に生きて居らなくなるからである。

註 dwell on は advanced 進め行く、更に詳しく説く、といふ意。 long since は a long time ago, 夙に、長き以前に。 laid low 伐り倒す、開拓することないふ。 thickly-settled 人口多く殖民したる、人口稠密なる。 sooner or later は at some indefinite future time 早晚、早かれ晚かれ、何時かは。 skirt the frontiers 邊疆に近く住める、國境の邊りにある。 inveigled 勾引した、誘惑した、おびき出した。 Huron 北米五大湖中第三の大湖。 Superior 北米五大湖中第一の大湖。 Mississipi 北米第一の大湖。 the Hudson 紐育灣に入る河。 the Susquehanna チェサピイク灣に入る河。 the Potomac チェサピイク灣に入る河。 the Rappahannock チェサピーク灣に入る河。 Shenandoab ポトマック河に合流する河。 the places that now know them, etc. は舊約全書約百記七章十節の “neither shall his place know him any more” に基いた句。 perchance 不圖、偶然に、多分。 dubious 疑はしい、訝しい、如何はしい。 romantic dreams 傳奇風の夢想、空想。 people in imagination 想像

の人、即實際ではなく、ただ詩人の心中に描かれた人といふ。 glades 林中の空地、林路。 should he は if he should の意。 venture upon は dare to engage in, attempt without any certainty of success, を敢へて爲し試みる、のるかそるかやつて見る。 native abodes, 土著の住宅、生れて以來住める家。 posterity 後裔、子孫、後代、後世。 indignation 憤怒、忿恚。 blushed 慙ぢて赤面する。 snapped はきつと折る、ぶつつりと切る。印度人に關する物語に興味を抱くものは、F. Parkman 作 Oregon Trail, 及び I. F. Cooper 作 Leather Stocking Tales を讀むがよい。前者は西部に住んだ印度人の生活状態を精細な筆で書いたものであつて、後者は印度人の風俗習慣を多少醇化した物語である。この他ロンゲフェロオの Hiwata は印度人に關する徹頭徹尾ロマンチックな敘事詩であつて、これも亦た一讀すべきである。

ポカナケットのフキリップ

● 印度人の傳記

【譯】 紀念の銅像の如くその容貌を動かさず：

憐憫の心あれども、さりとして決して紊されず：
樹上の揺籃より棺架に乗るまで教へられしは
吉凶の大極端を耐え忍ぶことなり
平然として一只畏怖の恥辱をのみ畏れて——
林間の堅忍の人一涙のなき男。

キヤメル。

註 Philip of Pokanoket ニュウイングランドの印度人の酋長で、フキリップ王といはれた人である、一千六百七十六年に死んだ。an Indian memoir は印度人の傳記といふ意味である。但し、memoir といふ言は、ある人の生活の事業を紀念するために、作つた傳記をいふ。unchanged his look は he unchanged his look の意。pity touched 憐憫の情が動く、あはれを催うす、といふ意。shook 取り亂して悲まぬ、といふ意。impassive は動かされぬ、unmoved の意。but は only shame of fear 悲怖の念を起す恥辱。Stoic 希臘の哲學者 Zeno (358—260 B. C.) の學派を奉ずる人で、情のために制せられず、能く忍び、能く耐え、苦樂の外に超然たる主義を守るのである、但し、此所では印度人をストイックになぞらへていつたのである。Campbell 英國の有名な詩人で、一千七百七十七年に生れ、一千八百四十四年に死んだ、その名は Thomas といひ、傑作は Ye mariners of England と Battle of the Baltic とである。

【譯】 亞米利加の發見と殖民とを論述した、古代の文士が蠻民の生活に光彩を放つ顯著な性質について更に詳細にして公平な記事を書かなかつたのは、遺憾におもはれることである。吾吾に傳へられて居る僅少な逸話が特色と興味とに充ちて居る；これは人類の天性を更に近く窺はしめ、またいかなる人間が比較的原始の状態にあるか、そして何を文明に負ふのであるかを示すのである。これ等野蠻にして探檢せざる人間の天性の方面に相會したり；いはば、自然に發育した道德上の感情を目撃したり、また社會によつて人爲的に修養されたかの寛大にしてロオマンチックな性質が、自然的剛毅に且つ粗野的壯大に生長するのを認めたとするとは何か發見の魔力のやうなものがある。

註 candid 公直な、私なき、あからさまの。have reached us 今日に傳はつてあるの意。nearer glimpse 更に近き瞥見、即ち人類の天性を知るには、文明人よりも印度人が、一層その真相を瞥見するに便利である、といふ意。man 人類全體を指す。primitive 原始の、最初の、太古の。he owes の he は man を指す。the charm of discovery 發見する時の歡喜をいふ。lighting upon は coming to by chance、偶然來り會す、ふと出くわす、の意。unexplored tracts 穿鑿されない地方、即ち調査されない方面、の意。in witnessing は前の dis-

coveryに續く. as it were (if so to speak, いはば, さながら宛も, などの意. artificially 人爲的に, 人工にて, 人造にて. vegetating 生ずる, 生長する, の意. 但し前の qualities を modify する語. spontaneous 自然の, 天然の.

【譯】文明社會では, 人間の幸福, および實にその生存の大部分が, 同胞の意見によることが多いので, 彼は絶えずよく研究した役割を演じて居るのである. 本來の性質の大膽にして特殊な筋は, 行儀作法と稱せられるものの平等的勢力のために精鍊せられるか, または柔弱にせられて居る; そして人望を得んとする目的のためには, 實に多くの瑣瑣たる虚偽を實行し, また實に多くの寛大な感情をよそほふとする, これがためにその眞正の性質と人爲的性質とを區別することは困難である. 印度人は, これに反して, 文雅の生活の制限と修鍊とに囚はれず, そして殊に孤立で獨立な人間であるから, その性癖の衝動と判斷力の命令とに従ふのである; それでかくの如くしてその天性の各方面が, 自由に放任されてあるから, 一人一人偉大に且つ顯著に發育するのである. 社會は園庭の如くであつて, 凸凹はことごとく平かにせられ, 荆棘はことごとく根ごきにせられ, そして天鷲絨の表面

の美しき青緑のために眼を悦ばすのである; 然し, 人にして, 自然界の原始状態と種類とを研究したいとおもふものは, 森林に分け入る必要もあり, 谿谷を探検する必要もあり, 急流を抗進する必要もあり, また絶壁を往來する必要もある.

註 almost existence 殆んど存在, 即ち生活の大部分. depends so much upon によりたのむ所が實に多い. acting a studied part 俳優が研究を重ねた持役を演ずること, 偽善虚飾をこれ事とし, 毫も天真爛漫たる行爲がないこと. refined away 精鍊されて仕舞つた. evening influence 平等的勢力即ち總べての人を同じ風にせんとする社會的勢力をいふ. petty deceptions 小さな偽, 取るに足らぬ虚偽. affects so many generous sentiments 心にもない寛大振つた感情を街ふ. on the contrary (if in opposition, on the other hand, on the other side, 却て, これに反して, その反對にて, の意. free from (if exempt from, released from, not combined or mingled, 免かる, まじらない, などの意. polished life 文雅な生活, 文明生活. in a great degree (if remarkably, 殊に, 頗る, 著しく, の意. impulses 刺戟衝動. inclination 性癖, 欲する所. being freely indulged (if as.....were freely indulged の意. roughness 不平坦, 不平滑. eradicated 根絶する, 根より抜く, 根ごきにする. the eye is delighted by (if we are delighted to see の意. verdure 青緑緑の色. he, however who, etc. の he は不定の代名詞で, one とか those とかに代へてもよい. この文章全體は比喩的に述べたもので自然を直接に研究するには, 深山幽谷に行く必要がある如く, 人間の天性を研究するには文明人では駄目である. 野蠻人に

ついて穿鑿する必要がある、といふ意. variety 多様, 種類, 種類. glen 谷, 谿, 山凹. stem 抗敵する, 抗進する. dare 敢へて爲す, 即ち冒險的に行くの意.

【譯】これ等の回想は初期の殖民史の一卷を通讀するに當つて偶然起つたのであつて、甚だ苦しげにその歴史中に記載されてあるのは、印度人の暴虐と、ニューイングランドの殖民との彼等の戦争である。これ等の偏頗な記録からでも認めて悲惨に感ずるのは、いかに文明の足跡が原住民の血によつて追ひ索められるか；いかにやすやすと殖民者が征服の貪慾のために戦端を開くやうに動かされたか；いかに冷酷と非道で彼等の戦争があつたかといふことである。いかに多くの才識ある人人が地上から驅逐せられたか、いかに多くの勇敢にして高尚な人人で、自然界の純正の貨幣といふべきものが、滅ぼされて塵芥の裡に蹂躪せられたかを思ふと、想像する元氣も出て來ないぐらゐである。

註 casually 偶然に, 不意に. with great bitterness 毒筆を振つての意. outrages 暴行, 亂暴. partial 不公平な, 依怙の. the footsteps of civilization, etc. 文明を擡げるために印度人を殺したことの多きことをいふ. aborigines 本初の民, 土蕃. by the lust of conquest 勝利の慾のために, 勝に乗じて. exterminating 剿絶して, 殲滅して. unagination shrinks

想像力が畏縮する、即ち想像する氣にもない、畏ろしくて想像したくない、などの意. intellectual beings 印度人中の才氣あるものをいふ. hearts 人人, 即ち印度人をいふ。但し所有物を以て所有者をあらはす用法に據つたのである. sterling coinage 純正の貨幣, 即ち印度人は天真爛漫で、人間の純正なるものである、文明人は贋造貨幣であるといふことが、言外に溢れて居る. broken down 打つた, 砕けた, 挫け落とさる.

【譯】印度の勇士なるフイリツブオヴボカナケットの運命はかくの如きものであるが、彼の名はマサチセツツやコンネクチカットなどの到る所に畏れられたことがあつた。ニューイングランド殖民の初めの時に當つて、彼はベックオオドやナアランガンセットや、ワムバノアグスや、その他東方の種族を支配した多くの同時代の酋長の中で最も卓絶したものであつた；當時の酋長等は生來教はらざる英雄の一隊で、人間の天性の及ぶ限り最も豪俠な争闘をした；勝利の希望もなく、また名譽の念慮もなく、自國のために最後の息を出すまで戦つたのである。詩歌の黄金時代に材料とする價值あり、また風土記や傳奇小説などの主人公とするに適して居るが、印度人は歴史のページに少しも確實な痕跡を残してなく、朦朧たる傳説の微光の中に、

巨大な影法師のごとく傲然として歩いて居るのである。

【註】 terror 大なる恐怖を起さしめるもの。 contemporary 同時代の、同世の。 untaught 教へられざる、即ち自然なる。 fighting to the last gasp 最後の息まで戦ふ、即ち生命のある限りは屈せずして戦ふ、といふ意。 in the cause of の利益のために、ために、の意。 worthy of an age of poetry 詩歌の盛に行はれる時代には、印度人を取つてうたふ価値がある、といふ意。 romantic fiction 傳奇小説、物語などで、novel に対してこの名がある。例へば Walter Scott の Waverley はロママンチック・フィクションであるが、Charles Dickens の The Picknick Papers はノヴェルといふが如くである。 authentic 信すべき、確實なる、眞實なる。 stalk 感張つて歩く、濶歩する。

【譯】 巡禮者と、プリマスの殖民をその子孫が命名した連中が、舊世界の宗教上の迫害を遁れて、新世界の海岸に初めて匿所を求めた時には、その境遇が徹頭徹尾凄惨で落膽せしめるものであつた。人数が多くなかつた、しかもその多からぬ人類が病氣と困難とのために急速に斃れて居た；風の音のすごい荒野と蠻民の部落とによつて包圍せられ；殆んど北極の冬のやうな嚴寒と、常に變化する氣候の移り變はりとの曝露せられて；彼等の心は陰鬱な懸念を以て充たされ、そして宗教熱の強烈な興奮の外いかな

るものも彼等を守つて絶望に陥らざらしめぬものはなかつたのである。このわびしい境遇にあつた間に彼等はマツサソイトによつて訪問せられた、これはワムバノアグス種族の酋長で、廣大な地方を支配する、勢力ある酋長であつた。新來者の人数の少いに乘じて、その闖入した、自分の領地から驅逐することをせずして、彼は直ちに寛大な友情をこれに向つて表はし、そして素樸な懇待の禮をこれに與へた。彼はニウプリマスの殖民地へ春の初めに來たが、僅かに少數の從者を引率して來たに過ぎず、そして平和修好の嚴肅な條約を結んだ；彼はまた一部の土地を彼等に賣り渡し、自分同盟して居る蠻族どもの好意を得させんと約束した。印度人の信義を缺くことについていかなる事がいはれるにしても、マツサソイトの忠直で善良なことは決して攻撃されたとのないのは確實である。彼は白人の確實で寛大な友人たることを續けた；彼はまた白人の所有地を擴張し、また領内に於てその勢力を強めることを許した；そして白人の増加する勢力と繁榮とに全く猜忌の念を表はすことがなかつた。その

死ぬ少し以前に彼は再びニウブリマスを訪ねたが、その子のアレキサンダアを伴って来た、これは平和の盟約を新にして、その子孫にこれを確實にすることを目的としたのである。

註 pilgrims 信仰の自由を得んがために、遠く新大陸に来たのであるから、巡禮者と名づけられたのである。 to the last degree 極めて、極度的に。 few in number の上に they were が略されてある。 howling 風の怒號する。 rigors 寒暑などの嚴烈なること。 vicissitudes 變化、變遷。 ever shifting 轉變極りなき、全く定らない。 forebodings は expectation of misfortune 即ち災禍を豫期する心、懸念。 despondency 絶望、神氣沮喪。 religious enthusiasm 宗教上の熱心、信心の凝り固り。 forlorn 孤獨の、たよりなき、心淋しい。 taking advantage of に乗すること、につけこむこと。 strangers 異國人、新來者。 conceive 孕む、即ち心中に抱くといふ意。 primitive 素樸な、質實な。 New Plymouth ニウイングランドの最も古き都、Plymouth は Plinūs と發音する。 a mere handful of followers は only very few followers の意。 entered into 採用した、考究した。 his savage allies 自分と同盟せる蠻族等。 perfidy 不信不實、卑怯未練。 integrity 純厚、廉潔。 good faith 誠實、信實。 impeached 彈劾せられる、罪ありとせられる。 magnanimous 大度なる、豪俠なる。 strengthen themselves 彼等を強める、彼等を發展せしめる。 betraying 表はす、表示する。 for the purpose of renewing は in order to renew と同じ。 posterity 子孫、後裔。

【譯】この商議に於て彼は先祖の宗教を保護して宣教師連中の蠶食せんとする熱心を防ぐこと

に努めた；そして自分の人民をその古代の信仰から引き離さしめるために今後一切計畫することのないやうに約束した；然し、英人がすべてこのやうな條件に頑として反對することが分つたから、彼は溫和にその要求を放棄した。彼の生涯の殆んど最後の事業はその二人の息子なる、アレキサンダアとフネリツブ(英人によつて命名せられたのである)を、一人の主要なる殖民の住宅に連れて行つて、相互の親切と信任とを勧め；また白人と自分との間に存したると同様の愛情と修好とが今後その子孫と繼續せられるやう切に求めることであつた。この善良なる老會長は平和の中に死んだ、そして悲しきことがこの種族の上に来ない内に幸にもその先祖たちの墓地に葬られた；彼の子孫は後とに残つて白人の忘恩を経験することになつた。

註 conference 會議 相談。 encroaching 侵蝕する所の、蠶食する所の。 stipulated 約束した、盟約した。 draw off 拉し去る、引張つて行く。 obstinately 頑強に、執拗に、強情に。 relinquished 罷めた、棄てた、廢した。 recommending 勸奨すること、勧めること。 entreating 懇願すること、切願すること。 died in peace 平和の中に死んだ、即ち眠るが如くに死んだ、の意。 gathered to his fathers 先祖に集められた、即ち先祖の墓地

に自分も葬られたといふ意. ingratitude 恩義に背くこと、恩を知らぬこと。

【譯】彼の長男の、アレキサンダアが、彼を相續した。彼は鋭敏で激昂し易い性質であつて、世襲の權利と威嚴とを傲然として固執した。異國人の侵略的政策と專斷的行爲とは彼の憤怒を振起せしめた。そして白人が近隣の種族を剿滅せんとする戦争をば不安の念を以て見た。やがて彼は白人の敵意を招く様に運を定めた。これは英人に反抗して立ちこれを國內から驅逐するためにナアラガンセツツ種族と計畫したと非難されたからである。この非難が事實によつて保證されたものか或はただ嫌疑に基いたものかといふことは到底述べることは出来ない。然しながら、殖民がこの時までには自分の勢力が急速に増加したことを覺り、かくて土人を遇することが刻薄と輕率になるに至つたことは、彼等の亂暴で傲慢な舉動によつて、明かである。彼等は一隊の武裝せる兵士を派遣してアレキサンダアを捕獲し、そしてこれを彼等の法廷の前に引き來ることになつた。アレキサンダアは森林地の出入所に追跡せられ狩獵の勞苦の

後、武器を持たずして、一隊の從者と共に休息して居つた狩り小屋を襲撃せられたのである。彼の拘引の突然であることと、其王者たる尊嚴に加へられたる亂暴とは、此尊大なる蠻人の怒り易い感情を消耗して、彼を劇烈な熱病に罹らしめたほどであつた。彼はその再び出ることの質として息子を送るといふ條件を以て家に歸ることを許された；然し彼の蒙つた打撃は致命的であつた、それで家に歸り著かない内に傷害された精神の生贖となつた。

註 impetuous 猛烈な、勇往邁進する。 tenacious... 堅守する、固く執つて動かない。 dictatorial 專權的、無限的、專斷的。 exterminating 滅滅する、滅盡する。 doomed (is destined) 定められた。 being accused (is as he was accused) 罪を負はせられたから。 rise against the English 英人を攻撃するために立つ。 accusation 罪を歸すること、告訴、求刑。 grounded 居据はる、基く。 overbearing 壓伏する、威壓する。 feel conscious of を自覺する、を知覺する。 inconsiderate 思慮なき、無分別なる、輕率なる。 armed force 武裝せる軍勢。 seize upon (is fall on and grasp, lay hold on, take possession of) を攫む、を取押へる、捕へる。 haunts 屢屢至る所、屢屢來る所、巢窟。 surprised 襲撃した、不意に打つた。 arrest 拘引、引致。 sovereign dignity 國君たる威嚴。 preyed upon (is seize and devour as food) を捕へて食ふ、または、waste gradually, cause to pine away を蠶食する、を消耗する。 即ち此所では、怒り易い感情を煽動して身を亡ぼさすことになつた、といふ意。 irascible 短氣なる、怒り易い。 on condition of といふ約束で、との條件で、

するならば、などの意。 re:appearance 再出、再現。 fell a victim 死んだ、斃れた。 wounded spirit 傷害されたる精神、即ち to the agonies of a wounded spirit は無念骨髓に徹して、の意。

【譯】アレキサンダアの相續者はメタコメットであつた、即ちフィリップ王と、その高尚なる精神と大望を抱く性質とによつて、殖民等が稱したものである。この精神と性質とは、その名高い元氣と謀略と一所になつて、彼を大なる猜忌と恐怖との目的物とならしめた、それで白人に對して祕密な和解することの出来ない敵意を常に心中に抱いて居ると攻撃せられたのである。かくの如きとは大抵事實であつたであらう、また甚だ自然の事であつた。彼は白人を元來國內に闖入したものに過ぎないものであつて、恩惠につけあがつて、蠻民の生活に對して有害なる感化力を擴張して居ると思つた。彼は同胞の全體が地球の表面から彼等に攻められて消滅し行き、その領土はその手から奪はれ、そしてその種族は衰微となり、離散して從屬者となり行くときを見た。土地は元來殖民によつて購入されたものであるといひ得るであらう；然し殖民の初期に於ける、印度人から購入したことの真相を誰が知らないことがあるか？ 歐羅

巴人は取引の優秀なる巧妙によつて常に利得多き商賣をした；そして彼等は容易に煽動される敵意を用ひて領地の廣大なる増加を得た。損害を次第に且つ法律によつて罰を糾した、法令の精美を教育のない野蠻人は決して立派に考究することはない。重大なる事實によつてのみ判断するのである；そして歐羅巴人の侵入する以前には自國民が土地の主であつたことや、また今や自分どもは先祖の領土に於て浮浪の民となり行くことなどを知ることはフィリップに取つて充分であつた。

註 King Philip ニウイングランドのボカナケットの酋長、一千六百七十六年に死んだ。 as he was called by the settlers 殖民等のいへゆる、といふ意 on account of は because of by reason of、の故を以て、のために。 enterprise 行險心、進取性。 apprehension 未來の災厄などを豫想して憂懼すること。 implacable 和し難き、深讐の、和解することの出来ざる。 but were 高の知れた、ほんのただ。 presumed は took liberty、差出る、出しやばる。 baneful 有毒なる、有害なる。 melting before them 白人の前に溶解する、即ち白人のために滅ぼされる、ことをいふ。 slipping from their hands 自分どもの手から滑る、即ち減少し行くことをいふ。 it may be said that 或は……といはれるであらう。 who does not know……? は we all know……の強き文體 thrifty bargained 繁榮なる商賣、幸運の取引。 adroitness 快捷、鋭敏、巧妙。 traffic 商賣、交易。 accessions 増加。 by easily provoked hostilities 煽動

され易い敵意を利用して、の意で、by は by means of と解する。uncultivated 無教育なる、粗俗なる。nice inquirer 立派な考究者。refinements of law 整然として一絲紊れざる法令。inflicted 罰などを科せられる。leading facts は foremost 真先の事實。it was enough for Philip to know.... を知ればそれでフィリップによいのである。vagabonds 無宿者、浮浪人。the land of their fathers 祖國。

【譯】然しフィリップの印度人全體に關する敵愾心と、自分の兄の待遇に對する特別の憤怒とが、いかなるものであるにしても、彼は當分はこれを隠忍して、殖民との條約を改造した、そして多年の間ボカナケットに平和に住んだ、また、この地はホオブ丘と、英人が稱した所であつて、彼の種族の古代の領地の場所であつたのである、然しながら、最初は漠然として的もなかつた嫌疑が、實體を具へるやうになつた；それで彼は終に東方の諸種族を一時に蜂起するやう煽動し、そして、一齊に努力して、壓制者の束縛を脱せんと企つて居るといつて攻撃せられた。印度人に對するこれらの初期の非難にふさはしい適當な信用を割り當てることは、今日のやうに隔たつて居る時代では困難である。白人の側にあつては嫌疑の性癖と、暴行の傾向があつたが、それがいかなる空説をも重要なものとし

たのである、告げ口をすることが獎勵と報酬とにありつく所には風説家が夥しく居たものである；そして成功が確實であるならば劍は容易に抜かれた、それでその劍は大領土を切り取つたものである。

註 general hostility 全般の敵意、即ち印度人全體に關する敵意。treatment 取り扱ひ、待遇。suppressed 抑へた、制した、隠した。for the present さしあたり、當分。contract 約定、契約。ancient seat of dominion 古代の領地、古代の領有地。suspicious 猜忌心、狐疑心。but は only の意。vague 曖昧なる、定まらぬ、漠然たる。form and substance 實體。instigate 教唆する、煽惑する、煽動する。at once は at the same time の意。simultaneous 同時の、一ときの、一齊の。yoke 軛、霸絆。assign あてがふ、割り附ける。due は proper 相應する。accusations 非難、攻撃、問罪。proneness 嗜好、性癖、偏向。aptness 傾向、性癖。idle tale 空説、齊東野人の語。informers 通報する人、風説家。abounded 富んだ、充ちた、夥しかつた。talebearing 告げ口すること、せかしら口をきくこと。countenance 愛顧、好意、獎勵、幫助。unsheathed 鞘をばらばれる、鞘から抜かれる。carved out 切り取つた。empire 帝國の如き大領土。

【譯】フィリップの罪狀に關して記録に残つて居る唯一の確證は、無頼漢の印度人なる、サウサマンといふものの告訴であつて、その印度人の生來の狡猾は殖民連中の中で受けた一部分の教育のためにその度を高めて居た。彼は二三度その信仰とその歸依とを變じたが、その無造作

であることは彼の主義の嚴格でないことを證明する。彼は一時の間はフィリップの信任厚き秘書役と相談役となつて働き、そしてその恩恵と保護とを受けて居たことがある。然しながら、災禍の雲がその恩人の身邊に集まつて來ることが分つたから、彼はその職務を棄てて白人に身を寄せた；そして白人の歡心を得るために彼等の安全を奪はんとする計畫を立てて居るといつて自分の以前の恩人を攻撃した。嚴酷なる穿鑿が始まつた。フィリップと其臣下の數人とは吟味を受けたが、然し彼等に不利益を證明したものは何もなかつた。然しながら、殖民等は、今や餘りに深入りして手を引くことは出来なくなつた；彼等は豫めフィリップは危險なる隣人であると決定してあつた；彼等は公然その不信任を表明して居た；そして彼の敵意を起すことを保證するに足るほどのことを行つて居たのである；これがために、このやうな場合に通常行はれる道理の法に従つて、フィリップを亡きものにすることは彼等の安全に必要となつて居た。裏切つて注進した、サウザマンは、自分の種族の復讐の生贄となつて、

池の中で、死んで居ることがその後間もなく見出された。印度人が三人、その一人はフィリップの友人で相談役であるが、捕縛されて吟味を受けた、そして一人の極めていかがはしい證人の證言によつて、殺人者たる宣告を受けて死刑に處せられた。

註 positive evidence 確實なる證據、確證。 one Sausaman サウサマンと稱する人。 renegado ごろつき、無賴漢、主義も信仰もない下劣な人。 quickened 勵まされた、鼓舞された。 a partial education 一部分の教育、生嚙りの教育。 allegiance 順從、遵服。 facility 容易、平易、無造作。 evinced 證明した、表明した。 bounty 寛大、仁慈、惠與物。 adversity 禍患、災殃、苦難。 ment over は passed from one party to another, 所屬を異にした、彼方の黨を去つて此方の黨に與みした。 rigorous 苛酷なる、嚴酷なる。 submitted 任かした、委れた。 retract 引き返す、引き縮む、取消す。 insure his hostility フィリップが敵意を抱くことは、保證するに足るほどのことを行つた、といふ意。 usual mode of reasoning 通常の理法。 having fallen a victim 生贄となつて斃れたから、の意。 apprehended 執へられた、捕へられた。 testimony 證據、證明。 questionable 疑はしい、覺束ない、いかがはしい。 condemned 言ひ渡された、宣告された。 executed 死刑を執行された、死刑に處せられた。 murderers 殺人犯人、人殺し。

【譯】フィリップの家來に對するこの取り扱ひと、その友人に對する屈辱を極めた所刑とは、その自重心を迫害し、その憤怒を激發せしめた。かのごとく正に彼の足下に落ちた電光は襲來

せんとする暴風雨があることを彼に覺醒せしめた、そして彼は最早白人の力に自分を任かすまいと決心した。彼の屈辱を受けて腸を断つた兄の運命は今もなほその心中に痛んで居る；その上彼はナアラガンタツツ種族の大酋長なる、ミアントニモが悲慘なる最後を遂げた物語を聞いて更に警戒することになつた、ミアントニモは、殖民連中の法廷に於てその求刑者と堂堂と對決した後、反逆の非難を去るやう大に辯解して、修好の保證を受けたが；彼等の教唆によつて不實にも手早く殺されたのである。フイリップは、これがために、自分の身邊に戦士を集め；自分の味方となるやうに、出来るかぎり領外の民をみなすすめ；女や子供などは安全ならしめるためにナアラガンゼツツ種族に送り；そしていかなる所でも彼が出る所には、武装した勇士によつていつもとりまかれて居た。

註 ignominious 恥づべき、羞辱なる。exasperated 激せしめた、挑發した。bolt 稲妻、電光。awakened 氣をつけさせた、警戒して、覺醒した。insulted 侮辱された、侮慢された。broken-hearted 断腸した。rankled 痛んだ、激衝した。tragic story 悲劇談。manfully 雄々しく、男らしく。tribunal 法衙、法廷。exculpating 辯疏して、辯解して。conspiracy 反逆、兇徒嘯聚。assurance 保證、擔保。perfidiously 不忠に、不實に。instigation 煽動、教唆。strangers 異種族の人人をいふ。

【譯】兩派がかく疑惑と激怒との状態にある時には、最上の火花は彼等を戦はしめるに充分であつた。印度人は、其手に武器を携へて居たから、悪戯を好むやうになり、そして様様な小侵掠を行つた。彼等の劫掠の一に於て一人の兵士は殖民のために發砲されて殺された。これは公然の戦争をする合圖となり、印度人はその战友の死を復讐するために突進した、そして戦争の警報はブリマス殖民地を通じて響き渡つた。

註 distrust 不信用、猜忌、疑惑。irritation 發怒、激怒。the least spark 最も小さな火花、即ち一寸した導火線、一寸したはづみ、の意。set them in a flame 彼等を焔に置く、即ち戦端を開かしめることをいふ。having weapons は because they had weapons の意。mischievous 悪戯を好む、即ちわる氣があるではないが、いたづらなすることが好きになる意。depredations 強奪、侵掠。maraudings 劫掠すること、搶奪すること。fired on をめがけて銃を打つた、狙撃した。open hostilities 開戦、戦端を開くこと。pressed 逼つた、殺倒した。

【譯】この暗黒にして悲しき時代の初期の記録には世上の人氣が不安な状態にあつたことの多くの徴候がある。宗教に凝り固つて陰鬱な心になつたことと、人跡絶えた森林と野蠻な種族との間にあつて、その住所が荒蕪であつたこととは、殖民をして迷信的の空想に傾かしめ、そし

て彼等の想像は魔術又は幻術の畏ろしき怪想に充たされた。彼等にはまた前兆を信する習癖が大いにあつた。ファイリツプ及びこれに屬する印度人との紛擾にもこれに先き立つて、世間の大凶事に先き立つかの畏ろしき前兆がいろいろあつた、といはれて居る。印度人の弓の完全な形がニューブリマスの空中にあらはれ、住民はこれを“奇怪な現象”とおもうたのである。ノオザムプトンの、バッドレエや、その近邊の他の都邑などでは、“大なる白砲の音響が聞えて、大地を震はし非常な反響があつた。”他の人人は静かな、晴れた朝大砲や小銃などの發火によつて驚かされた；彈丸は彼等の傍をびゆうびゆう掠め去るやうに思はれ、また大鼓の響が空中に鳴りわたつて、西方をさして行くやうに思はれた；他の人人はその頭の上を多くの馬が馳せ行く音を聞いたと思つた；そしてその時代に起つた、我る畸形兒の誕生は、數個の都邑の迷信家に悲哀なる預言を充たさしめた。この前兆と光景と音響との大部分は自然界の現象に歸することが出来る：これはその地方の緯度に鮮かにあらはれる北光；空

中に爆發する流星；森林の樹枝の頂上を不意に吹いて過ぎ行く烈風；倒れる樹または碎ける岩石の響；それから森林地の寂寥の深き沈黙の眞中に實に不思議にも耳をつんざくこともあるかの他の奇怪な音響や反響などによるのであらう。これ等は二三の陰氣な想像をおどろかしたであらう；驚異すべきことを愛するがために誇張せられ、そして私どもが何でも畏ろしいことや不思議なことを充分知りたいと思ふかの熱望を以て耳を聳てて聞かれたのであらう。かういふ迷信的の空想が一般に流行したること、當時の學者の一人がこれを眞面目に書いた記録とは、實にその時代の特性である。

註 chronicles 編年史、年代記。 melancholy 悼ましき、悲しき、陰氣な。 meet with は find, come to, light upon, に出くはす、を發見する、と偶ま會ふ、などの意。 disquiet 氣分のわるい、不安な、病的の。 public mind 人心、世の中の人の心。 abstraction 心不在、虛心、凝り固り。 disposed 心を傾けた、心を向けた。 superstitious 迷信の、御幣擔ぎの。 chimeras 幻想、怪想。 witchcraft 巫術、妖術。 spectralogy 幻術、製光分析學。 were given to は had the habit of, was devoted to, 習癖があつた、に身を委ねた、などの意。 troubles 面倒、紛紜、紛擾。 warnings 前兆、前以て知らすこと、預示。 forerun 豫報する、預告する。 great and public calamities 大にして公の凶事、天下の大凶事。

perfect form. 完全な形, 實物と少しも異らぬ形. was looked upon は was regarded, was considered, 見做された, 思惟された, おもはれた. prodigious 異常の, 奇怪な. apparition 出現, 出現物. ordnance 大砲. considerable 注意すべき, 著しき. この Quotation は The Rev. Increase Mather 著の歴史にある. Mather は米國に殖民した清教徒の中にあつても, 最も有力者の一人で, 一千六百八十五年から一千七百一年までハアバアド大學長となり, 著作物が百三十五種以上ある. whistle ひゅうひゅういふ, ひゅうと鳴る. monstrous births 異形兒の出産, 畸形兒の誕生. doleful 哀しき, 悲哀の, 憂愁の. forebodings 前兆, 預表. portentous 凶兆ある, 前兆ある. phenomena は phenomenon の複數で, 現象, 非常の事物の意. northern lights 北光, 地球の北極地方に於て, 夜間あらはれる現象で, さまざまな色をあらはし, 壯觀を呈するものである. vividly あざやかに, はつきりと. casual 偶然の, 不意の, 不期の. disrupted 裂ける, 裂開する. uncouth 奇怪な, 異様な, 不思議な. avidity 貪望, 熱望, 貪婪. characteristic 特性, 特質.

【譯】これに次いで起つた戦闘の性質は文明人と野人との戦争を餘り屢屢顯著にするやうなものであつた. 白人の側にあつてはその戦闘は卓越せる熟練と成功とを以て行はれた; 然し猥りに血を流しまた敵の當然有する權利を無視した: 印度人の側にあつてはこれは死を畏れないで; 屈辱と從屬と衰微との外には, 何物をも平和から期徒することのない人人の死に物狂ひを以て行はれたのである.

註 ensued 隨つて來つた, 次いで起つた. such as は of the like kind with, those which, と同様なる, する物. too often うるさいほど度度, 多過ぎるほど. on the part of は for the part of, の方に於ては, in, にあつてはなどの意. wastefulness 浪費, 無暗に殺害することの意. antagonists 對手, 敵. desperation 無鐵砲, 死に物狂ひ. humiliation 屈從, 屈辱. decay 衰微, 萎靡, 凋殘.

【譯】戦争の結末は當時の名僧が今日に傳にへて居る; 彼は正當なものであつても, 印度人の敵對行爲に對しては悉く恐怖と怒憤とを以て詳論して居る, 然るに白人の最も兇暴なる悪行は賞讃して記述して居る. フイリツブは逆殺者及び反逆人として罵られて居る; フイリツブが自分の一族の受けた虐待を復讐し; その血統の衰運に傾ける勢力を挽回し; またその領地を押領せる異國人の壓制から救ひ出すために自分の臣民の先頭に立つて勇勇しくも戦つて居るところの, 正統の君主であることは考へて居ないのである.

註 events 顛末, 結末. a worthy clergyman 貴き僧侶, 名僧, 聖僧. 前節に引用された歴史の著者 the Rev. Increase Mather を指す. dwells 詳かに論ずる, 細かに記す. however justifiable は however justifiable it may be の意. justifiable は正義となし得べき, 正當となし得べき, である. sanguinary 殘忍な, 慘酷な, 兇暴な. atrocities 猛惡な行, 殘忍な所業. is reviled 惡

いせられる、謗られる、罵られる。 wrongs 害、虐待。 retrieve 回復する、返へす。 tottering よろめく、即ち非運衰頽。 line 血統系統。 usurping 押領する、僭取する、篡奪する。

【譯】四方から一齊に叛亂を起す計畫といふ、かくの如きものが眞に形成されたものとするならば、識見ある人物とするに足るのである、そして、その事がもしも前以て發見されなかつたならば、その結果は重大なものであつたであらう。實際に起つた戦争はほんの小競合であつて偶然にあつた、たたかひと連絡のない計畫とが集合したに過ぎなかつた。然かもこれはフイリツプの軍事上の天才と大膽な武勇とを示すものである；この事について書かれた偏頗で感情的な記事の、何所にでも、フイリツプが壯んなる意氣や術數に富んで居ることや、苦痛と困難とを輕んずることや、打ち勝ち難き決心などを顯はすといふ、單純なる事實があつて、これは吾の同情と賞讃とを博するのである。

註 wide 東西南北相呼應するをいふ。 simultaneous 同時の、一齊の。 capacious mind 識量ある心、達識ある人物、達見家。 prematurely 時に先たつて、豫め。 broke out (is appeared) suddenly 起つた。 aware of detail 選抜隊の戦、即ち大戦闘ではなく、小競合をいふ。 casual 偶然の、折々の。 exploit 戦闘行爲をいふ。 sets forth は shows, manifests, 示す、表はす。 prowess

勇敢、勇武豪膽。 passionate 感情的な、理義に頓著しない。 fertility 豊富、豊饒。 contempt 蔑視すること、輕侮すること。 unconquerable 征服し難き、不撓不屈の。 command 受ける、收得する。

【譯】ホオブ山の世襲的の所有地から追ひ出されて、フイリツプは殖民地を界する廣大なる無人の森林の奥深き所にその身を投じた、そして此所は野獸か、または印度人の外にはいかなるものにも殆んど入り難かつたのである。此所で彼はその部下を集合したが、暴風雨の雷が鳴りはためく雲の懷にあつてその猛威をあつめるが如くであつた、そして殆んど豫想せぬ時と場所とに突然あらはれて、村村へ荒廢と恐慌とを與へたのである。この襲來する荒亂の徴候は時時あつて、殖民の心に恐怖と憂懼とを充たした。遠方で發射する銃の響が寂寥な森林地から聞えるやうなことがあつた、その森林地は白人は誰も知らない所であつた；森林の中を徘徊して居る家畜が時によると疵を負うて歸つて來たことがある；また印度人が一人か二人森林の邊に潜伏するのが見えて、急に消え去つたことがある；その有様は暴風雨を造りつつある雲の端のほとりに電光が時としては音を

立てずに戯れて居るのを見るやうであつた。

註 paternal 先祖代々の親譲りの. throw himself into 身を投げ込んだのがれた. impervious 通じ難き、入り難き. accumulating 積み重ねる、累積する. stores of mischief 悪戯の貯蔵、猛威. emerge 發する、あらはれる. least expected 思ひもつかぬ、意外の. havoc 大壊、打破、荒廢. now and then は at intervals, occasionally 時々、折折. impending ravages 差し迫れる荒亂、即ち暴風雨の襲來して損害を興ふるが如くに、印度人が襲來することをいふ. apprehensions 將來の災厄などを豫想して恐怖すること、氣遣ひ、憂懼. lurking 潜んで居る、匿れて居る、埋伏する. brewing up 酒を醸すといふ意に用ひる語であるが、此所では準備して居るといふ意。

【譯】 殖民のために追跡せられて包圍に陥ることもあるけれども、ファイリップは何時も何時も彼等の係蹄から殆んど奇蹟的に遁がれた、そして荒野の中に飛び込んですべての搜索や穿鑿などを受けても分らなかつた、かくてまた何所かずつと隔つた方面にあらはれて、その地方を荒らしたのである。彼の城郭の中には、大きな沼や澤などがあつて、ニウイングランドの諸地方に多くあるが； 輕き深黒色の泥土から成り； 藪や、荆薊や、茂つた雜草や、倒れた樹木の破碎腐爛した幹などの、悲しき色の^{じきたりす}失鳩答に蔽はれて居るものがこれに混ざつて居る。これらの凹

凸のある荒地の確かでない足場と入り亂れて居る迷路とは白人には殆んど通行することが出来難からしめた、尤も印度人は鹿の如き敏捷を以てその迷路をたどつて行くことが出来た。これらの一つなる、ボカセットネツクの大澤の中に、ファイリップは或時その二隊の從者と共に追ひ込まれた。英人等は敢へて彼を追撃しなかつた、沼澤または泥穴の中に^{いのち}生命を失ふか、或は潜伏して居る敵のために狙撃せられるかも知れぬ、この暗黒で畏るべき逃避地に進んで行くことを畏れたからである。故に彼等はネツクに通する入口を圍み、そして敵を餓死せしめんと考を以て、城壁を築くこととなつた； 然しファイリップとその兵士とは眞夜中に、女や子供を後に遺して、筏に乗つて入江に浮んだ； そして西の方にのがれ去つて、マサチュセツツやニツプマツク地方などの諸種族の中に戦争の火の手を燃え立たせ、コンネクチカットの殖民を威嚇した。

註 Though の次に he was を入れて解する. as often 十度追はるれば、十度も. miraculously 靈怪にも、不思議にも、奇異にも. toils 羅網、係蹄. to all search and inquiry どんなに搜しても、どんなに探つても. strongholds 砦、堡、城寨、要

害. extend 擴がる, 延びる. bog 泥澤. rank 蔓れる, 茂れる. shattered 破碎, 破碎せる. lugubrious 憂愁な, 悲哀な. mazes 分らぬ路, 曲路, 迷路. impracticable 通行し難き, thread 絲を針の眼などに通す意味で, 此所では印度人が迷路をたどつて行くことの意. labyrinths 迷園, 螺堂などないひ, 堂内または園内の通路が曲折多く, 容易に出ることの出来ぬもので, 我が國のいはゆる八幡の藪のやうなものをいふ. agility 快捷敏捷. Neck 半島の意. recesses 隠所, 逃避所. invested 取り圍んだ, 圍んだ. wafted 浮動した, 浮んだ. arm of sea 海洋と連絡する水, 入江. in the dead of the night 草木も眠る丑満時. kindling the flames of war 戦争するやうに人心を煽動することをいふ.

【譯】かくの如くしてフィリップは全般の恐怖の問題となつた。彼が包まれて居る神祕はその實際の畏ろしさを大袈裟にした。彼は闇の中を歩く悪魔であつて；その來ることは誰も豫知することが出来ず、またこれに對して何時警戒してよいか分らなかつた。全國には風説と恐慌とが充満して居た。フィリップは殆んど遍在性をもつて居るやうに見えた；何となれば、森林からの入寇が廣く延長せる邊境の何れの方面にあつても、フィリップはその首領であるといはれて居た。多くの迷信的感想はまた彼に關していひひろめられた。彼は魔法をつかひ、また老いたる印度人の巫女或は女預言者

などを従へて、これと謀り、これ等はその呪符や邪術などを用ひて彼を助けるといはれて居た。これは實に印度人の會長に屢屢あることであつた；自から輕輕しく信することによるか、または部下の輕信を利用するためかどちらかである、それで印度人の迷信を預言者または空想家の支配する勢力は近き頃の蠻民との戦争の諸例に於て明かに證明されたのである。

註 in this way は thus, かくの如くして. universal 一般に通ずる, 普遍的. exaggerated 誇大にして, 大袈裟にした. to be on the alert 守衛すべきか, 警戒すべきか. ubiquity 神のやうに同時にすべての場所に遍在するも, 遍在性. irruption 侵入, 入寇. circulated 廣く傳はつた, ひろめられた. necromancy 妖術, 魔法. prophetess は prophet の女性. incantations 魔法, 邪術. the case with には當然あること. either through の上に, it was を入れて解する. credulity 輕信, 容易に信すること. act upon 效果あらしめる, 利用する. that は the credulity の代りに用ひられた語. evidenced 證せられる, 證明される.

【譯】フィリップがボカセットから逃走を全うした時に、彼の運命は望みの絶えた境遇にあつた。その兵力は毎度の戦闘のために薄弱になり、かつ殆んどその資財の全部を失つて居た。この逆境の時にカノンチエットから忠實なる友情を得た、この人はナアラガンセツツ全部の會長

であつた。カノンチエツトは大酋長なる、ミアントニモの息子で相續者であるが；ミアントニモのことは、已に述べた如く、反逆の告訴を立派に釋放された後、殖民者の不信なる教唆によつて私かに殺されたのである。“彼は相續者である。”古代の歴史家はいふ、“英人に對する惡意を同じやうに、すべてその父の自負心と傲慢心との；”—彼はたしかに父の屈辱と損害との相續者であつて、その虐殺を復讐すべき正當の人物と認むべきものである。この望みは少き戦争に於て主動者の地位に立つことは躊躇したけれども、それでも彼は好意を以つてフィリップとその敗兵を迎へた；そして最も寛大なる保護と助力とを與へた。これは直ちに英人の敵意を彼に惹くことになつた；そこで二人の酋長を兩方とも一つの同様な滅亡に陥るべきすばらしい打撃を加へることが決定された。大軍が、これがために、マサチセツツや、プリマスや、コネクチカットなどから集合せられ、そして冬の真中にナアランガンセツツに送られた、その時には沼澤が、氷結して木の葉がないから、比較的容易に横斷することが出来て、最早

印度人に暗黒で通行し難い要害とならぬであらう。

註 effected his escape 首尾よく逃亡した。desperat 慘憺たる、あはれむべき。resources 財力、資財。found a farthful friend in Canonchet カノンチエツトを忠實なる身方とおもつた。acquittal 釋放、放免。perfidious 不忠不信な、不實な。instigations 煽動、教唆。insolence 驕傲、無禮、傲慢。as well as の次に the heir が略されてある。legitimate 正子と認められるもの、正當と認められるもの。forborne 踏踏した、二の足を踏んだ。take an active part 主動者となる。with open arms 兩腕をひろげて、即ち好意を以ての意。countenance 奨励、扶助、保護。strike a signal blow 大打的打撃を與へる。facility 平易、無造作、容易。fastness 城寨、城砦。

【譯】攻撃を懸念したから、カノンチエツトは堅固な城寨へ、自分の種族の老人や病人や、女と小供などとともに、貯藏物の大部分を運んであつた；その城寨には彼とフィリップともまた同じやうにその兵力の精銳を排列して居た。印度人が堅固であると思つた、この城寨は、沼澤の中央にある、五六エイカアの、一つの高い丘または島のやうなものの上にあつた；これは通常印度人の築城法に於てあらはされるものよりも遙かに優れたる随分判斷力と技術とを以て築かれてあつて、これら二人の酋長の軍事上の天才を示して居た。

註 apprehensive 氣遣うて、憂いて、懸念して. the greater part of his stores 兵糧の大部分. drawn up は arranged in order, 排列した. flower 選抜せる兵士、一騎當千の士. impregnable 攻め落とし難き、金城鐵壁であると. with a degree 頗る、なかなか、随分. vastly superior to は much better than, よほどまさった、の意. indicative 表示する、指示する. martial 軍事上の、武事に關する.

【譯】一人の脱走兵なる印度人に案内せられて、英人等はこの城寨に、十二月の雪の中を、入り込んで來た、そして不意に守兵を襲撃した。戦闘は猛烈で騷擾を極めたものであつた。攻撃軍は第一回の攻撃に於て撃退せられた、それで數人の最も勇敢なる將校は手に劔をもつて城寨を襲撃する時に射殺された。攻撃が再び行はれ大なる成功を得た。一地點を占領することがなし遂げられた。印度人は一つの防禦地から他の防禦地へと追ひまぐられた。彼等は死に物狂ひとなつて戦ひつつ、一寸また一寸とその土地を争つた。その老兵士の大多數は寸斷寸斷に切られた；そして長き劇戦の後、フィリップとカノンチエットとは、生き残れる僅少の兵士の一隊を率ゐて、城寨から退却して、周圍の森林の最も深き所に身をかくした。

註 renegado 脱走して敵についた兵士. came upon は invade, 襲

ふ. by surprise 不意に、突如として. tumultuous 騒動で、騷擾で. assailants 攻撃する人 攻撃軍、寄せ手. repulsed 逐ひ還へず、禦き退ける. in the act of storming 襲撃中. sword in hand は with swords in their hands の意. lodgement 一地點を占領すること. disputed their ground その陣地を争つた、その陣地を防禦した. bury of despair 失望の猛烈死に物狂ひ veterans 老兵士、幾多の戦闘に参加した兵士. were cut to pieces 全身に手疵を負うて斃れたことを、大袈裟にいひあらはした句. bloody battle 大激戦、惡戦、苦闘. the thickest 最も深き所、一番奥. surrounding forest 陣地なる沼澤の周圍にある森林をいふ。

【譯】勝利を得た英軍は印度人の小屋や城砦などに火を放つた；その全部は直ちに燃え上がった；多くの老人や、女や、小供などは火焰の中に斃れた。この最後の暴舉は蠻人の堅忍をも壓服した。自分どもの住所の陥落を目撃し、自分どもの妻子の苦悶の叫びを聞いた時に、逃げのびた勇士が發した、憤怒と落膽との叫び聲を以て附近の森は響き渡つた。“小屋の焼失や、”當時の一文士はいふ、“女と子供との叫喚や、戦士どもの號叫などは、最も畏ろしくもまた憐れむべき光榮をあらはした、これがために大に心を動かした軍人もあつた。”同じ文士は、用心深くも附記する、“その軍人等は敵を生きたままで焼き殺すことが人道にかなつて居るか、福音の

仁慈なる主義にたがはぬであらうかどうかと、
當時大に疑ひ、またその後も眞面目に考究した
のである。”

註 set fire to は put fire to, for the purpose of burning, に火を放つ、
に火をつける、this last outrage この最後の暴擧、即ち小屋
や城砦に放火して、老幼婦女を焼き殺したこと、over-
came even the stoicism of the savage 堅忍なる蠻民も耐えられ
なくなつた、fugitive warriors 落人となつた勇士、offspring
子、子孫、contemporary 同時代の、當時の、affecting 心に徹す
る、人を感動せしめる、cautiously 用心深く、おそるおそる、
they were in much doubt の they は、前の some of the soldiers を指
す、この引用句は前の引用句とともに、the Rev. W. Rug-
gles の原稿中にある、seriously 眞面目に、本氣になつて、
consistent 一致する、協ふ、benevolent 仁慈なる、仁愛なる the
Gospel、福音、基督の教。

【譯】大膽にして寛大なるカノンチエットの運命
は特別に記述する価値がある：彼の生涯の最
後の光景は印度人の仁俠をあらはせる最も高
尙なる例の一つである。

註 particular mention 特記、特筆大書、the last scene of his life 彼の
臨終の光景、彼の末期の光景、magnanimity 豪俠、大度、大
量。

【譯】この大敗北のためにその兵力と資力とが挫
かれたが、然かもその同盟軍に對し、またその擁
護した不運な事業に對して忠實であつて、フィ
リップとその従者とを裏切りすべしとの條件

で提供せられたすべての平和の申出を彼は拒
絶した、そして“彼は英人の奴隷となるよりも
寧ろ、最後の一人となるまでも戦ふのである”
と宣言した。その家は破壊せられ；その領土
は征服者の侵入によつて惱まされ且つ荒らさ
れ；已むを得ずコネクチカット河の岸にさ
まようて行かねばならなかつた；此所で彼は
西部印度人の全體に對して集合地點を形成し
て、英人の殖民地の數個所を荒らした。

註 broken down は come down by breaking, 挫け落ちる、signal de-
feat 散散の敗軍、大々的の敗戦、hapless 不幸なる、不運な
る、e-pouse 左祖した、與みした、overtures 建言、申出、on
condition of との條件で、といふ約束で、betraying 反問す
る、内通して敵に渡す、裏切りする、賣る(國、城砦、身方など
を)、to the last man 身方が一人も残らぬまで、身方が全滅
するまで、harrassed 困らされる、惱まされる、laid waste 毀
たれる、敗壞せられる、incursions 闖入、亂入、入寇、rallying
point 集合所、併合所。

【譯】春の初めに彼は危険なる遠征の途に上つた、
僅に三十人の選抜せる部下を率ゐ、ホオブ山の
附近なる、シイコンクに入り込んで、その軍隊の
糧食を得んがため蒔くべき穀物の種子を手
に入れやうとした。この小部隊の冒険家は安全
にベクオオド地方を通り過ぎ、そしてナアラガ

ンゼットの中央に行つて、ボオタット河に近き
数箇の小屋で休息して居た、その時に敵が接近
するといふ警報が與へられた。その時分には
カノンチエットの傍にただ七人の部下がある
ばかりであつたが、“彼はその二人を近邊の丘
の頂上に派遣して、敵の情勢を調べて來さすこ
とにした。”

註 hazardous 冒險性の、きばどき。 chosen men 選抜兵、一粒選り
の兵。 sustenance 生計の資、日用の食。 adventurers 冒險者、
危険を意とせざる人。 wigwams 印度人の住む小屋。 alarm
警急、非常警報。 approaching 近づく、近寄る。 but seven men
は only seven men の意。 de-patched つかはした、急派した。
intelligence 報知、通信消息。

【譯】英人と印度人とから成る軍隊が疾く進軍し
て來る情勢のために周章狼狽して、二人は息も
とまるばかりに恐怖し自分どもの酋長の前を
走つて逃げ、危険を彼に報告するため立ち止ら
なかつた。カノンチエットは新に斥候を送つ
たが、これも前と同じことを行つた。そこで
更に二人をつかはしたが、その一人は惶て驚い
てとつかはと歸つて來て、英人の全軍が近くに
來て居ることを告げた。カノンチエットは直
ちに逃走する外少しも執るべき途がないこと
を見た。彼はその丘をまはつて逃げやうとし

た、然し敵の印度人と英人中の最も脚力の早
い数人とのために見つけられて烈しく追ひかけ
られた。最も早く走る追人が自分の直ぐ後^{あと}に
近づいたことを見て彼はかなぐりのけた、先づ
その毛布を、それからその銀縁とつた上衣と貝
の珠數玉のついた帯とを、敵兵はこれによつて
彼をカノンチエットであると知り、追跡の熱心
を重ねたのである。

註 panic-struck 大恐慌して、仰天して。 appearance 外見、容觀。
in breathless terror 呼吸も出來ぬほどに恐怖して。 scout 間
諜、探偵、細作。 in confusion and affright 周章狼狽して、あはて
ふためきて。 at hand 是 near in place の意。 immediate flight
即座に逃避すること、取るものも取り敢えず逃げるこ
と。 attempted 試みを企てた、圖つた。 the fleetest 速力の最
も大なる人、最も疾く走る人。 close upon his heels 是 direct-
ly after his heels 直ぐ彼の踵の後に。 threw off 是 took off を強
めていひあらはした句。 belt of peag 磨いた貝の珠數玉
で、印度人が貨幣として用ひたものである。 redoubled 二
倍にした、重複した。

【譯】終に、その河を突進する間に、彼の足が石の上
に滑り、深く水の中に陥つてその銃をぬらした。
この意外の事は彼を失望落膽せしめた、これが
ために、その後彼が告白したごとく、“その心臓
とその腸とが身體の中にひつくりかへり、氣力
がなくなつて朽ちた棒のやうになつた。”

註 at length は finally ; after so long time 終に(時を経て). dashing through the river ホオタツケツト河の中を走つて渡つて居る. fell so deep as to wet ぬらすほど深く倒れた, 水の深い所へ倒れ込んでぬらした, の意. accident 事變, 偶然の事. struck him with despair 失望を以て彼を打つた, 嗚呼萬事休せりと彼を思はした. confessed 自白した, 白状した, 自認した. rotten 腐れたる, 朽ちたる, 枯れたる. void of strength は which is void of strength で, 力がない, 力の缺無であるの意.

【譯】 体力が強く氣象が勇ましい人であつたけれども河のほど遠からぬ所でベックオオド印人のために捕へられて、彼は少しも抵抗しなかつた、ぐらゐな程度まで弱らされて居た。然し捕虜となつた後彼のすべて自尊の精神が身體の中に起き上つた；そしてその刹那からは敵の手に成つた記録の中に、あるものは、高尚にして君王のごとき勇武が繰り返へし繰り返して發揮せられるばかりのことである。第一に彼に追ひ付いた英人の一人で、二十二歳に達して居らぬものに質問せられて、この自尊の念深き武士は、敵のうら若き顔をいかに賤めるやうに眼下に見下して、答へた、“汝は子供である—汝は戦争の事を了解することは出来ぬ—汝の兄または汝の大將を呼んで來い—そのものに自分は返答することにする。”

註 unnerved 神経を奪はれる, 意氣阻喪する. resistance 抗拒, 反對, 逆ひ. vigor 力, 勞. the whole pride of his spirit 滿腔の自尊心. anecdotes 逸事, 珍談, 奇話. nothing but は only を強くあらはした語. repeated flash 繰り返へす閃光, 再三の閃發, 再三の爆發. elevated 氣高い, 高尚なる. came up with him は overtook him, 彼に追ひ付いた. not attained his twenty-second year 二十二歳に達しない, 即ち二十一年何ヶ月といふ意. proud-hearted warrior はカノンチエツトを指す. with lofty contempt 高き輕侮を以て, 即ち, ぐつと眼下に見て, いかにも馬鹿にしたやうに高くとまつて, などの意. him will I answer は I will answer him の文意を強めたいひあらはし方である.

【譯】 その國民とともに英人に降伏することの條件を以て、生命を助けてやらうと再三の提議があつたけれども、然かも彼は蔑視を以てこれを斥け、そして大勢の部下にすべてこのやうなたぐひの提案は言つて遣ることを拒絶した；部下の一人といへどもこれに應ずるものがないことを知つて居ると、言つて居た。白人に對して信義を放つたことを咎められ；一人のワンバノアークまたは一人のワンバノアークの爪を切つた端を引き渡さないといふ彼の驕傲を咎められ；また英人をその住宅の中で生きながら焼くつもりであるといふ彼の威嚇を咎められた；彼は自分の罪を言ひ開くことを厭ひ、

傲然として自分の部下は彼と同じく熱心に戦争を望んで居ると答へ、そして彼はその事に就いて最早聞きたくないといつた。

註 repeated offer 数度の申出、再三の提言。submitting 服従、屈伏、屈従。with disdain 軽んじて、馬鹿にして。comply 従ふ、納得する。breach 違約、不履行。deliver up は give up to another's possession 引き渡す、委れる。paring 切り去つた物、切つた端。justify 罪を辯解する、罪を申し開く。others 他人、即ち自分以外の同種族の印度人。forward 熱心である、頗る好んで居る。

【譯】このやうな氣高くしてしつかりとせる精神や、このやうにその事業とその味方とに對する眞實ある忠信などは、仁人や勇士の心を動かしたであらう；然しカノンチエツトは印度人であつた；これに對しては戦争に少しも禮讓なく、人道に少しも法則なく、宗教に少しも憐憫のない人間であつた—彼は死刑の宣告を受けた。記録に存する彼の臨終の語は、その精神の立派なとに恥ぢないものである。彼に死刑の宣告が言ひ渡された時に、彼は述べた“自分は常にこれを好むのである、自分の心が女々しくならず、自分の價値を下とす如きいかなるをともはざる内に死なねばならぬからである。”彼の敵は軍人の死を彼に與へた、何となれば自分と

同等の位地にある三人の青年會長によつて、ストオニングハムに於て銃殺されたからである。

註 unshaken 震はざる、動かざる。fidelity 忠實、誠實。courtesy 遠慮、氣兼、丁寧。compassion 慈悲、哀憐。condemned 罪を宣告された、罪せられた。his heart was soft 心が弱くなる、氣力がなくなる。unworthy of himself 自分の體面を損する、自分の價値を下げる。the death of a soldier 軍人としての死、即ち普通の罪人として取扱はず、軍人たる名譽を重んじて死なしめることをいふ。of his own rank 自分と同じ階級、自分と等しき地位。

【譯】ナアラガンゼツトの城砦に於ける敗北と、カノンチエツトの死とは、フイリツブ王の運命に對して致命的の打撃であつた。かれはモホオク種族を煽動して干戈をとらしめることによつて、戦闘を始めやうと圖つたが駄目であつた；然し大經世家たるべき生れつきの才幹を具へて居たけれども、彼の技倆は開化した敵の優れたる技術のために敗られた；そして敵の戦争が熟練して居ることは近邊の種族の決心をにぶらすやうになつた。この不運なる會長は毎日自分の勢力の剝がれて、その軍兵が自分の身邊に少なくなつて行くことを見た。白人のために買収されるものもあつた；飢餓と疲労との生贄となるものもあり、また屢屢なやまされた

攻撃の生贄となるものもあつた。彼の糧食は悉く分捕られた；彼の最も親密な友人等は彼の眼前から除き去られた；彼の伯父は自分の傍で銃殺せられた；彼の妹は捕虜となつて拉し去られた；そして彼が僅に身を以てのがれたことの多い中に或る時のごときはその愛する妻と獨り息子とを後に残して敵の思ふままにさせねばならなかつた。“彼の滅亡は、”歴史家はいふ、“かくのごとく漸漸進められたから彼の不運はさまたげられないで、これによつて益加はつた；何となれば自分の生命が奪ひ取られない内に、その子女が生け捕られることや友人が死ぬことや、その臣下の虐殺されること、や、一家親族を失ふことなどの意味と實驗上の感情とを熟知することになり、またあらゆる外形上の慰藉物を剥ぎ取られたからである。”

註 fatol blows 生命を失ふほどの打撃、大だ的打撃。ineffectual 效顯なき、無効なる。raise a head of war 戦端を開く、戦争を開始する。stirring up は exciting thoroughly, awakening, instigating by inflaming passions, 挑撥する、煽動する。take arms は go to war 干戈を動かす、戦に訴ふ、兵を動かす。statesman 國政家、政事家。counteracted 逆ふ、抗する、消す、敗る。enlightened 開明なる、文化せる。warlike skill 軍事上の熟練、戦争上手。the unfortunate chieftain フィリップを指す。

ranks 卒伍、兵士。suborned 金を與へて罪惡などを行はしめる、買収する。fell victims 斃れた。chosen friends 選抜した友人、親友。were swept away は were dispersed, were shattered, 一掃せられた、散失せしめられた。narrow escapes 虎口を脱すること、生命からかゝる運がれること。to the mercy of the enemy は to the power of the enemy, to have no defence but the compassion of the enemy, のままになるやう、せられ次第になるやう。carried on は continued, promoted forward, 進めやる、繼續する。his misery was not prevented 不運がすんすん増したといふことを、面白くいひ表はした文體。augmented 増加した、増大した。experimental feeling は feeling by experience, 實驗によつて得たる感情。bereavement 奪ひ去られること、失ふこと。

【譯】彼の運命の度を満たすために、自分の部下のものどもがその生命を奪はんと謀るやうになつた、これは彼を犠牲とするによつて卑劣なる安全を買はんがためであつた。フィリップの親族で同盟者なる、ボカナセットの女王、ワタモオの臣下であつて、フィリップに對して忠實なる黨與となれる數人が裏切りによつて敵の手に賣られた。當時ワタモオはその中にあつた、そこで近邊の河を渡つて遁れ去らんと企てた：游泳するために疲れ果てたか、または寒さと飢餓とのために變死したか、かの女は河岸に近く裸體のまま死んで居た。然し迫害は墳墓に於ても止まなかつた。憐れなるものの匿

れ所であつて、悪人が通常苦めるところを止める、死
 できへ、この追ひ出された女にとつては少しも
 保護とならなかつた、この女の大罪といふもの
 は自分の親族と友人とに對して大に忠實であ
 つたことである。ワタモオの死骸は卑屈にし
 て臆病なる復讐の自的物となつた；首は體か
 ら切斷せられて竿につけられ、それから捕虜と
 なつて居るその臣下に示すために、タウトンで
 さらされた。彼等は直ちに薄運な女王の容貌
 を認めて、この野蠻なる觀物のために大に心を
 動かした、これがために彼等は“いかにも怖ろ
 しくして悪魔のごとき哀哭”を發したといふ
 ことである。

註 fill up は render full, 満たす. sacrificing 殺すこと、犠牲にす
 ること、生贄とすること. dishonorable 面目を汚すべき、陋
 劣なる. adherents 門徒、從者. kinswoman 血族、親戚、縁者、男
 性は kinsman. confederat 黨與、同類、同盟者. exhausted 弱つ
 て、力や元氣などを失つて. starved 餓死した、凍死した. at
 the grave 死んでも、の意. 全文の意は、死屍が鞭たれたと
 いふことになる. outcast 宿無しとなつた、逐ひ出される.
 unmanly 男らしくない、卑劣なる. dastardly 卑怯なる、臆病
 なる、びくびくせる. severed 離した、裂いた、切つた、斷つた.
 to the view 見えるやうに、目につくやうに. recognized 認
 識した、認めた. barbarous 残忍なる、兇暴なる、暴虐なる.
 spectacle 觀せ物、景. broke forth は issued, 發したの意. diabo-

lical 極悪なる、兇猛なる、非道なる. lamentations 悲歎、號泣.
 【譯】フイリツブは自分を圍めるこの繁雜な不運
 や艱難を忍耐したけれども、その部下の裏切つ
 たことは彼の心を痛ましめ彼を絶望に陥れた
 のである。聞く所によれば“彼はその後決して
 喜ぶことをせず、またその計畫のいかなるも
 のに於ても成功しなかつた。”希望のバネは破
 れた—企業の熱は滅された—彼は四方を見ま
 はした、さうするとすべての物が危険と暗黒と
 であつた；隣んで呉れる一人の眼がなく、また
 救済を携へ來ることの出来る一人の腕がなか
 かつた。フイリツブの望み絶えたる身の上とな
 るまでなほも忠實に留まつて居る、人數が極め
 て少い一隊の從者を率ゐて、不幸なる彼は自分
 の祖先の舊居なる、ホオブ山の附近にさまよい
 歸つた。一度は權力と繁榮とを恣まにしたこ
 とのある光景の中に、今は家庭を奪はれ、家族と
 友人とを奪はれて、妖怪のごとく、此所に彼は潜
 び歩いた。フイリツブの窮乏にして憐憫すべ
 き境遇の状態が歴史家の飾りなき筆によつて
 供給されたものよりも、更に優れたものは全く
 必要がない、その歴史家は自分が罵つて居るこ

の不幸な戦士に左袒するやうに讀者の感情を不知不識の間に入れ込んで居る。“フィリップは、” 彼はいふ、獍猛なる野獣のごとくに百哩以上進んだり退いたりして、英軍のために森中を搜索された後、終にホオブ山の上にある自分の退隠所に追ひ込まれた、その隠れ所で彼は退いて、二三の親友と共に、沼澤の中に入った、それは死の使者が彼の上に復讐を行ふために神の許によつて來るまで彼をしつかと入れて置く牢屋であるに過ぎないことが後に思ひ知られたのである。”

註 borne up は endured trial with patience, 堪へ忍ぶ. complicated 紛亂せる, 錯綜せる, 入り組んだ. wring 悩ます, 苦める, 痛ましめる. despondency 神氣沮喪, 元氣なきこと, 氣落ちすること. spring of hope 希望の彈機, 彈力がなくなつたことをいふ. ardor 熱情, 熱心, 銳氣. no eye to pity 自分を憐んで見て呉れる人. spectre 化物, 幽霊, 妖怪. breft 奪ひ去られて, 取られて. destitute 貧窮なる, 落魄せる, 零落せる. unwarily 氣を付けずに, 慎まずに, 用心せず. enlisting 招き入れる, 入れ込む. in favor of のために, の利あるやうに, 即ち upon the side of または favorable to の意. proved 證明した, となつた. till the messengers of death, etc 〔till the time of his death〕 の意.

【譯】この最後の絶望と落膽との隠匿所にあつても彼の記念には一種の悲惨なる威嚴が集つて

居る。自分の挫折した運命を默然として、思案し、またその潜伏所の荒蕪と寂漠とから野蠻的の威容を得て、彼がその氣苦勞にやつれた従者の中に座を構へて居る所を想像する。撃退された、然し、驚慌せしめられたのではない——敗地に塗れた、然し、壓伏されたのではない——彼は災禍の下にあつて、ますます尊大になり、辛苦の最後の糟を嘗めつくして暴き得意を経験するやうに見えた。小人物は災害のために壓服せられ屈從せしめられる；然し大人物はその上に出る。降服の思想だけでもフィリップの憤怒を喚び起さしめた、そして彼は平和の方策を提議した、その従者の一人を打ち殺した。殺された従者の兄弟は遁れて復讐するために自分の酋長の退却せる場所を敵に内通した。一隊の白人と印度人とは直ちにフィリップが潜伏して居る沼澤に派遣せられた、その沼澤でフィリップは憤怒と落膽とを以てねめつけて居たのである。彼が敵軍の接近するを知らない内に、彼等はこれを包圍することを始めて居た。一寸の間に自分の最も信賴する五人の従者がその足下で殺されて倒れるのを見た；い

かに抵抗しても駄目であつた；彼はその隠伏所から躍り出て、全速力で逃走を企てた、然し彼みづからの國民であるが脱走して敵軍に投じた印度人の一人のために心臓を射抜かれた。

註 desperation 望み絶えたこと、詮方なくなること。sullen 慘憺たる、陰氣なる。grandeur 莊嚴、偉大、堂堂たること。gathers his memory 吾等に想ひ出さしめる、といふ意。care-worn 苦勞のためにやつれた、心配のために見る影もなくなつた。brooding 沈思する、思案する。blasted 突然敗れた、破毀された、損傷された。savage sublimity は wild sublimity で、猛猛しい威容をいふ。crushed to the earth 二度と起き上がれないほどに、壓倒されることで、一敗地に塗れる意。draining 調す、空虚にする。the last dregs 全部、または、悉くの意。bitterness 苦楚、苦辛。little minds 小き心の人の意。rise above it 超然として災禍を意に介せず、の意。expedient 手段、方法。victim 生贄、即ち殺された人。retreat 隠匿所、潜伏せる場所。crouched 蹲つて、屈んで、しゃがんで。glaring 睜視する、睨視する。covert 庇護所、潜伏所。headlong 頭を先にして急遽に、躁急に。renegado 脱走兵、脱走して敵に投ぜるもの、ごろつき、無頼漢。

【譯】かくの如きものが大膽ではあるけれども薄命なフリツプ王の僅かばかりの物語である；彼は生きて居る間は迫害せられ、死んだ時には誹謗せられ、また侮辱せられたのである。若し、然しながら、彼の敵が供給した偏頗な逸事でも私共が研究すると、彼の運命に對して同情を起

さしめ、そして彼の記念に對して敬意を生せしめるに足る温順で高尚な性質の痕跡を認め得られるであらう。間斷なき戦争のすべてに惱まされる心勞と裂しき忿怒との真中にあつて、夫婦の愛や、父たる柔和などのやさしき感情と、大量な友誼の情操とに感じ易かつたことが分る。彼の愛する妻と獨息子とが捕虜となつたことは劇烈なる悲歎を起さしめたが大得意になつて記述されてある：そのすべて親友の死んだことは彼の感情に對して新しい打撃になると勝ち誇つて記載されてある；然し彼が性情を信任した多くの従者が裏切つたことや、脱走したなどは、彼の心を悲痛に沈ましめ、その後すべての慰藉を彼から奪ひ去つたといはれて居る。彼は自分の國土に戀著した愛國者である一臣下に誠實であつて臣下の罪を憤怒する君王である一戦闘には勇敢で、逆境には斷乎として居て、苦勞や、飢餓や、あらゆる種類の肉體上の苦痛などに耐へ忍び、そしてその與みした事業のためには死なんとする、軍人である。彼の心は尊大で、自然の自由に對して壓服し難きほどの愛情をもち、その自尊心を屈して降伏し、殖民地の安樂と贅澤との中に従屬となり輕侮されて暮らすよりは、森林の野獸の中かまたは沼澤

の陰気で飢渴する隠所でこれを楽しむ方を選んだ。文明國の勇士の一代を飾り、また詩人や歴史家などの問題とならしめたるべき英雄的の性質と大膽なる事業とを以て；彼は自分の生國に於て放浪者と落人おちうどとなり、そして闇と暴風雨との中に沈む孤獨の舟の如く、没し去つて仕舞つた一彼の死ぬのを泣く憐れみある人の眼、或は彼の苦むのを記す情ある人の手をもたずして。

註 scanty 乏しき、少き、足らぬ。slandered 謾言せられ、誹謗せられ、悪名を負はされ。dishonored 辱しめられ、凌辱せられ、不名譽を負はされ。prejudiced 偏執なる、偏見なる。perceive 認知する、知覺する。amiable 愛嬌ある、温厚なる。sufficient に充分なる、に適當なる。harassing 困まらせられる、煩はしき。ferocious 兇猛なる、殘惡なる。was alive 感じ易かつた、注意した。connubial 結婚の、夫婦の。sentiment 感情、情操。exultation 雀躍、喜悅。poignant 劇しき、嚴しき、強き、鋭き。triumphantly 祝捷的に、勝ち喜んで、意氣揚揚として。sensibilities 感覺、感性、實感。desertion 逃走、背棄。affection 心意の傾向、心情、情愛。deolated 心淋しく思はしめた、悲觀さした。attached 結著する、附著する。indignant 憤慨する。wrongs 不正、惡、過失。adversity 不幸、苦難、禍患。espoused 左袒した、與みした、擁護した。untamable 馴らし難き、壓服し難き。furnished 必要物なくして苦む、食物のない。achievements 成就、功績、しとげた事。grace 文飾する。名高くする。foundering 浸れする、沈没する。a lonely bark 眼界の達する限り、海上外に、一艘の舟もなきことをいふ、孤舟。

村の誇

【譯】“狼は哮えざれかし；小梟も動かすな
汝の墓の周りに翼を！
荒き風も嵐も此處には來らざれ、
餓死せしめ又は枯らす爲に
汝の柔かき愛らしき土を！さなくて春の如く、
愛よ永久しえにそれを榮えつづけしめよ”

—ヘリック

註 may howl 哮えざれかし。wolfe=wolf. screech owle 小さい梟の一種。sepulchre 墓場。boisterous 荒々しき。hither 此處にstarve or wither 只やさしきものに例へてかく云つたのである。flourishing 榮えて。

【譯】私が英國のへんびな一地方を旅行した際に極く片寄つた田舎の横路に進んで入つた、そして午後に浮世離れて美しい鄙びたある村にとまつた。邊りの住民には太古の敦厚な風があつた、大きな街道に沿ふた村落にはない様な。私は今夜を此村で過さうと決心した、而して、早飯をたべて、附近の景色を眺め様と徨ひ出た。

註 excursion 旅行、遊歴。crossroad 小徑。secluded かけ離れた、片寄つた。situation 位置。rural 田舎染みた。retired 浮世離れた。primitive 太古の。simplicity 質朴。inhabitants 住民。coach-road 街道。determined 決心した。strolled out 徨ひ出た。scenery 光景、景色。

【譯】旅人の常として私の逍遙はお寺に私を案内した、そのお寺は村から近い所にあつた。實際その寺は多少人の好奇心を引く所のものであつた、その古塔は全く常春藤で蔽はれてゐるので、唯茲かしこに突き出した壁柱や古い壁の一角やさては奇妙な彫刻をした飾り物が、緑草の茂みから見えるばかりであつた。時しも愛らしい夕暮であつた。午前^{ひるまへ}は昏くて雨が降つた、が午後には立派に霽れた；而して空には未だ執拗い雲が懸つてはいたけれど、西は一面に黄金色を呈してゐた、夕日は雫のしたたる木の葉の間からきらめいた、而して天地間の總てのものはさびしい微笑で輝いた。それは例へば善良な基督教徒の死に際^{きは}の様であつた、罪と悲しみの多い現世を顧みてほほゑみながら、又彼の平和な衰顔の裡に、後光に包まれて生れかはらうとする覺悟を示しながら。

注 ramble 逍遙. some 幾分か. curiosity 好奇心. completely 完全に. overrun 蔽はる. ivy 常春藤. jutting 凸起せる. buttress 壁柱. fantastically 奇異に. ornament 裝飾物. peeped 細視する、窺ふ. verdant 草多き、緑色の. showery 驟雨が降る. cleared up 霽れ渡る. sullen 執拗い、暗き. overhead 頭上即ち空. tract 範圍. gleaned きらきら光る. dripping 滴るもの. melancholy 愁を含める、瀟命なる. sin 罪. serenity

平和和氣. decline 零落、衰頹. assurance 確信、覺悟. glory 宗教的の徽に使ふ後光の意.

【譯】私は倒れかかつた墓石の上に腰をおろした、而して人が此様な物思ひに沈んだ時にし勝ちである様に、過去の光景や昔の友達のを静かに考へて見た一遠く離れてゐる人のことや今は此世にゐない人のことなどを一その様なさびしい空夢に耽りながら、其中には何物か歡樂にも優るものがある。時々近くの寺の塔から鐘の音が耳をうつた；其唸りは其光景と融合した、不快の言を發するとなく吾が感情と共鳴した、そしてやがて私はそれがさる人の死を報ずる鐘の音に相違ないと云ふを思ひ浮べた。

註 half-sunken 半ば倒れかゝつた. tombstone 墓石. musing 沈思する. sober-thoughted 物思はしげな. indulging 意に任ず、耽る. fancying 空夢. every now and then 折々. stroke 音(鐘などの). tones 調子(音の). unison 調和、融合. instead jarring 相容れない. chimed in with と調和する. feelings 感情、物思ひ. it was some time before やがて. recollected 思ひ浮べた. tolling 鐘を撞く. knell 送葬のとき或は人の死を報ずるときの鐘の音. tenant 寓居人. tomb 墓.

【譯】間もなく私は草原を横ぎつて行く葬列を見た；葬式は徐かに小路に沿ふてうねりくねつた、見えなくなつた、垣根の隙間から又見えた、やがて私の腰を下してゐる前を過ぎ去つた。柩

掛^{かけ}は白装束をした大勢の少女に捧げられた。又、十七ばかりの少女が白の花環を持ちながら柩^{はこ}の前を歩む。佛^{ほとけ}は若い未婚の女の表章であつた。少女の両親は遺骸につづいた。彼等は百姓中のよい家柄の尊敬すべき夫婦であつた。父親は悲しみの情を抑へんとしてゐるが彼の見つめた眼^{まなこ}縮めた額^{ひそ}、さては皺の深い顔などが胸中の煩悶を表してゐた。妻は夫の腕によつかかつて母親としての悲しみに時々大聲を立てて泣いた。

註 green 芝生, 草地. wound 旋轉する. lane 小巷, 狹路. —hedges 垣根. pall 柩掛. bearing 保つ, 擔ふ. token 表示, 紀念物. chaplet 花環. female 女性. corpse 遺骸. venerable 尊敬すべき. couple 一對, 夫婦. peasantry 百姓, 農夫. repress 遏抑する. contract 縮むる, 皺むる. brow 額. deeply-furrowed 皺の深い. convulsive burst 痙攣的の泣聲の破裂即ち時々大聲をあげて泣くこと。

【譯】私は葬式について寺院に入った。棺は中央の禮拜堂に安置された、而して白い一對の手套と一所に白い花環は遺骸の上に掛けられた。

註 bier 棺. aisle 禮拜堂. gloves 手套. occupied 占領する。

【譯】何人も葬儀が心を壓する悲をしらないものはない、して見れば自分の愛人の野邊送りをしたことのないほど幸福なものはないではない

か?—けれどもかくの如く人生の若盛りに死に果てた天真爛漫の美しい乙女の遺骨に對して葬式の行はるるとき一世の中にこれほど氣の毒なことがあらうか? 質素なれども極めておごそかに遺骸を墓場に埋めるとき—“土から土へ—灰から灰へ—塵から塵へ!”—乙女の生前の若い友達等の涙はとどめもなく流れた。父親はまだ悶へ悲しみ、神様を信じたものの亡魂は、その御力によつて必ず福を享けるものであると信じて自ら慰めんとしてゐるやうであつた; けれども母親はただ切り取られた一輪の野の花がその美しい盛りに萎落したやうに、自分のむすめのことばかりを考へて居た; 彼は丁度“彼の子供等の上ばかりを愁しんで慰められやうにもなかつた”と聖書中に書いてある、ラシエエルの身の上のやうであつた。

註 soul-subduing 心を壓する. pathos 哀情. service 儀式, 祭務. performed 果たす, 遂げる. remains 遺骨. innocence 天真爛漫たる, 無邪氣の. thus かくの如く. laid low 死んだ. bloom 花, 若盛り. existence 人生. affecting 悲なしむべき. solemn 神聖る, 莊嚴なる. consignment 委託, 埋めるの意. grave 墓. earth to earth etc. 葬儀の際に唱ふる文句. flowed 流れた, 満ちた. unrestrained 抑へ得ない. comfort 慰める. blessed 福を享ける, 多祥なる. in the Lord 神の御力のうちに, 即ち神

の保護の中に. cut down 切り取つた. withered 萎落する. 凋む. midst 中に. sweetness 美しき, 愛らしいこと. mourning 哀悼, 悲しむこと. Rachel 聖書にあり, ジャコブの妻にしてヤコブの母なり. mourning over her etc. 聖書中にて記されてある文句にて子位等をなげきての意.

【譯】^{やど}客舎に歸ると, 自分は死者の身の上に就て^{いら}一五十^{ぶしじふ}什を知つた. それは單純な話で, よく聞く所のものであつた. 乙女は美しい女で村の自慢ものであつた. 彼の父親は一度は有福な百姓であつたが今では暮らしがやや衰へた. 乙女はただ一人兒であつたので, 全く家庭に於て田舎の暮らしの質素なうちに養育された. 彼は村の僧の弟子となり多くの宗徒の中で最も可愛がられたものだ. 僧は彼の教育には親の如く目を附けた; それは彼の出入する社會に限られそれに適當なるものであつた: なせなれば彼はただ乙女を百姓仲間の飾り者としてそれ以上に彼の身分を高むることを望まなかつたからである. 彼の兩親のやさしさや寛容なと日常の勞働には凡てたづさはらなかつたこととが, その天成の溫雅と優美とを助成して彼の容姿の可弱い愛らしさと協つて居た.

彼は丁度雜草の中にめづらしく咲き出でた園のやさしい花にも似て居た.

註 inn 旅亭, 客舎. learned 學ぶ, 知る. pride 誇り, 自慢. opulent 家産多き. circumstances 隨伴の事情, 境遇. reduced 減じた. brought up 養育した. simplicity 質素なこと, 氣取らざること. pupil 弟子. pastor 牧師. favourite 氣に入りの, 偏愛の. lamb 溫柔な人, 小羊(總じて優さしきものに用ふ). flock 羊などの群, 宗徒. watched 目を附ける, まもる. paternal 父の慈愛なる. suitable 適當なる. sphere 範圍(行爲, 智識などの), 位階. sought (seek の過去) 望んだ. ornament 修飾. station 身分, 立場. raise 高める. tenderness やさしき. indulgence 寛容なこと. exemption 自由, 免除. ordinary 日常の. occupation 職業. fostered 助成した. grace 溫雅. delicacy 優美. accorded with 一致した. fragile 脆き. form 容姿. plant 植物. accidentally たまたま, めづらしく. amid 中. hardier 頑固なる. natives of the fields 草のこと.

【譯】彼の艶美のたちまさつて居るのは彼の友達もよく承知して居た, けれどもそれには嫉妬の心は少しもなかつた; なせなれば其嫉妬心は彼の行狀の謙讓なる溫厚と人を引きつけるやうな親切とによつて抑へられてゐたからであつた. まことに彼はこうである:

これは最美しき賤しく生れた乙女である, 此まで

緑の田舎に生れたる中にて; 彼女は自分より優れたる者の

香を帯びざることもしせず又は優れたものと見えざるはない;

此地にはあまり氣高くて。)

註 superiority まさる. charms 嬌態、麗美. feel 感じた. acknowledged 知つた. companions 友達. envy 猜忌. surpassed 越えた. 秀でた. unassuming 謙讓なる. gentleness 温厚なること. winning 勢力を得る. 愛嬌ある. manners 行狀、態度. low born 賤しく生れた. sward 草地. nothing is does の object となり又 seems の complement とともなるもの. smack 香味. nothing...herself は自分より大なるものの香をさせる外に何もせず又それと見ゆる外には何ものでもなし即香をもさせ、それとも見ゆる意.

【譯】この村は僻陬な場所にあつて、そこには今も英國の古代の風習の痕跡が幾分残つてゐる。そこには田舎のお祭り〜A.C.と節節の遊戯などがあつた、而してその上昔はやつた五月祭さへ形ばかりは固守されてゐた。これ等は實に現代の僧のお蔭で段段盛んになつて來た、彼は古代の風習の愛護者であり、且つ自分の天職は世間に歡樂を多からしめ、人間に善心を富ましめることによつて全うすることが出來ると考へた飾り氣のない信者であつた。彼の誘掖のもとに五月棒といふものが年年村の芝生の眞ん中に建てられた；五月朔日にはそれが今でも昔のやうに澤山の花冠と旗とで飾られ五月祭の女

王を任命して、遊戯の監督、賞品や報酬の分配をさせたもんだ。此處の繪のやうに美しいのと、その鄙祭りの珍らしいのとは度々偶然通り合せたものの心を引いた。或る年の五月祭の日に、その中に、近頃附近に宿營した聯隊附の青年士官が一人ゐた。彼はこの村の美觀の凡べての點に行き渡つてゐる土地の趣味に心を動かされた；けれども、その中で五月祭女王の花なれば咲きそめんとする美しさには一層うつとりとした。それこそかの村の可愛がられものであつた、彼は花冠を頂き、娘らしい羞づかしさと嬉しさの交つた顔をして頬に紅色を染めて微笑むだ。田舎の作法の飾り氣のないのでじきに青年士官はその娘と知り合ひになつた；彼は段段親密の交りを求め、而して心ない風にて彼女に媚を呈した、これこそ若き士官などが、素朴なる田舎者を弄ぶに用ひがちの法である。

註 sequestered 僻陬の. spots 狭い場所. retain 保つ. restiges 痕跡. cu-tom 風習. festivals お祭り. holiday 節日、祭日. pastimes 娛樂、遊戯. kept up 固守する. faint 薄弱な. observance 尊守すること. popular 民衆の通俗の. popular rites of may 知れ渡つた五月祭(五月朔日の祭り). rites 儀式. promote 増進させる. mission 使命、天職. fulfilled 果たす. joy 歡樂. good-will 善心. mankind 人間. auspices 誘掖. May-

pole 五月棒, この日は花で飾つた棒を立て其周囲で舞踏をして美人の中から女王を選んで賞品などを與へる. May-day 五月朔日. decorated 飾つた. garlands 花冠, 花飾. streamers 旗, appointed 任命した. as in formertimes 昔日の如く. preside 監督する. sports 遊戯, 運動. distribute 寄贈する, 分配する. picturesque 繪のやうに美しい. situation 位置. fancifulness 珍奇. rustic 田舎の. fetes お祭り. attract 引く. casual 偶然の. regiment 聯隊. quartered 陣取る. neighbourhood 附近. taste 趣味. pervaded 貫通した. pageant 美観. dawning 開きかかる (本意は夜の明けそめる). favourite 可愛がられもの. crowned 冠を頂いた. blushing 頬を赤くすること. confusion 錯雜. girlish 乙めらしい. diffidence 羞づかしさ. delight うれしさ. artlessness 質朴なこと. habito 風習. enabled 出来た. acquaintance 知人. gradually だんだん. won 獲得した. intimacy 親密. paid his court 女の愛を求めること. are too apt to ややもすれば...せんとする. trifle 弄ぶ. rustic simplicity 田舎の素朴即ち素朴な田舎もの.

【譯】彼の口説には娘の心をさわがせたり驚かせたりする所は少しもなかつた. 彼は戀に就いては少しも語りさへもしなかつた: がその様子の身振りは言葉よりももつとよくものを言ひ、娘の心に鋭く堪へ難く通じた. 眼の光り、聲の調子、其他言葉といふ言葉、顔容といふ顔容、身振りといふ身振から生ずる幾多の優さしさ—これ等のものが戀の眞の言葉であつて、いつでも先方の心に感じ理解されない筈はない、が決

して言顯はすことの出来ないものである. して見ればそれらでもつて容易に若い、正直な、感じ易い心を迷はすことが出来たとて少しも怪むに足らないではないか? 乙女は殆んど無意識に戀した; 乙女は考へといふ考へ、感情といふ感情を吸収しつゝある所の日増しに募る情熱は何であるか、又其結果は如何なるであらうかを殆んど尋ねなかつた. 彼は實際未來のことは考へなかつた. 面と向つて居るときは、男の容貌、その言葉が彼の全精神を奪ひ; 離れて居るときは近頃兩人が會つたときに起つたことばかりを思つて見た. 彼はよく男と附近の緑の小徑や田舎の景色の中を彷徨ふたものだ. 彼は乙女の今まで氣が付かなかつた自然美を指して教へて遣つた; 彼は丁寧な上流社會の言葉で話した、而して小説や詩の魔力を乙女の耳に低語いた.

註 advances 開陳. startle 心をさわがす. alarm 驚き. modes 形式, 風. eloquent 雄辯. language 言葉. convey 通ずる. subtilly 微細に、鋭く. irresistibly 抵抗し難く. heart 心. beam 光り. emanate 發生する. word 言葉. action 身振り. understood 理解した. described 言顯はす. wonder 怪む. readily 容易に. guileless 誠實なる. susceptible 感じ易い. unconsciously 無意識に. as to her 彼女の方は. scarcely 殆んど...しな

つた. inquired 穿鑿した. growing 増大する. passion 情熱
 absorbing 心を傾ける. consequences 結果. occupied 占めた.
 recent 近頃の. interview 會見. wander 彷徨ふ. lanes 小徑.
 scenes 景色. vicinity 附近. polite 丁寧な. cultivated life 上
 流社會. breathed 低語した. witcheries 魔力. romance 小説.
 poetry 詩.

【譯】恐らく男女間にあつてこの潔白な乙女の愛情ほど純潔なものはないであらう。乙女の年若い戀人の華美な外形と彼の軍服のきらびやかなのとがその眼を引いたのかも知れない；けれどもそれが彼の心を迷はせたところのものではなかつた。乙女の愛著の念にはそのうちに崇拜の心が含まれて居た。乙女は彼を自分より優つた身分の人として見あげたのだ。彼は男と一所になつて居れば自然に文雅な詩的感想に打たれ、初めて自然界の美と偉大とを鋭く知覺するやうになつたのだ。彼は身分の尊卑や財産の多寡などを少しも念頭に措かなかつた；乙女の崇拜心を高めたのは、男の智識と態度と、其風采とが今まで彼の見慣れてゐる土臭い社會とは違つてゐる點であつた。乙女はいつも迷はされた耳をもつて嬉しさに言葉もなく、羞づかしさうに眼を伏せて男の物語りを聴き、頬に紅葉をちらして熱心の色を浮べる

のであつた；又時には彼は彼はおづおづと欽慕の視線を向けることがあつても、いつも、ちらとそれをはづし、而して自分の無價値なる思想に思ひ及んで顔を赧くしてためいきを洩らすのであつた。

註 sexes 男女兩性. pure 純潔な. innocent 潔白. gallant 華美な. figure 外見. youthful 年少の. admirer 戀人. splendour 光輝. military attire 軍服. captivated 迷はした. attachment 愛著. idolatry 崇拜. being 人間. superior order 立ち優つた身分. in his society 男の仲間になつて居れば. enthusiasm 熱心. delicate 文雅な. poetical 詩的. awakened 氣が付いた. keen 鋭き. perception 智覺. 通曉. grand 偉大なる. sordid 賤しき. distinctions 區別. rank 身分. fortune 財産. difference 差異. intellect 智識. demeanour 態度. manners 風采. accustomed 慣れた. elevated 高める. 鼓舞する. opinion 意存. listen 聴く. with charmed ear 迷はされた耳をもつて、耳も迷はされて. downcast 下を向きたる. mute 黙したる. delight 嬉しさ. cheek 頬. mantle 美しく擴がる. ventured 敢てする. shy 怯懦なる. 羞含む. glance 瞥見. timid 臆病なる. admiration 欽慕. quickly 手速く. withdrawn 取り去る. sigh ためいき. idea 思想. comparative 比較的. unworthiness 價値のなきこと.

【譯】乙女の戀人も同じく戀情の燃ゆるものがあつた；けれども彼の愛情にはもつと下劣な性質の感情が含まれて居た。彼は自分の浮氣から關係を作つたのである；彼は屢屢同僚の士

官が田舎娘を口説き落した事を誇るのを聞き、自分も敏腕家の名聲を博するに必要な何か功名をしようと考へたからである。けれども彼は餘りに血氣の熱情が溢れてゐた。彼の心は流浪の爲に乃至放縱な生活の爲めに、まだ充分に冷えた私慾のあるものとはされてゐなかつた。彼の心は乙女の心を燃さんと企てて、却てその焰の爲めに自分も亦情火に捕はれ；而して自分の地位に想ひ及んだときには眞に戀の奴となつて居た。

註 equally-同じく. impassioned 強く感動した. mingled 混る. coarser 女のに比べて下等な. begun 始める. connection 關係. levity 浮氣. boast 誇る. conquests 征服. triumph 勝利. necessary 必要. reputation 名聲. man of spirit 元氣のある男. full 餘りあること. fervour 切情. rendered 復した. sufficiently 充分. selfish 私慾. wandering 浮浪する. dissipated 放縱なる. flame 焰. sought 企てる. kindle 燃す 火する. aware 醒める.

【譯】彼は如何なる手段を執るべきか？ お定まりの障碍は此輕卒な戀にも絶間なく起つた。彼の社會的地位——爵位的交際を望むとの陋見——彼が高慢にして頑固な父親にかかつてゐると——此等が凡て結婚問題などには想ひ到らせなかつた：—けれども彼は一度此無垢な

くも優しい、かくも自分に信賴してゐる、乙女を見たときには、彼女の風采は潔く、其生涯には少しの瑕なく、其容貌には人懐しき謙讓が顯はれてゐるが如く思はれて、いかなる放肆の觀念もその前には畏縮するのであつた。彼は交際社會の人々の澤山の無情な例をたてに、自から冷淡にならうとし；又彼等が冷々として嘲笑すべき浮氣でもつて、女子の徳操を云云するのを聞いたのに倣つて、温き感情の光りを冷さんとしたけれども駄目であつた：乙女の前に行くとき彼女は常にその神聖な空氣の中には少しの悪い考も住むことの出来ない處女の純潔の不思議ではあるが而も動かすべからざる魔力によりて團まれて居つた。

註 old obstacles 昔からありふれた邪覺. incessantly 間斷なく. occur 起る. heedless 輕卒なる. attachment 愛着. rank 地位. prejudices 陋習. titled connection 自分が貴族なれば縁家も貴族なるべしとの卑見. dependence まだ獨立せず厄介になつてゐること. proud 高慢なる. unyielding 頑固なる. forbade 反對する. matrimony 結婚. confiding 信賴する. purity 純潔. blamelessness 無瑕. beseeching 人なつこき. modesty 謙讓. looks 容貌. awed down 畏縮した. licentious 放肆なる. in vain 無効. fortify 固める. heartless 無情なる. examples 例. men of fashion 交際社會の人. chill 冷す. glow 光り. generous 惠深き. sentiment 感情. derisive 嘲笑

すべき. female 婦女子. virtue 徳操. still 常に. surround 囲まれた. mysterious 不思議なる. impassive 動かすべからざる. virgins 乙女の. hallowed 神聖とする. sphere 範圍. guilty 罪悪なる.

【譯】大陸行きの命令が突然その聯隊に到達した一事は彼の心の混亂を極度に達せしめた。彼は少時^{しばし}の間非常に胸苦しい優柔不斷の有様であつた；彼は出發の日が目前に迫るまで、此の報知を乙女に知らせるのを躊躇した；然るに彼は或る夕方の散歩の際に遂に此の消息を乙女に知らせた。

註 sudden 突然の. arrival 到達. orders 命令. repair 回復する. 屢 赴く. continent 大陸. completed 完全せしむる. confusion 混亂. remained 残つた. for a short time しばしの間. state 状態. painful 苦痛ある. irresolution 優柔不斷. hesitated 躊躇した. communicate 報じた. tidings 報知消息. marching 進軍. at hand 間もなく. intelligence 報知. in the course of 進行中に. ramble 散歩.

【譯】乙女には離別の念などは未だ少しも起つてゐなかつた。それが一齊に彼女の歡喜の夢に突入した。彼女はそれを突然の制し難い災厄と考へて、頑是なく率直に泣いた。男は女を自分の胸に引寄せて、そのふつくらした頬を流れる涙の痕を吸ひ取つてやつた；男は女から拒絶もされなかつた。蓋し悲しさと可愛さとの混

じつた瞬間にはかかる愛著の情も淨められるものである。男は性來性急であつた；そこで自分の胸に明らかに凭れてゐる美人の姿や、女は自分の自由になると云ふ自信や、永久に彼女を失うと云ふ恐怖や、すべてのもので男の良心を壓倒せんとした——男は女にその家^{うち}を逃げ出せよ、而して自分の運命の侶^{とも}となれと思ひ切つて申込んだ。

註 parting 離別. broke in upon 突入すること. at once 一齊に. dream 夢. felicity 歡喜. insurmountable 制し難き. evil 災厄. wept 泣いた. guileless 仇氣なき. drew 引き寄せる. bosom 胸. soft 柔かき. meet with 會合する. repulse 拒絶する. moments 瞬間. mingled 混れる. sorrow 悲しみ. hallow 淨める. 神聖にする. caresses 愛撫. affection 感動愛情. impetuous 性急なる. sight 見ること. apparently 明かに. yielding 服従する. confidence 自信. dread 恐懼. losing 失ふ. for ever 永久に. conspired 隠謀を企てる. overwhelm 壓倒する. ventured 敢てする. propose 申込む. leave 去る. companion 侶に. fortunes 運命.

【譯】彼は女を陥れる業にかけては全くの初心者であつたので、自分の卑劣な行爲を思うて顔を赤くして口籠つた；しかし彼の思ひをかけた女は淨い心であつたので初めのうちは男の言葉の意味を解し兼ねた；而してなせ自分は故郷を去り兩親の住家を離れねばならないかと

怪んだ。遂に彼の言葉の真意が女の淨い胸に俄然映じたとき、その結果は惨憺たるものであつた。乙女は泣きもしなかつた——罵りもしなければ——一言の口もきかなかつた——けれども丁度毒蛇の口を逃れるやうに仰天戦慄して男の側を飛び去つて；男のその腦を刺し通すほどの憾みの一瞥を與へた；而して、死物狂ひで自分の手と手を掴み、のがれるやうに父の家に逃げて行つた。

註 novice 初心者. seduction 女を陥れること. blushed 羞しくて顔を赤くすること. faltered 口籠る. baseness 野鄙の行爲、不劣. innocent of mind 罪のない心. intended victim 是非我物に爲ようと企てられてその犠牲となつた女. at a loss 躊躇する. comprehend 理解する. meaning 言葉の意味. humble 賤しき. roof 往家. proposal 申出. flashed 俄然腦裡に映る. pure 淨い. effect 結果. withering 早魃が草木を枯らす様に有害であるの意. break forth 破裂する. reproach 非難する. shrunk 縮み上る. aghast 仰天して. viper 毒蛇. anguish 憾み. pierced 刺し通した. very 其の語の意味を強めるときに用ふ. clasping 掴む. in agony 死物狂ひで. fled 逃げ去つた. refuge 避難所. cottage 小家.

【譯】青年士官は血迷ひ、且つ恥ぢ、且つ後悔して、とぼとぼと歸つて行つた。若し彼の心が出發の混雜の爲めに紛らされなかつたら、煩悶の結果はどんなであつたらうか分らない。新らしい

光景や新らしい愉快や、新らしい友達は間もなく彼の良心の譴めを一掃し、その愛情を打ち消した；陣所の擾亂の間、堡寨の酒宴の間、軍隊の配置の間でも、而して戦闘の砲火の間でさへも彼の心は屢屢靜かな而して素朴な田舎の景色や——白聖の小さい家や——銀波の小川に沿ひ山楂子の籬に沿ふた小徑や、さては其小徑を彼の腕に凭れ、無心の戀にかがやく眼をして彼の話しを聞きながら散歩してゐる可憐な田舎乙女の上に馳せたのであつた。

註 retired 退去する. confounded 血迷ふた. humiliated 恥ぢた. repentant 後悔する. uncertain 不確か. result 結果. conflict 衝突. diverted 氣紛れさせる. bustle 混雜. dissipated 一掃した. self-reproach 良心の譴め. stifled 打ち消す. amidst 云々の中に. stir 擾亂. camps 陣所. revelries 賑かな酒宴. garrisons 堡寨. array 配置. armies 軍隊. din 砲などの強い音響. battle 戦闘. sometimes 屢々. steal back 盗みかへす(想ひかへず). quiet 閑靜. simplicity 素朴. footpath 細徑. brook 細流. hawthorn 山楂子. hedge 籬. maid 乙女. loitering 彷徨する. leaning 凭れる. beaming かがやく. unconscious 無意識の.

【譯】あはれな乙女がその理想界を破られて受けた心の打撃は、まことに惨酷の極みであつた。氣絶とヒステリイとは先づその纖弱な體格を壊し、やがて氣の晴れ間のない苦懊の憂鬱に成

功した。乙女は自分の部屋の窓から軍隊の進軍するのを熟視した。彼はそのつれない戀人が、凱旋のときのやうに太鼓の音や喇叭の響や美しい甲冑の飾の中に送られて行くのを見た。彼は男の姿が旭に輝かされ、その羽冠が微風に揺らぐのを、今が最後と切ない思ひで視詰めた。男はきらきらした幻影のやうに彼の眼界を去つた。而して彼は絶望の裡に残された。

註 shock 打撃. received 受けた. destruction 破壊. ideal world 理想界. cruel 惨酷な. faintings 氣絶. hysterics ヒステリー. shaken 振り倒す. tender 繊弱な. frame 體格. succeeded 成功した. settled 長くつゞく. pining 憔悴する. 苦懐する. melancholy 憂鬱. beheld 熟視する. window 窓. troops 軍隊. faithless 無情の. borne off = carried off もつて行かれる. triumph 凱旋. sound 響. drum 太鼓. trumpet 喇叭. pomp 美觀. arms 甲冑. strained 過勞させる. aching 苦痛の. gaze 視詰めること. glittered 輝く. figure 姿. plume 羽冠. wared 揺ぐ. breeze 微風. bright 灼然たる. vision 幻影.

【譯】その後の乙女の身の上について管々しく論ずるのは陳腐なことであらう。他の戀物語のやうに、これも悲哀のものであつた。彼は社會との交際を避け、自分の情人と一所に屢々往來した道を唯一人漫歩きするのであつた。彼は丁度手負をした鹿のやうに孤り悄然と泣き自分の心に苦痛を與へた悲しみの上に思ひ沈む

のであつた。彼が屢々村のお寺の門のそばに夕も更けた頃腰を下してゐるのが見られるのであつた；又野邊から歸つて来る田舎の乙女等は折折山楂子のつづいた道のほとりで彼が哀れな小曲を歌ふのを圖らず聞くことがあつた。彼は一心不亂に勤行するやうになつた；村の老人達は乙女が寒れてその上消耗熱の爲めに陰氣な顔色をして、その一體の風丰が憂愁の爲めに神神しさを加へて次第に近寄つて来るのを見たときには、彼等は無形の何物かに對するやうに彼の爲めに道を譲り、而して、その後ろ姿を見送つては、何か不吉なことの前兆として頭をふるのであつた。

註 trite 陳腐となつた. dwell (on or upon) 詳論する. particulars 細目. tales 断. avoided 避けた. society 社會. 交際. wandered 漫歩する. walks 道. alone 單獨に. frequented 屢々であつた. sought 欲する. stricken 傷つきたる. deer 鹿. silence 沈黙. 静肅. loneliness 孤獨. brood over 思ひに沈むこと. barbed 閉ぢた. 胸を痛める. rankled 苦痛を與へた. late 遅き. porch 門. milkmaids 田舎乙女のこと. overhear 圖らず聞く. now and then 折々. singing 歌を唱ふ. plaintive 悲哀の情を惹起する. ditty 小曲. fervent 熱心なる. devotions 一心不亂の信仰. approach 近づく. wasted away 漸消すること. hectic 消耗熱(肺病患者に往々見る様に熱で顔色などが赤みを帯びてゐること). gloom 憂鬱. diffuses 憂

延すること. form 風丰. make way for her 彼のために道を作る即ち道を譲ること. spiritual 靈魂の. shake 振る. gloomy 陰氣の. foreboding 前兆.

【譯】乙女は自分の身が墓場に急ぎつつあるのを つよく感じたけれども却て墓場を安逸の地として其處に赴くのを待つてゐた。現世に彼を 結束してゐた望みの綱は断たれた、而して最早 太陽のもとには何の楽しみもないやうに思はれた。曾ては彼の高尚な心裡に情人に對する 憤怨を懐いたけれども最早それは打ち消された； 彼は怒りの情を催すほどの氣力はなくなつた。 かくて突然に起つた切なる情の瞬間に於て、彼 は男に一通の離別の手紙を送つた。それは最 も率直な文字でものしてあつたがその飾りの ない所が却て人を感動させたのである。彼は 男に自分の死期の近づいたことをつげ、而して 男の素振がその原因であつたこともかくさす に記した。その上彼は自分が其後経験した苦 しみの數數をさへ描出した；そして彼は其終 りに書きつけた、彼が男に自分の宥恕を與へ而 して男の幸福を神に祈つた後でなければ自分 は平和の裡に死に就くことが出来ないといふ ことを。

註 conviction 眞理の確定. hastening 急ぐ. tomb 墓場. looked forward to 喜んで待つ. rest 安逸. silver 失望中に多少の 希望を屬すること. cord 綱(比喻的に用ひたる). bound 結束されたる. existence 人生. loosed 解く、脱す. seemed 如 し、らしい. pleasure 楽しみ. gentle 高尚なる. bosom 胸中、心 裡. entertained 心に懐ふた. resentment 憤怨. against 對す る. extinguished 消した. in capable of 無氣力の、行ひ得ざる angry 怒りの. passions 情(喜怒愛樂哀惡慾の七情を總稱す). saddened 突然の. penned 書く. farewell 離別の (good-bye と 區別すべし). couched=expressed 思ひを述べる. simples 率直なる. language 文字. touching 感動させる. dying 終 局に近き. conceal かくす. conduct 品行、素振. cause 原因. depicted 描寫する. sufferings 澤山の苦痛. experienced 経験 した. concluded 局を結んだ. until 何々するまでは、或は 何々するにあらざれば. forgiveness 宥恕. blessing 幸福を 神様に祈ること。

【譯】乙女の體力はだんだん衰へて來て、彼は最早 家の外へ出ることが出来なくなつた。彼は窓 のところへよろめきながらやつと行ける丈で その窓の側で椅子の中に身を埋め、終日坐つた まま野山の景色を眺めるのが彼の楽しみであ つた。けれども彼は決して怨みも言はなけれ ば、又自分の胸に喰ひ込む惱みを誰にも知らせ もしなかつた。彼は其戀人の姓名すら決して 告げることなく自分の頭を母親の胸に當てて 無言のまま泣いた。兩親は、口にこそ出さない